

取扱説明書

はじめの準備



電源の準備



電源の入れ方、切り方



ペダルを使う



ヘッドホンを使う

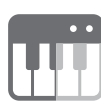
音を選んで弾く



音色を1つ選ぶ



2つの音色を重ねる
(レイヤー)



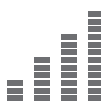
鍵盤を左右に分けて使う
(スプリット)

設定を登録する



セットアップを登録し再現する
(レジストレーション)

音の高さを変更する



音の高さを微調整する
(チューニング)



音の高さをオクターブ単位で
変更する(オクターブシフト)



鍵盤の音律(スケール
チューニング)を変える

スマートデバイスと接続する



スマートデバイスとリンクする
(APP機能)

エフェクトを活用する



サウンドモード(ホールシミュレー
ター/リバーブとサラウンド)を使う



DSPを使う



コーラスを使う



アコースティックピアノの音の特
徴を調整する(アコースティック
シミュレーター)

演奏をリアルタイムで記録する



MIDIレコーダーで演奏を
録音する



オーディオレコーダーで
演奏を録音する

自動伴奏とアルペジエーターを活用する



自動伴奏をバックに演奏する



アルペジオのフレーズを自動的に
鳴らす(アルペジエーター)

- 乾電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと乾電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用いただくか、音量を下げてください。

目次

本機の概要と使用前の準備	2
各部の名称	2
電源の準備	4
電源の入れ方、切り方	5
ペダルを使う	6
DAMPER PEDAL 端子	6
PEDAL UNIT 端子	6
EXPRESSION/ASSIGNABLE 端子	7
ヘッドホンを使う	8
共通の操作	9
タッチボタンの操作	9
FUNCTION モードのメニュー操作	11
文字の入力について	11
各種の操作	12
デモ演奏を聴く	12
音色を選んで弾く	12
音色を1つ選ぶ	12
2つの音色を重ねる(レイヤー)	13
鍵盤を左右に分けて使う(スプリット)	13
レイヤー、スプリット各パートの設定を変更する	14
鍵盤演奏パート全体の音量を調節する	15
鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス)	15
音の高さを変更する	16
半音単位で変更する(トランスポーズ)	16
音の高さを微調整する(チューニング)	17
音の高さをオクターブ単位で変更する (オクターブシフト)	17
サウンドモード(ホールシミュレーター/ リバーブとサラウンド)を使う	18
DSPを使う	19
コーラスを使う	21
ブリリアンスを調節する	21
アコースティックピアノの音の特徴を調整する (アコースティックシミュレーター)	21
ノブを使う	22
ピッチベンドホイールで音の高さを変える	23
アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす (アルペジエーター)	23
鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)	24
鍵盤の音律(スケールチューニング)を変える	26
自動伴奏をバックに演奏する	27
リズムを選ぶ	27
自動伴奏を鳴らす	27
自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)	28
コード入力鍵盤で自動伴奏を開始する (シンクロスタート)	29
鍵盤を使って伴奏パターンを操作する (鍵盤コントローラーモード)	29
コードの入力方法を選ぶ	30
おすすめの音色やテンポにする (ワンタッチプリセット)	31
メロディーの音に和音をつける (オートハーモナイズ)	31

自動伴奏や曲のテンポ(速さ)を変える	32
ミュージックプリセットを使う	33
セットアップを登録し再現する (レジストレーション)	34
セットアップの登録と呼び出し	35
セットアップをペダルで呼び出す (シーケンシャルペダルリコール)	36
MIDI レコーダーで演奏を録音する	37
演奏を録音・再生する	39
録音設定(プレカウント、メトロノーム、拍子、 パンチン小節)	41
MIDI レコーダー曲を消去する	41
オーディオレコーダーで演奏を録音する	42
曲を聴く(MIDI プレーヤー)	43
機能設定を変更する(FUNCTION モード)	45
オペレーションロック	50
MIDI 設定を変更する	50
本機に記録されているデータをまとめて消去する	51

USB メモリーを使用する	51
使用可能な USB メモリー	51
USB メモリーと USB メモリー端子の 取り扱い上のご注意	52
USB メモリーを本機に装着する、 USB メモリーを本機から取り外す	52
USB メモリーをフォーマットする	53
USB メモリーの各種操作	53
一般の曲データをパソコンで USB メモリーにコピーする	56
一般のオーディオデータ(WAV ファイル)を USB メモリーに保存する	56

スマートデバイスとリンクする(APP 機能)	56
-------------------------------	-----------

困ったときは	57
エラー表示一覧	59

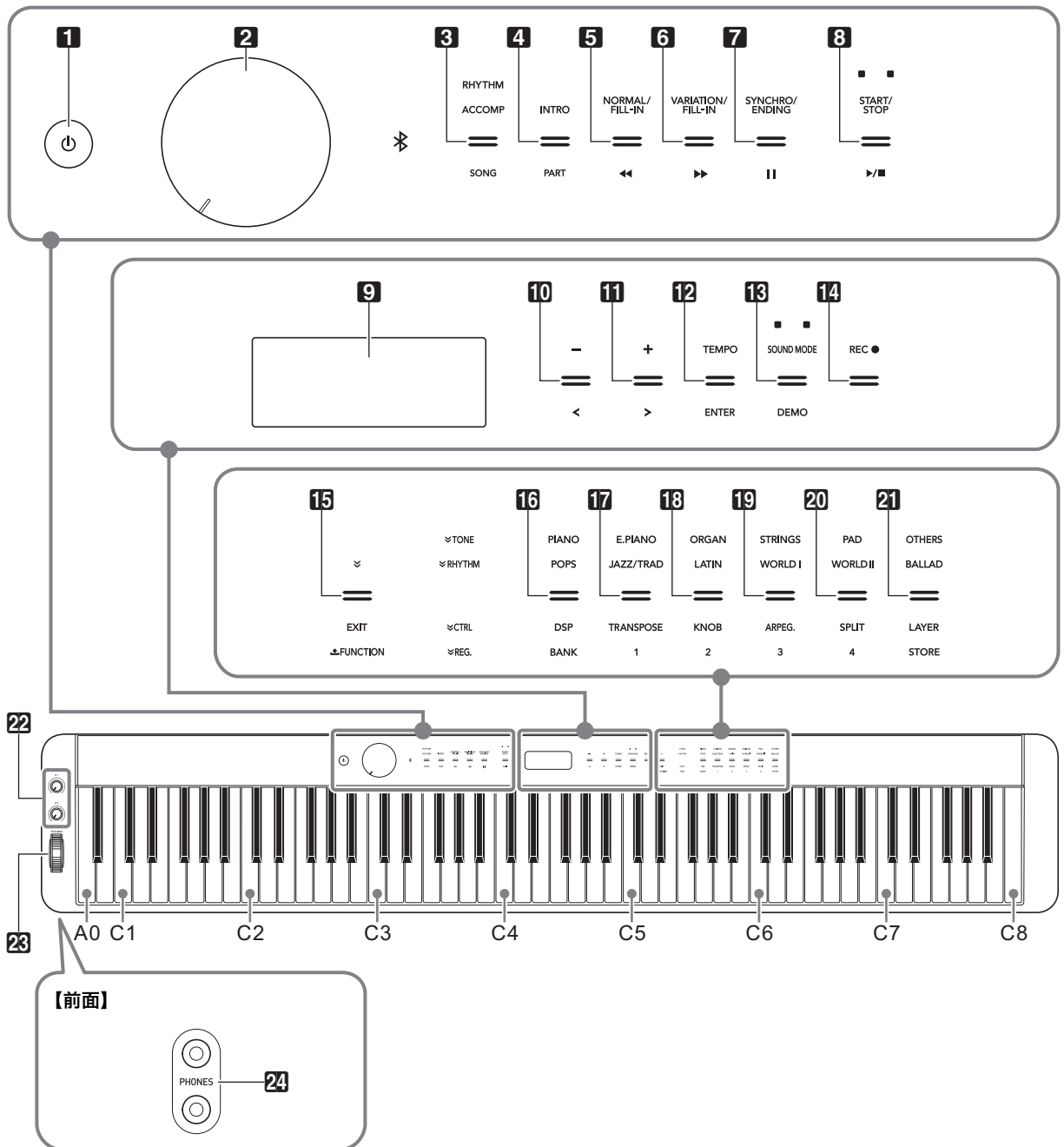
資料	60
製品仕様	60
指定できるコード種一覧	62
コード例一覧	64
バーサタイルトーンマップ	66
ノブセットリスト	67
DSP リスト	68
プリセット DSP リスト	68
DSP モジュールリスト	70
DSP パラメーターリスト	71

MIDI インプリメンテーション・チャート	
------------------------------	--

本機の概要と使用前の準備

各部の名称

■フロントパネル



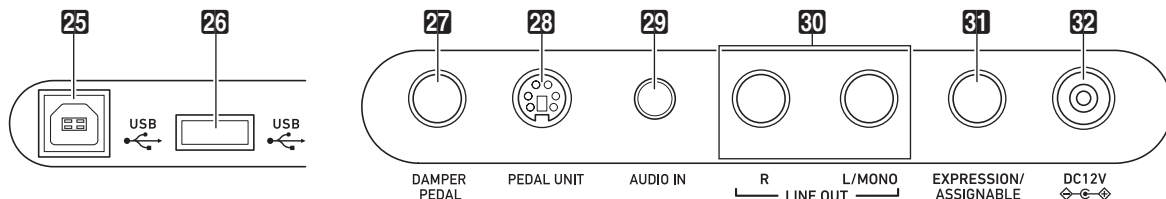
タッチボタンについて

1 (電源) ボタンを除くボタンは、電源を入れると点灯するタッチボタンです。上記のイラストは、すべてのボタンと文字が点灯した状態を示しています。実際には、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯(または点滅)します。

- 1 電源 ボタン
- 2 音量つまみ
- 3 モード選択ボタン (RHYTHM、ACCOMP、
SONG)
- 4 INTRO、PARTボタン
- 5 NORMAL/FILL-IN、◀ボタン
- 6 VARIATION/FILL-IN、▶▶ボタン
- 7 SYNCHRO/ENDING、|| ボタン
- 8 START/STOP、▶/■ ボタン
- 9 液晶画面
- 10 -、< ボタン
- 11 +、> ボタン
- 12 TEMPO、ENTERボタン
- 13 SOUND MODE、DEMOボタン

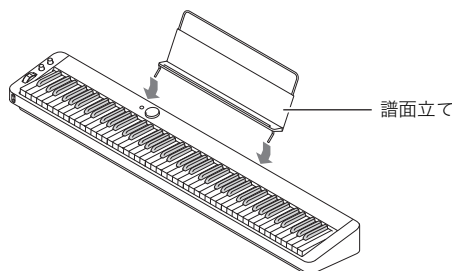
- 14 録音 REC● ボタン
- 15 選択 戻る ファンクション V、EXIT、↓ FUNCTIONボタン
- 16～21 トーン リズム TONEカテゴリー、RHYTHMカテゴリーボタン
- 16 ディーエスビー バンク DSP、BANKボタン
- 17 トランスポーズ TRANSPOSE、エリア1ボタン
- 18 ノブ KNOB、エリア2ボタン
- 19 アルペジエーター ARPEG、エリア3ボタン
- 20 スプリット SPLIT、エリア4ボタン
- 21 レイヤー ストア LAYER、STOREボタン
- 22 ノブ (K1)、ノブ (K2)
- 23 ピッチベンド PITCH BENDホイール
- 24 ホンズ PHONES端子

■背面端子部



- 25 ユーエスビー USB 端子
- 26 ユーエスビー USB メモリー端子
- 27 ダンパーペダル DAMPER PEDAL端子
- 28 ペダルユニット PEDAL UNIT端子
- 29 オーディオ入力 AUDIO IN端子
- 30 ラインアウト LINE OUT R、L/MONO端子
- 31 エクスプレッション/アサインابل EXPRESSION/ASSIGNABLE端子
- 32 電源端子 (DC 12V)

■譜面立ての準備



本書の内容について

- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書のイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

電源の準備

本機は電源としてACアダプターを使用します。



- 電源として乾電池もご使用いただけますが、基本的にはACアダプターのご使用をおすすめします。

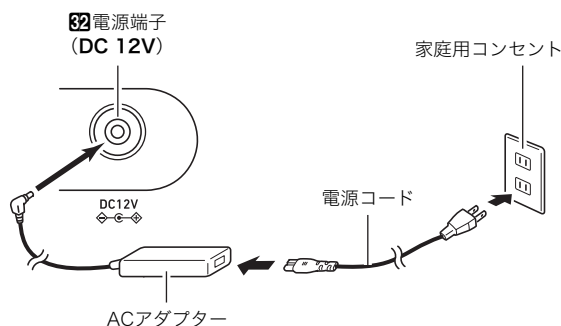
■ACアダプターを使う

本機指定のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)を使用してください。他のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

ACアダプターの型式: AD-A12150LW

(JEITA Standard plug)

ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。



❗重要

- 本機付属のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプターを差したり抜いたりする前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 長時間ご使用になりますとACアダプターが若干熱をもちますが、故障ではありません。

■乾電池を使う

❗重要

- 乾電池を入れる前に、必ず本機の電源を切ってください。
- 乾電池は市販のアルカリ乾電池をご使用ください。
- 乾電池を入れるために本機を裏返すときは、次のことにご注意ください。
 - 一本機の下に手を挟まないようご注意ください。けがの原因となります。
 - 不用意に倒すなどして、本機に衝撃を与えないでください。音量つまみや鍵盤が破損する原因となります。

1. 本機の裏側にある電池ボタンをはずします。
2. 市販の単3形乾電池、6本を電池ケースに入れます。本体の印に合わせて⊕⊖の向きを間違えないように入れてください。
3. 電池ケースの穴にツメを差し込み、電池ケースのフタを閉じます。

■乾電池交換時期のお知らせ表示

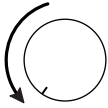
乾電池が消耗してくると、液晶画面に“LOW BATTERY”と点滅表示されます。新しい乾電池と交換してください。

❗重要

- 電池が消耗したまま本機の使用を続けると、突然電源が切れることがあります。この場合、本機に記録しているデータが破損・消失する恐れがあります。

電源の入れ方、切り方

1. 電源を入れる前に、**2** 音量つまみを下図の位置まで回しておきます。



2. **1** 電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。

電源が入ると、液晶画面に“Welcome”と表示されます。この表示が消えて音色名の表示に切り替わったら、本機が使用できる状態になります。

- 電源を入れる際は、**1** 電源ボタンを押してから本機が使用できる状態になる(音色名表示に切り替わる)まで、ペダルを踏まないでください。
- **1** 電源ボタンを軽く押しても電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。その場合は**1** 電源ボタンをしっかりと押し直してください。

3. **2** 音量つまみを使って、音量を調節します。

4. 本機の電源を切るには、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで、**1** 電源ボタンを押し続けます。



- **1** 電源ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。
- 本機の電源を切ると、音色番号などの各種設定が初期化されます。オートレジュームをオンにしておくと、電源を切ってもほとんどの設定が保持されます。
- オートレジュームがオフのときは、本機の電源を切ると各種設定が初期化されますが、下記の設定は保持されます。
チューニング、LCDコントラスト、ペアリング情報
(Bluetooth接続履歴)、エクスプレッション/アサインابلペダルのタイプ、エクスプレッション/アサインابلペダルのキャリブレーション、タッチボタン感度

■電源切り忘れお知らせ機能について

本機をACアダプターに接続して使用しており、何も操作せずに約6分間が経過すると、タッチボタンが順番に点灯と消灯を繰り返して、本機の電源が入ったままになっていることをお知らせします。

ボタンにタッチしたり鍵盤を押したりするなど、何らかの操作をすると、通常の状態に復帰します。電源を切り忘れていた場合は、液晶表示部に“Bye”と表示されるまで**1** 電源ボタンを押し続けて、本機の電源を切ってください。



- FUNCTIONパラメーター107番の“Power On Alert”を使って、「電源切り忘れお知らせ」が働くか、働かないかを切り替えることができます。FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。
- 本機を乾電池で使用している場合は、何も操作せずに約6分間が経過すると自動的に電源が切れます(5ページ「オートパワーオフ機能」)。

■液晶画面のコントラストを調整するには

FUNCTIONパラメーター109番の“LCD Contrast”を使って調節します。FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■ボタン操作のロックについて

演奏中の誤操作を防ぐために、ボタン操作が効かないようにすることができます(オペレーションロック)。詳しくは、50ページ「オペレーションロック」をご参照ください。

■本機を工場出荷時の状態に戻すには

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。詳しくは51ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)」をご参照ください。

■オートパワーオフ機能

本機を何も操作せずに一定時間が経過すると、無駄な電力消費を防ぐため自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、約4時間(ACアダプター使用時)/6分(電池使用時)です。



- コンサートなどで演奏の合間に電源が切れないよう、オートパワーオフ機能を無効にすることができます。オートパワーオフを無効にするには、FUNCTIONパラメーター106番の“Auto Power Off”を“Off”にします。FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

ペダルを使う

本機はペダル接続用に3つの端子を備えています。

端子	接続可能なペダル
27 DAMPER PEDAL	スイッチタイプペダル※1
28 PEDAL UNIT	別売品のペダルユニットSP-34 (ダンパー、ソフト、ソステヌートの3本ペダルです)
31 EXPRESSION/ ASSIGNABLE	スイッチタイプペダル※1、エクス プレッションペダル※2

※1 付属のペダル (SP-3)、または別売品の弊社製サステインペダルです。

※2 7ページ「ペダルのタイプを選ぶには」をご参照ください。

メモ

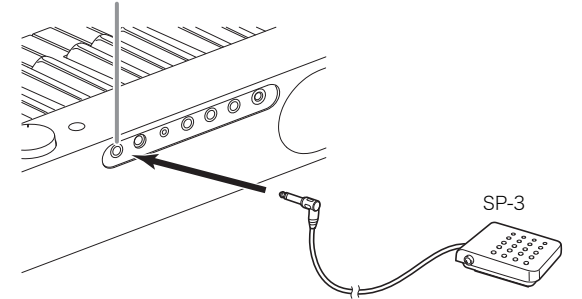
- 27 DAMPER PEDAL端子、31 EXPRESSION/ASSIGNABLE端子、28 PEDAL UNIT端子に接続したペダルは、すべて同時に利用できます。
- ペダルを使って、レジストレーションのセットアップを切り替えることも可能です。詳細は、36ページ「セットアップをペダルで呼び出す(シーケンシャルペダルリコール)」をご参照ください。

DAMPER PEDAL端子

付属のペダル (SP-3) を 27 DAMPER PEDAL端子に接続します。

【背面部】

27 DAMPER PEDAL端子 (標準ジャック)



■DAMPER PEDAL端子に接続したペダルの機能を切り替えるには

FUNCTIONパラメーター36番の“Pedal Target”を、下記設定の間で切り替えます。

設定値 (表示)	説明
Sustain	演奏中にペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。オルガンなど、鍵盤を押している間音が持続する音色では、ペダルを踏んでいる間、音が鳴り続けます。
Sostenuto	ペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。
Soft	ペダルを踏んでいる間に弾いた音が若干小さくなることに加え、音が柔らかく聴こえる効果が得られます。
Arpeggio Hold	アルペジエーター機能 (23ページ) がオンのとき、ペダルを踏んでいる間は、アルペジオホールドが有効になります。
Play/Stop	8 ▶/■ と同じ働きをします。
Fill-in	自動伴奏が鳴っているときにペダルを踏むと、フィルインが再生されます。

- FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する (FUNCTIONモード)」をご参照ください。

PEDAL UNIT端子

28 PEDAL UNIT端子には、別売のペダルユニット (SP-34) を接続してご利用ください。よりグランドピアノに近い、表現力豊かなペダル演奏が楽しめます。

【SP-34のペダル機能】

● ダンパーペダル

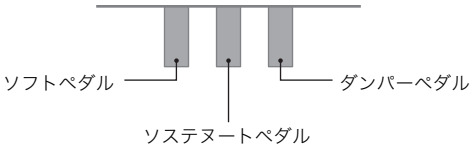
演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。ペダルを途中で踏んで浅く効果をかける「ハーフペダル」にも対応します。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聴こえる効果が得られます。

● ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。



EXPRESSION/ASSIGNABLE端子

81 EXPRESSION/ASSIGNABLE端子には、市販のエクспRESSIONペダルまたは弊社製サステインペダル(付属のSP-3または別売品)を接続します。
接続するペダルに応じて、下記の操作を実行してください。

ペダルのタイプ	操作
スイッチタイプペダル	(1) 7ページ「ペダルのタイプを選ぶには」で、“SW”を選ぶ。 (2) 7ページ「ペダルの機能を選ぶには」で、スイッチタイプペダル用の設定値を選ぶ。
エクспRESSIONペダル	(1) 7ページ「ペダルのタイプを選ぶには」で、接続したペダルに合った極性タイプを選ぶ。 (2) 7ページ「ペダルの機能を選ぶには」で、エクспRESSIONペダルの設定値を選ぶ。 (3) 8ページ「エクспRESSIONペダルのキャリブレーション」を実行する。

■対応エクспRESSIONペダル

- エクспRESSIONペダルは、最大抵抗値が、10kΩ±20%～50kΩ±20%の範囲のものをご使用ください。
- 動作確認品(下記)の使用をおすすめします。

動作確認済みペダル(極性タイプ2)


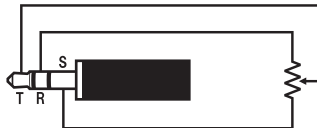
Roland EV-5 (「ミニマム・ボリューム」を“0”に設定してください。)

KURZWEIL CC-1

FATAR VP-25, VP-26

■ペダルのタイプを選ぶには

FUNCTIONパラメーター41番の“Pedal Type”を使って、下記設定値のいずれかを選びます。

設定値(表示)	説明
SW	スイッチタイプペダル(弊社製サステインペダル)を接続する場合に選択します。
Exp.Type1	極性タイプ1(下図)のエクспRESSIONペダルを接続する場合に選択します。 
Exp.Type2	極性タイプ2(下図)のエクспRESSIONペダルを接続する場合に選択します。 

- エクспRESSIONペダルの極性タイプは、メーカーによって異なります。エクспRESSIONペダルを接続する場合は、ペダルの極性タイプに合わせて、“Exp.Type1”または“Exp.Type2”を選んでください。
- FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■ペダルの機能を選ぶには

FUNCTIONパラメーター42番の“Pedal Target”を使って、下記設定値のいずれかを選びます。設定値の“Expression”～“Layer Balance”はエクспRESSIONペダルに、設定値の“Sustain”～“Fill-in”はスイッチタイプペダル(弊社製サステインペダル)に適しています。

設定値(表示)	説明
Expression	エクспRESSION(MIDI Control Changeの11番)を制御します。
Master Volume	音量を制御します。
Tempo	テンポを制御します。
Layer Balance	Upper1パートとUpper2パートの音量バランスを制御します。
Sustain	6ページ「DAMPER PEDAL端子に接続したペダルの機能を切り替えるには」の“Sustain”～“Fill-in”と同じです。
Sostenuto	
Soft	
Arpeggio Hold	
Play/Stop	
Fill-in	

- FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■エクスプレッションペダルのキャリブレーション

31EXPRESSION/ASSIGNABLE端子にエクスプレッションペダルを接続する場合、初回接続時に下記操作でキャリブレーション(調整)を実施します。

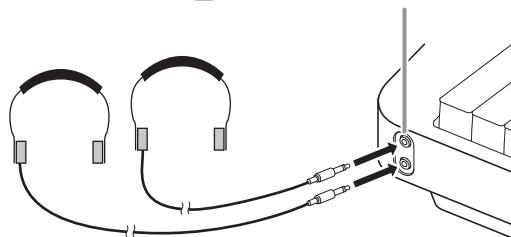
1. **31**EXPRESSION/ASSIGNABLE端子にエクスプレッションペダルを接続します。
2. **15** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
3. **10** **<**、**11** **>**を使って“PEDAL/WHEEL”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
4. **10** **<**、**11** **>**を使って“EXP/ASGN PEDAL”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
5. **10** **<**、**11** **>**を使って“Exp Calibration”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。操作をキャンセルするには、ここで**10** **-**にタッチします。
6. キャリブレーションを開始するには、**11** **+**にタッチします。
7. “Highest”と表示されたら、エクスプレッションペダルを奥側(最大側)に止まるまで押し下げ、**12** **ENTER**にタッチします。
8. “Lowest”と表示されたら、エクスプレッションペダルを手前側(最小側)に止まるまで押し下げ、**12** **ENTER**にタッチします。
正常にキャリブレーションが完了すると、“Complete”と表示されます。
9. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンを使用すると内蔵スピーカーから音が出なくなり、夜間でも周囲に気兼ねなく演奏が楽しめます。

- 本機の音量を絞ってから、ヘッドホンを接続してください。

24PHONES端子(ステレオミニジャック)



メモ

- ヘッドホンは本製品に付属されておりません。
- 別売または市販のヘッドホンがご使用になれます。

重要

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。
聴覚障害になる恐れがあります。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。

■ヘッドホン接続中でもスピーカーから音を出すには

FUNCTIONパラメーター104番の“Speaker Out”を“On”にすると、PHONES端子にプラグが差し込まれていても、スピーカーから音が出るようになります。FUNCTION/パラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

共通の操作

❗ 重要

- 本書中の操作手順は、特に断りがなければ、本機の電源を入れた直後の状態から操作を開始することが前提となっています。操作がうまくいかないと感じたときは、いったん本機の電源を切り、電源を入れ直すことをおすすめします。
- 何らかの操作の途中で本機の電源を切ると、未保存のデータは消失します。

タッチボタンの操作

本機の電源を入れると、タッチボタンが点灯します。

- ボタンやその上下の文字の点灯状態は、本機の状態に応じて変化します。例えば電源を入れた直後は、本機はRHYTHMモード※1になり、液晶画面の左側では下記のボタンと文字が点灯します。



- 3 モード選択ボタンに2回タッチしてSONGモード※1に切り替えると、点灯状態が下記に切り替わります。



このように、その時々で利用可能なボタンと、ボタンの機能を表す文字だけが、点灯(または点滅)します。

※1 これらのモードについては、10ページ「モード選択ボタンについて」をご参照ください。

※2 本書中のイラストでは、ボタン上下の点灯していない文字をグレーで、点灯している文字を黒で表しています。

❗ 重要

- タッチボタンを操作するときは、素手の指でしっかりタッチしてください。手袋をした指には反応しません。
- タッチボタンが反応しない場合は、下記の操作を実行してください。下記操作により、タッチボタンの感度が高めに設定されます。
 - (1) 本機の電源をいったん切る。
 - (2) C8鍵盤(右端の鍵盤)を押したまま離さずに、**1** **1** (電源)ボタンを押す。
 - C8鍵盤は、液晶画面に“Welcome”と表示されるまで、離さないでください。**1** **1** (電源)ボタンは離して構いません。

■ タッチボタンの感度設定について

FUNCTION/パラメーター110番の“Touch Btn Sense”を使って、タッチボタンの感度を調節することが可能です。FUNCTION/パラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■モード選択ボタンについて

本機には、下記3つの動作モードがあります。

RHYTHMモード: 本機のもっとも基本的な動作モードで、通常の鍵盤演奏をはじめ、ほとんどの操作はこのモードで実行します。

ACCOMPモード: コードを伴った自動伴奏を鳴らすための動作モードです (27ページ「自動伴奏をバックに演奏する」を参照)。

SONGモード: 曲を再生するための動作モードです (43ページ「曲を聴く (MIDIプレーヤー)」を参照)。

3 モード選択ボタンにタッチするたびに、これら3つの動作モードの間で切り替わります。

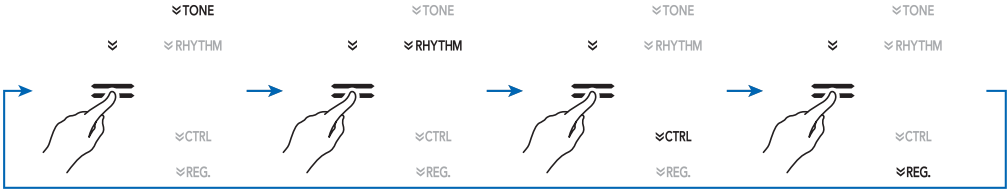


ボタンの上または下に、現在の動作モード名が点灯します。その他の動作モード名は表示されません。

■Vボタンについて

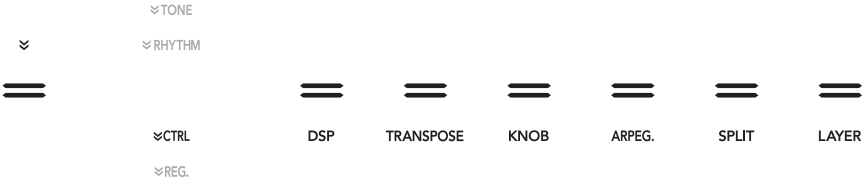
本機フロントパネルの右端6つのボタン (16～21) は、ボタンの機能を4通りから選んで使います。これら6つのボタンの機能を切り替えるには、15 V ボタンにタッチします。

15 V ボタンにタッチするたびに、ボタン右側の機能名の点灯状態が下図のように切り替わります。



この機能名を点灯させると:	16～21 ボタンに下記の機能が割り当てられる:
TONE	音色のカテゴリー選択 (12ページ)
RHYTHM	リズムのカテゴリー選択 (27ページ)
CTRL	DSP選択 (19ページ)、トランスポーズ (16ページ)、ノブセット切り替え (22ページ)、アルペジエーター (23ページ) / オートハーモナイズ (31ページ)、スプリットとレイヤーの設定変更 (14ページ)
REG.	レジストレーション機能 (34ページ)

例: 機能として“CTRL”を選んだときの16～21 ボタン



■タッチボタンの自動消灯 (パネル消灯設定) について

省電力のため、一定時間ボタン操作をしなかったときに、3 モード選択ボタンを除くボタンを自動的に消灯させる設定が可能です。FUNCTION/パラメーター 102 番の“Panel Light”を使って、消灯するまでの時間 (秒数) を指定したり、消灯しない設定 (初期設定) にしたりできます。FUNCTION/パラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する (FUNCTIONモード)」をご参照ください。



- タッチボタンが自動消灯した後で再び点灯させるには、3 モード選択ボタンにタッチします。
- ACアダプターを使わずに乾電池だけで本機の電源を入れた場合、乾電池の持続時間を長くするために、パネル消灯設定がいったん強制的に60秒に設定されます。必要に応じて、パネル消灯設定を変更してください。
- 一度電源を切り、ACアダプターを接続してから電源を入れなおすと、パネル消灯設定がオフに設定されます (オートレジュームの設定がオフの場合)。

FUNCTIONモードのメニュー操作

本機では多くの設定操作を、FUNCTIONモードのメニューを使って実施します。設定対象のメニュー項目(パラメーター)を選ぶ操作を、本書では次のように表記します。

【表記例】

1. **15** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。

[FUNCTION]
< SOUND >

2. **10**<、**11**>を使って“KEYBOARD”→“Touch Response”の順にメニューを選択します。

[FUNCTION]
Touch Response
- Normal +

上記の手順2は、具体的には下記のように操作します。

- 2-1. **10**<、**11**>を使って“KEYBOARD”を表示し、**12**ENTERにタッチします。
- 2-2. **10**<、**11**>を使って“Touch Response”を表示し、**12**ENTERにタッチします。

FUNCTIONモードのメニュー構成や操作についての詳細は、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。



- FUNCTIONモードでは、いつでも“[FUNCTION]”の表示が消えるまで**15**EXITを押さえ続けることで、FUNCTIONモードから抜けることができます。

文字の入力について

USBメモリーにデータを保存するときなどは、下記の操作で文字を入力します。

■文字を変更するには

1. **10**<、**11**>を使って変更したい文字にカーソルを移動し、**12**ENTERにタッチします。
文字編集モードに入ります。
2. **10**−、**11**+または**22**ノブ(K1)を使って、文字を変更します。
3. 変更後の文字を確定するには、**12**ENTERにタッチします。
文字編集モードから抜けます。

■文字を挿入するには

1. **10**<、**11**>を使って、変更したい位置にカーソルを移動します。
2. **18**エリア2にタッチします。
カーソル位置に“A”が挿入され、文字編集モードに入ります。
 - この状態で、挿入された“A”を別の文字に変更できます。上記「文字を変更するには」の手順2以降を実行してください。

■文字を削除するには

1. **10**<、**11**>を使って、削除したい文字にカーソルを移動します。
2. **17**エリア1にタッチします。

■編集後の文字列全体を確定するには

1. **21**STOREにタッチします。

■入力可能な文字一覧

USBメモリーにファイルを保存する際に入力可能な文字は、下表のとおりです。

	!	#	\$	%	&	'	()	+	,	-	.
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	;	=	@
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[]	^	_	`	a	b	c	d	e	f	g	h
i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	u
v	w	x	y	z	{	}	~					

- USBメモリーにファイルを保存する際の文字数は、最大231文字です。
- FAT32でフォーマットされたUSBメモリーでは、入力できる文字が一部制限されます。

各種の操作

デモ演奏を聴く

下記操作で、6曲の内蔵デモ曲を連続再生できます。

1. **15** **▽**を押さえ続け、**13** **DEMO**ボタンの“DEMO”の文字が点滅したら離します。
2. **13** **DEMO**にタッチします。
13 **DEMO** (ボタンおよび“DEMO”の文字) が消灯し、デモ演奏の待機状態になります。
液晶画面には、“1: Demo Song”と表示されます。
 - **10** **-**、**11** **+**を使って、曲を切り替えることができます。この操作は、再生中も可能です。
3. デモ演奏を開始するには、**8** **▶**/■または**12** **ENTER**にタッチします。
 - この後**8** **▶**/■または**12** **ENTER**にタッチするたびに、デモ演奏が停止、または再開されます。
4. デモ演奏の待機状態から抜けるには、**15** **EXIT**にタッチします。



- **オートパワーオフ機能(5ページ)**が有効なときは、デモ演奏中でも一定時間で電源が切れます。

音色を選んで弾く

本機には、数多くの音色が用意されています。好きな音色を選んで弾いてみましょう。

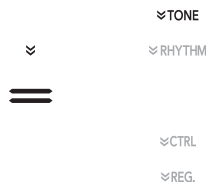
音色を1つ選ぶ

■音色のカテゴリーについて

本機の音色は、**16**～**21** **TONE**カテゴリーボタンで直接選ぶことができる6つのカテゴリーに分かれています。これら6つのカテゴリーは、それぞれ複数のサブカテゴリーに分かれており、同じ**TONE**カテゴリーボタンにタッチするたびに、順次サブカテゴリーを切り替えることができます。
音色のカテゴリーやサブカテゴリー、および各カテゴリーに含まれる音色名について詳しくは、別紙「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

■音色を選ぶには

1. **15** **▽**を使って、ボタンの右に“**▽TONE**”を点灯させます。



液晶画面に、現在選択されている音色のカテゴリー名と音色名が表示されます。



2. **16**～**21** **TONE**カテゴリーボタンを使って、音色のカテゴリーを選びます。
 - **TONE**カテゴリーボタンの1つにタッチすると、タッチしたボタンのカテゴリーで前回最後に選択した音色に切り替わります。
 - 現在のカテゴリーと同じ**TONE**カテゴリーボタンにタッチするたびに、サブカテゴリー先頭の音色に順次切り替わります。
3. **10** **-**、**11** **+**を使って、音色を選びます。
 - **10** **-**と**11** **+**に同時にタッチすると、現在のカテゴリー先頭の音色に切り替わります。

■ギター音色について

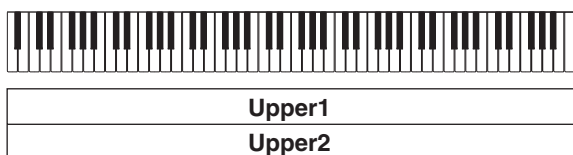
本機が内蔵しているギター音色は、サウンド(音高や強弱)によってはストラムノイズなどの効果音が含まれることがあります。

■バーサタイルトーンについて

本機の内蔵音色の中には、DTM(デスクトップミュージック)のために用意された「バーサタイルトーン」(ギター3音色、ベース2音色、ブラス2音色)が含まれています。バーサタイルトーンでは、特定の鍵盤(音名)およびペロシティーに対して、楽器のさまざまな奏法によるサウンド(例えばギターのグリッサンドやフレットノイズなど)が割り当てられています。各バーサタイルトーンの音名とペロシティーに対するサウンド割り当ては、**66ページ**「バーサタイルトーンマップ」をご参照ください。

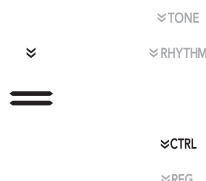
2つの音色を重ねる(レイヤー)

2つの音色を同時に鳴らすことができます。音色を重ねることから、この使い方を「レイヤー」と呼び、重ねる側の音色を「Upper2パートの音色」(以下「Upper2音色」)と呼びます。レイヤーを使うときのもう一方の音色は、「Upper1パートの音色」(以下「Upper1音色」)と呼びます。



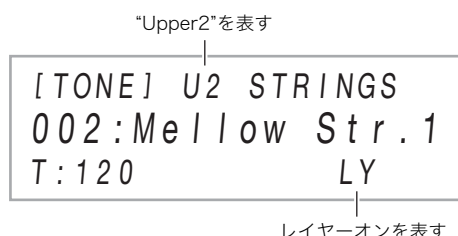
■レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らすには

1. 12ページ「音色を選ぶには」の操作で、Upper1音色を選びます。
2. 15Vを使って、ボタンの右に“VCTRL”を点灯させます。



3. 21LAYERにタッチして液晶画面に“LY”を表示し、レイヤーをオンに切り替えます。

4. 15Vを使ってボタンの右に“VTONE”を点灯させ、12ページ「音色を選ぶには」の操作でUpper2音色を選びます。



- Upper1パート、Upper2パートそれぞれの音量調節など、パートごとの設定を変更できます。詳しくは、14ページ「レイヤー、スプリット各パートの設定を変更する」をご参照ください。

■レイヤーをオフにするには

1. 15Vを使って、ボタンの右に“VCTRL”を点灯させます。
2. 21LAYERにタッチして、液晶画面の“LY”を消します。

鍵盤を左右に分けて使う(スプリット)

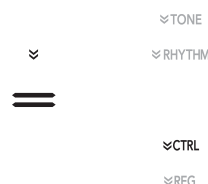
鍵盤の低音部と高音部で、それぞれ別の音を鳴らすことができます。鍵盤全体を左右に分けることから、この使い方を「スプリット」と呼び、低音部の音色を「Lowerパートの音色」(以下「Lower音色」)と呼びます。高音部の音色は、「Upper1音色」および「Upper2音色」と呼びます (Upper2音色はレイヤー併用時のみ)。



初期設定では、高音部の最低音(スプリットポイントと呼びます)はF#3です。

■鍵盤の高音域と低音域で音色を変えるには

1. 12ページ「音色を選ぶには」の操作で、高音部の音色(Upper1音色)を選びます。
2. 15Vを使って、ボタンの右に“VCTRL”を点灯させます。



3. 20SPLITにタッチして液晶画面に“SP”を表示し、スプリットをオンに切り替えます。

4. 15Vを使ってボタンの右に“VTONE”を点灯させ、12ページ「音色を選ぶには」の操作でLower音色を選びます。



- スプリットとレイヤーを同時に使うには、13ページ「レイヤーを使って2音色を重ねて鳴らすには」の操作に続いて、上記の操作の手順2~4を実行します。
- Lowerパート、Upper1パート、Upper2パートそれぞれの音量調節など、パートごとの設定を変更できます。詳しくは、14ページ「レイヤー、スプリット各パートの設定を変更する」をご参照ください。

■スプリットポイントを変更するには

1. **15** **V**を使って、ボタンの右に“**V**CTRL”を点灯させます。
2. **20** **SPLIT**を押さえたまま、高音部の最低音(スプリットポイント)にしたい鍵盤を押します。

[CTRL] KNOB
01 : Filter
SP. POINT: F3 | F#3

スプリットポイントの音名

3. **20** **SPLIT**を離します。
スプリットポイントが設定されます。

■スプリットをオフにするには

1. **15** **V**を使って、ボタンの右に“**V**CTRL”を点灯させます。
2. **20** **SPLIT**にタッチして、液晶画面の“SP”を消します。

レイヤー、スプリット各パートの設定を変更する

Upper1、Upper2、Lowerの各パート個別に、音量、オクターブシフト、チューニングの設定が変更できます。また、ペダルや**23** **PITCH BEND**ホイールの操作による効果が各パートにかかるか、かからないかを切り替えることが可能です。

■各パートの音量、オクターブシフト、チューニングの設定を変更するには

FUNCTIONパラメーター**14**番(PART VOLUME)、**18**番(PART OCT SHIFT)、**22**番(PART FINE TUNE)を使います。FUNCTIONパラメーターについては、**45ページ**「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

パラメーター名 (表示)	設定値 (表示)	説明
PART VOLUME → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	0~127	各パートの音量を調節します。
PART OCT SHIFT → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	-2~+2	各パートのオクターブシフト量を設定します。
PART FINE TUNE → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	-99~+99	各パートの音の高さを、1セント単位で微調整します。

■各パートに対するペダル操作、ピッチベンドホイール操作の有効/無効を切り替えるには

FUNCTIONパラメーター**35**番(DAMPER PEDAL)、**40**番(EXP/ASGN PEDAL)、**47**番(PEDAL UNIT)、**51**番(WHEEL)を使います。FUNCTIONパラメーターについては、**45ページ**「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

パラメーター名 (表示)	設定値 (表示)	説明
PEDAL UNIT → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	On, Off	28 PEDAL UNIT 端子に接続した3本ペダルの効果が各パートにかかるか、かからないかを指定します。
DAMPER PEDAL → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	On, Off	27 DAMPER PEDAL 端子に接続したペダルの効果が各パートにかかるか、かからないかを指定します。 ^{※1}
EXP/ASGN PEDAL → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	On, Off	31 EXPRESSION/ ASSIGNABLE 端子に接続したペダルの効果が各パートにかかるか、かからないかを指定します。 ^{※2}
WHEEL → Upper1 Part, Upper2 Part, Lower Part	On, Off	23 PITCH BEND ホイールの効果が各パートにかかるか、かからないかを指定します。

※1 **6ページ**「**DAMPER PEDAL**端子に接続したペダルの機能を切り替えるには」の表に記載されている設定値のうち、“Sustain”、“Sostenuto”、または“Soft”を選択している場合のみ、各パートに対するここでのOn/Off設定が有効です。その他の場合は、ここでの設定に関わらず、ペダルに割り当てた効果(または機能)が有効となります。

※2 **7ページ**「**ペダルの機能を選ぶには**」の表に記載されている設定値のうち、“Expression”、“Sustain”、“Sostenuto”、または“Soft”を選択している場合のみ、ここでのOn/Off設定が有効です。その他の場合は、ここでの設定に関わらず、ペダルに割り当てた効果(または機能)が有効となります。

鍵盤演奏パート全体の音量を調節する

本機が鳴らす音には、鍵盤演奏の音※、自動伴奏の音、曲の再生音、外部機器からの入力音があります。これらの音量は、それぞれ個別に調節可能です。

※鍵盤演奏の音には、Upper1、Upper2、Lowerすべてのパートの音が含まれます。

■鍵盤音量を調節するには

1. **[F5]**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。

2. **[10]**、**[11]**を使って“KEYBOARD” → “KeyboardVolume”の順にメニューを選択します。

[FUNCTION]
KeyboardVolume
— 127 +

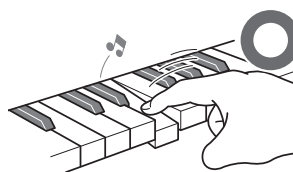
3. **[10]**、**[11]**または**[22]**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。
 - 音量は0～127の間で設定できます。
 - **[10]**と**[11]**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。
4. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**[F5]**EXITを押さえ続けます。

鍵盤を押す強弱で音量を変える (タッチレスポンス)

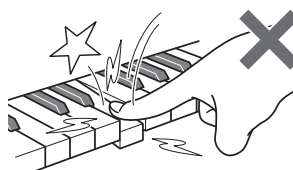
タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。タッチレスポンス機能を使うとアコースティックピアノのように鍵盤を押す強さ(速さ)で音量や音質が変化し、演奏の表現が豊かになります。



すばやく押すと大きな音
が出ます



ゆっくり押すと小さな音
が出ます



強く押しすぎないように
しましょう

メモ

- 鍵盤音量以外の音量の調節には、下記のFUNCTIONパラメーターを使います。
 - 自動伴奏の音量: “Accomp Volume”(74番)
 - MIDI曲の音量: “MIDI Volume”(84番)
 - オーディオ曲の音量: “Audio Volume”(85番)
 - 外部入力※の音量: “Audio In Volume”(98番)

FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

※Bluetooth接続したスマートデバイスからの入力音声、または**[29]**AUDIO IN端子に接続したオーディオ機器からの入力音声です。

■タッチレスポンスの感度を変更するには

1. **15** **∨**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“KEYBOARD” → “Touch Response”の順にメニューを選択します。



3. **10** **-**、**11** **+**または**22**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。

設定値(表示)	設定内容
オフ (Off)	タッチレスポンスを解除します。鍵盤を押す速度が変化しても音量は一定のままです。
軽い (Light2) ↑ (Light1)	大きな音を出しやすい設定になり、「普通」よりもタッチが軽く感じられます。
普通 (Normal)	標準的な設定です。
↓ (Heavy1) 重い (Heavy2)	大きな音を出しにくい設定になり、「普通」よりもタッチが重く感じられます。

4. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

音の高さを変更する

半音単位で変更する(トランスポーズ)

音の高さを半音単位で全体的に上げたり下げたりします。難しい調(キー)を弾き慣れた調で弾きたい場合や、歌う人の声の高さに合わせて伴奏の調を上げ下げしたいときなどに便利です。

■トランスポーズするには

1. **15** **∨**を使って、ボタンの右に“**∨**CTRL”を点灯させます。



2. **17** **TRANSPOSE**にタッチします。
液晶画面に、現在のトランスポーズ設定値が表示されます。



3. **10** **-**、**11** **+**を使って、設定値を変更します。
- -12～+12半音の間で変更できます。
 - **10** **-**と**11** **+**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。

音の高さを微調整する(チューニング)

楽器の音の高さを、全体的に少しだけずらします。

- A4の音の周波数を設定します。周波数の設定範囲は415.5～465.9Hz(初期値440.0Hz)です。
- 0.1Hz単位で変更することができます。

■チューニングするには

1. **[F]**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **[0]**、**[1]**を使って“SYSTEM” → “Master Tuning”の順にメニューを選択します。
3. **[0]**、**[1]**または**[2]**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。
 - **[0]**と**[1]**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。
4. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**[F]**を押さえ続けます。

音の高さをオクターブ単位で変更する(オクターブシフト)

音の高さを、オクターブ単位で上げたり下げたりします。ここでは、レイヤーやスプリットを使わない場合の鍵盤演奏音(Upper1パートの音)をオクターブシフトする操作を説明します。



- オクターブシフトは、レイヤーやスプリットを使ったときの各パート(Upper1、Upper2、Lower)個別に設定可能です。パートごとの設定について詳しくは、[14ページ「レイヤー、スプリット各パートの設定を変更する」](#)をご参照ください。

■Upper1パートをオクターブシフトするには

1. レイヤーやスプリットがオンになっている場合は、いずれもオフにします。
 - [13ページ「レイヤーをオフにするには」](#)、[14ページ「スプリットをオフにするには」](#)をご参照ください。
2. **[F]**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
3. **[0]**、**[1]**を使って“KEYBOARD” → “PART OCT SHIFT” → “Upper1 Part”の順にメニューを選択します。
Upper1パートのオクターブシフト設定画面が表示されます。

[FUNCTION]

< Upper1 Part >

— 0 +

4. **[0]**、**[1]**または**[2]**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。
 - -2～+2オクターブの範囲で変更できます。
 - **[0]**と**[1]**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。
5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**[F]**を押さえ続けます。

サウンドモード(ホールシミュレーター/リバーブとサラウンド)を使う

1. SOUND MODEボタンを使って、下記効果のオン/オフを切り替えることができます。

● ホールシミュレーター/リバーブ

ホールシミュレーターとリバーブは、いずれも音の響きを変えるタイプのエフェクトです。

ホールシミュレーター	透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールや建築物内の、それぞれに異なる音響特性をシミュレートします。
リバーブ	部屋の中、あるいはホール内といった、空間の残響を再現するタイプのエフェクトです。

● サラウンド

擬似的な立体音響(バーチャルサラウンド効果)が得られます。この効果は、外部入力音声※を本機のスピーカーで鳴らすときに適しています。




※Bluetooth接続したスマートデバイスからの入力音声、または**29 AUDIO IN**端子に接続したオーディオ機器からの入力音声です。

メモ

- 本機の電源を入れたときは、ホールシミュレーター/リバーブはオン、サラウンドはオフの状態になっています。
- サラウンドの効果は、本機の**29 PHONES**端子および**30 LINE OUT R、L/MONO**端子からの出力音にはかかりません。

● ホールシミュレーター/リバーブとサラウンドのオン/オフを切り替えるには

1. **13 SOUND MODE**にタッチします。
- タッチするたびに、LEDの点灯状態が次のように切り替わります。

		
SOUND MODE	SOUND MODE	SOUND MODE
=	=	=
ホールシミュレーター/ リバーブ オン サラウンド オフ	ホールシミュレーター/ リバーブ オン サラウンド オン	ホールシミュレーター/ リバーブ オフ サラウンド オフ

● ホールシミュレーター/リバーブのタイプを選ぶには

1. **13 SOUND MODE**を押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
- [SOUND MODE]
< Hall / Rev. Type >
2. “Hall/Rev. Type”が表示されているのを確認し、**12 ENTER**にタッチします。
液晶画面に、現在選択されているホールシミュレーター/リバーブのタイプが表示されます。
3. **10 -**、**11 +**を使って、ホールシミュレーター/リバーブのタイプを選びます。

● ホールシミュレーター

タイプ(表示)	設定内容
N.Y.Club	マンハッタンにあるミュージッククラブ
Opera Hall	ユニークな形状をしたシドニーのコンサートホール
Berlin Hall	ベルリンのアリーナ形式クラシックコンサートホール
BritishStadium	ロンドン郊外の大型野外スタジアム

● リバーブ

タイプ(表示)	設定内容
Room 1	室内の残響感を与えるリバーブ
Room 2	
Room 3	
Large Room	
Hall 1	小規模ホールの残響感を与えるリバーブ
Hall 2	
Hall 3	
Stadium	スタジアムの残響感を与えるリバーブ

- 10 -**と**11 +**に同時にタッチすると、初期設定(Hall 3)に戻ります。
4. 操作を終了するには、**15 EXIT**に数回タッチして“[SOUND MODE]”の表示を消します。

■ホールシミュレーター／リバーブ効果がかかる深さを調節するには

1. **[F12] SOUND MODE**を押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
2. **[F10] <**、**[F11] >**を使って下記項目のいずれかを表示し、**[F12] ENTER**にタッチします。

メニュー項目(表示)	設定内容
Hall/Rev. Depth	本機の内蔵音源と、外部入力音声 (Bluetooth入力または [F29] AUDIO IN 端子入力) の両方に対してのホールシミュレーター/リバーブ効果の深さを調整します。
AudioInHallDepth	外部入力音声 (Bluetooth入力または [F29] AUDIO IN 端子入力) のみに対して、ホールシミュレーター/リバーブ効果の深さを調整します。

3. **[F10] -**、**[F11] +**を使って設定値を変更します。
 - 0～127の間で設定できます。数値が大きいくほど効果のかかり方が深くなります。
4. 希望する設定値に変更したら、**[F15] EXIT**にタッチします。
5. 必要なだけ手順2～4の操作を繰り返します。
6. 操作を終了するには、**[F15] EXIT**にタッチします。

■サラウンドのタイプを選ぶには

1. **[F12] SOUND MODE**を押さえ続け、液晶画面に“[SOUND MODE]”と表示されたら離します。
2. **[F10] <**、**[F11] >**を使って“Surround Type”を表示し、**[F12] ENTER**にタッチします。
液晶画面に、現在選択されているサラウンドタイプが表示されます。
3. **[F10] -**、**[F11] +**を使って、サラウンドのタイプ(タイプ1またはタイプ2)を選びます。
4. 操作を終了するには、**[F15] EXIT**に数回タッチして“[SOUND MODE]”の表示を消します。

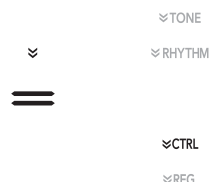
DSPを使う

DSP(デジタルシグナルプロセッサ)は音源と出力の間に接続するタイプのエフェクトで、イコライザーやトレモロ、リミッター、ワウなど多岐にわたります。本機では、音色ごとのデフォルトDSP※1、または100種類のプリセットDSP※2から選ぶことができます。DSPのパラメーター設定を変更することも可能です。

- ※1 各音色にあらかじめ割り当てられている、各音色に適したDSPです。音色によっては、初期状態ではDSPが割り当てられていないものもあります。
- ※2 デフォルトDSPとは別のDSPで、どの音色にでも割り当て可能です。

■DSPを選ぶには

1. **12ページ「音色を選ぶには」**の操作で、音色を選びます。
2. **[F15] V**を使って、ボタンの右に“**V CTRL**”を点灯させます。



3. **[F16] DSP**にタッチします。

液晶画面に、手順1で選択した音色(Upper1音色)に割り当てられているDSP名が表示されます。

- 音色のデフォルトDSPの場合は、“Tone”と表示されます。



4. **[F10] -**、**[F11] +**を使って、DSPを選びます。

- 選択可能な全プリセットDSPの表示名と中身(DSPモジュール)は、**68ページ「プリセットDSPリスト」**をご参照ください。DSPモジュールについては、**20ページ「DSP設定の変更について」**をご参照ください。
- **[F10] -**と**[F11] +**に同時にタッチすると、デフォルトDSPに戻ります。



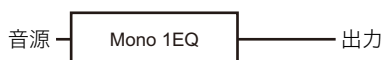
- レイヤーやスプリットがオンの場合でも、上記手順3で表示されるのは、Upper1音色に割り当てられているDSP名です。

■DSP設定の変更について

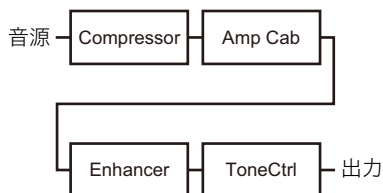
DSPの設定を変更する際のおおまかな手順は、次のとおりです。

- (1) 変更対象のデフォルトDSPまたはプリセットDSPを選ぶ。
- (2) 選んだDSPの中にあるDSPモジュールを選ぶ。
- (3) DSPモジュール内の各パラメーター設定を変更する。

- DSPモジュールが1つの例： プリセットDSP No.1 “Mono 1BandEQ”



- DSPモジュールが4つの例： プリセットDSP No.27 “Re-Amp 1”



DSPモジュール4つで構成されているDSPの設定を変更する場合、全部のDSPモジュールに変更を加えたいならば、上記(2)、(3)の作業を4回実施します。具体的な操作手順は、[20ページ「DSPの設定を変更するには」](#)をご参照ください。

❗重要

- DSP設定の変更後に本機の電源を切ると、変更内容は消去されます。変更後のDSPを保存したい場合は、レジストレーション機能([34ページ](#))を使ってセットアップを登録してください。

■DSPの設定を変更するには

1. [19ページ「DSPを選ぶには」](#)の操作で、設定を変更したいDSPを選びます。
2. 液晶画面に“[DSP SETTING]”と表示されるまで、**[16]** **DSP**を押さえ続けます。
DSP設定モードに入り、“DSP On/Off”が表示されます。



- “DSP On/Off”は、音色に対してDSPをかけるか、かけないかを設定する項目です。本設定が“On”になっているのを確認し、手順3に進んでください。手順1でプリセットDSPを選んだ場合、本設定は必ず“On”です。
- 手順1でデフォルトDSP(“Tone”)を選んだ場合、デフォルトではDSPのかかっていない音色があるため、本設定が“Off”になっていることがあります。本設定が“Off”の場合は、いったん**[15]** **EXIT**にタッチして手順1に戻り、音色やDSPを選び直してください。あるいは、下記の操作で本設定を“On”に切り替えてください。ここで“On”に切り替ええると、プリセットDSPの1番が設定変更の対象となります。

- (1) “DSP On/Off”が表示されているのを確認し、**[12]** **ENTER**にタッチします。
- (2) **[10]** **-**、**[11]** **+**を使って、設定を“On”に切り替えます。
- (3) **[15]** **EXIT**にタッチします。

3. **[10]** **<**、**[11]** **>**を使ってDSPモジュールを選び、**[12]** **ENTER**にタッチします。

選択したDSPモジュールのパラメーターが表示されます。



4. **[10]** **<**、**[11]** **>**を使って設定を変更したいパラメーターを表示し、**[12]** **ENTER**にタッチします。
パラメーター値を変更できる状態になります。



5. **[10]** **-**、**[11]** **+**を使ってパラメーター値を変更します。

- **[10]** **-**と**[11]** **+**に同時にタッチすると、パラメーターの初期値に戻ります。

6. 希望する値になったら、**[F5]EXIT**にタッチします。
7. 手順4～6の操作を必要なだけ実行し、完了したら**[F5]EXIT**にタッチします。
手順3のDSPモジュール表示に戻ります。
8. 手順3～7の操作を必要なだけ実行します。
9. DSP設定モードから抜けるには、**[F5]EXIT**にタッチします。

コーラスを使う

コーラスは、音を重ねて厚みを増す効果です。
コーラスを選ぶには、FUNCTIONパラメーター9番の“Chorus Type”を、下記設定の間で切り替えます。

設定値(表示)	コーラスタイプ
Tone※	トーン
Chorus 1	コーラス1
Chorus 2	コーラス2
Chorus 3	コーラス3
Chorus 4	コーラス4
FB Chorus	フィードバックコーラス
Deep Chorus	ディープコーラス
Flanger 1	フランジャー1
Flanger 2	フランジャー2
Flanger 3	フランジャー3
Flanger 4	フランジャー4
Short Delay 1	ショートディレイ1
Short Delay 2	ショートディレイ2

※音色ごとの初期設定にします。

FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

ブリリアンスを調節する

ブリリアンスは、音の明るさを調節する効果です。
FUNCTIONパラメーター10番の“Brilliance”を使うことで、-3～+3の間でブリリアンスを調節できます。+1以上のときは音が明るい感じになり、-1以下のときはまるやかな感じになります。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

アコースティックピアノの音の特徴を調整する(アコースティックシミュレーター)

本機のピアノ音色は、アコースティックピアノの響きの特徴付ける要素を内蔵しています。下記の操作で、音の特徴を調整することができます。

■アコースティックピアノの音の特徴を調整するには

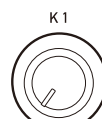
1. **[F5]V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **[F10]<**、**[F11]>**を使って“SOUND” → “ACOUSTIC SIMU.”の順にメニューを選択します。
3. **[F10]<**、**[F11]>**を使って調整したい設定項目を表示し、**[F12]ENTER**にタッチします。
 • 調整可能なパラメーターについては、[22ページ「アコースティックピアノ音の設定項目一覧」](#)をご参照ください。
4. **[F10]-**、**[F11]+**を使って、設定値を変更します。
5. **[F5]EXIT**にタッチします。
6. 別の設定項目を調整したい場合は、手順3～5の操作を必要なだけ繰り返します。
7. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**[F5]EXIT**を押さえ続けます。

■アコースティックピアノ音の設定項目一覧

設定項目(表示)	設定値と意味
ストリングレゾナンス (String Reso.) アコースティックピアノを弾くと、弾いた鍵盤の倍音となる弦が共鳴します。この共鳴の具合を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 Off: ストリングレゾナンスを無効にします。 1~4: 数値が大きいほど、ストリングレゾナンスによる共鳴が強くなります。
ダンパーレゾナンス (Damper Reso.) アコースティックピアノでダンパーペダルを踏んだとき、88鍵盤の弦がすべて開放されるため、弾いた鍵盤の倍音となる弦がすべて共鳴します。その共鳴の具合を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 Off: ダンパーレゾナンスを無効にします。 1~4: 数値が大きいほど、ダンパーレゾナンスによる共鳴が強くなります。
ダンパーノイズ (Damper Noise) アコースティックピアノでダンパーペダルを踏むと、ダンパーがピアノ線から離れるときに小さく「シャー」というノイズが出ます。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 Off: ダンパーノイズを鳴らしません。 1~4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。
キーオンアクションノイズ (Key On Noise) アコースティックピアノで大変弱く鍵盤を弾くと、ハンマーが弦に届かずピアノの機構的な動作音(ノイズ)だけが聴こえます。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 Off: キーオンアクションノイズを鳴らしません。 1~4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。
キーオフアクションノイズ (Key Off Noise) アコースティックピアノの鍵盤から指を離れたとき、ピアノの機構的な動作音(ノイズ)が発生します。このノイズの音量を選ぶことができます。	Tone: 音色ごとの初期設定にします。 Off: キーオフアクションノイズを鳴らしません。 1~4: 数値が大きいほど、ノイズの音量が大きくなります。

ノブを使う

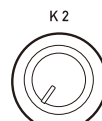
2つのノブを使って、音色やエフェクトのさまざまなパラメーターの設定を、リアルタイムで変更することが可能です。



■ノブに割り当てる機能(ノブセット)を切り替えるには



- ノブセットの切り替え直後は、**22**ノブ(K1)、ノブ(K2)の位置にかかわらず、パラメーターの設定は変化しません。ノブセットを切り替えた後でノブを操作したときにはじめて、設定が変わります。



- 1.** **15** **V**を使って、ボタンの右に“**V CTRL**”を点灯させます。



- 2.** **13** **Knob**にタッチします。

液晶画面に、現在選択されているノブセット名が表示されます。



- 選択したノブセットに応じて**22**ノブ(K1)、ノブ(K2)に割り当てられるパラメーターについては、[67ページ「ノブセットリスト」](#)をご参照ください。

- 3.** **10** **-**、**11** **+**を使って、ノブセットを選びます。

- 10** **-**と**11** **+**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。

■ノブ操作で設定可能な全パラメーターの設定値を初期化するには

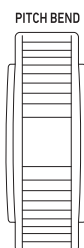
メモ

- 下記操作によって、[67ページ「ノブセットリスト」](#)に記載されている全パラメーターの設定値が、本機の初期設定に戻ります。

1. **[V]**を使って、ボタンの右に“VCTRL”を点灯させます。
2. **[KNOB]**を押さえ続け、液晶画面に“Sure?”と表示されたら離します。
3. 初期化を実行するには**[+]**、中止するには**[0]**にタッチします。

ピッチベンドホイールで音の高さを変える

現在鳴っている音の音高(ピッチ)を、滑らかに上下させることができます。サクソやエレキギターのチョーキング奏法のような効果を出すことができます。



1. 右手で鍵盤を押しながら、左手で**[PITCH BEND]**ホイールを上下に動かします。
ホイールを動かした量に応じて、音の高さが変わります。
 - 本機の電源を入れるときには、ホイールに触らないようにしてください。

メモ

- FUNCTIONパラメーター**52**番の“P Bend Range”を使うと、ホイールを上限や下限まで動かしたときの、音の高さの変化量を変更できます。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

アルペジオのフレーズを自動的に鳴らす(アルペジエーター)

アルペジエーターを使うと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)や、さまざまなフレーズが自動的に再生されます。押さえている和音からアルペジオが再生されるタイプや、さまざまなフレーズを自動的に再生するものなど、数多くのタイプから選べます。

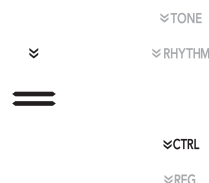
- アルペジエーター機能とオートハーモナイズ機能([31ページ](#))は、1つのボタンを共有しています。アルペジエーター機能を使える状態にすると、オートハーモナイズ機能は使えなくなります。

■アルペジエーター機能をオンにするには

!! 重要

- 下記の手順2で**[ARPEG.]**にタッチしたときに“AR”ではなく“AH”と表示された場合は、**[ARPEG.]**ボタンの割り当てを変更する必要があります。FUNCTIONパラメーター**78**番の“Type Select”を“Arpeggiator”に切り替えてください。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

1. **[V]**を使って、ボタンの右に“VCTRL”を点灯させます。



2. アルペジエーター機能をオンにするには、**[ARPEG.]**にタッチして液晶画面に“AR”を表示します。



- 鍵盤で和音、または単音を押さえると、現在選択されているタイプのアルペジオが再生されます。
3. アルペジエーター機能をオフにするには、**[ARPEG.]**にタッチして液晶画面の“AR”を消します。

メモ

- FUNCTION/パラメーター79番の“Arpeggio Hold”を“On”にすることで、和音を押さえている指を鍵盤から離れた後も、アルペジオが鳴り続けるようにすることができます(アルペジオホールド)。
- FUNCTION/パラメーター80番の“Arpeggio Part”を使うと、レイヤー(13ページ)の使用中にアルペジエーターをUpper1とUpper2の両方のパートで鳴らすか、Upper1パートだけで鳴らすかを指定できます。
- FUNCTION/パラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■アルペジエーターのタイプを選ぶには

1. 23ページ「アルペジエーター機能をオンにするには」の手順1、2の操作で、アルペジエーター機能をオンにします。

2. 19ARPEG.を押さえ続け、液晶画面に“ARPEG.”と表示されたら離します。

液晶画面の2行目に、現在選択されているアルペジエーターのタイプが表示されます。

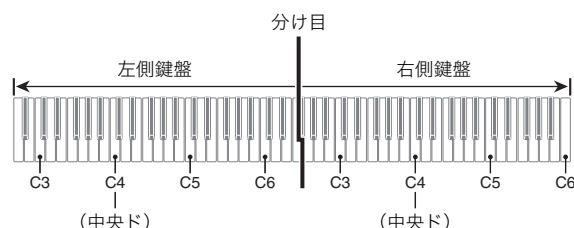
```
[CTRL] ARPEG.
001:Screw Up
T:120    AR
```

3. 10-、11+を使って、アルペジエーターのタイプを選びます。

- アルペジエーターのタイプを表示しているときに、音色名表示に切り替わるまで19ARPEG.を押さえ続けると、表示中のタイプに合うおすすめの音色が選ばれます。
- タイプの詳細は、別紙「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用ができます。

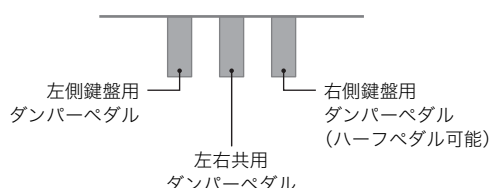


メモ

- 最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとする、最初の設定では音域が足りなくなりがちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。設定の操作については、25ページ「音域を変更するには」をご参照ください。

■ペダルについて

- 別売のSP-34をお使いの場合、両端のペダルが、それぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。



- 付属のSP-3をお使いの場合、左右共用ダンパーペダルにするには、27DAMPER PEDAL端子に接続します。このペダルは、6ページ「DAMPER PEDAL端子に接続したペダルの機能を切り替えるには」で選んだペダル効果の種類にかかわらず、ダンパーペダルとして動作します。ハーフペダルには対応しません。
- 付属のSP-3を31EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に接続すると、左右共用ソフトペダルとして使用できます。

■デュエット機能を使うには

1. **15** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“KEYBOARD” → “DUET”の順にメニューを選択します。
3. “Duet Mode”が表示されているのを確認し、**12** **ENTER**にタッチします。
4. **10** **-**、**11** **+**を使って、デュエット機能の設定を切り替えます。
 - デュエット機能を使うには、“On”または“Pan”を選びます。デュエット機能の使用をやめて鍵盤を通常の状態に戻すには、“Off”を選びます。

設定値(表示)	説明
Off	デュエット機能をオフにします。
On	デュエット機能をオンにします。
Pan	デュエット機能をオンにし、左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るようにします。

5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

メモ

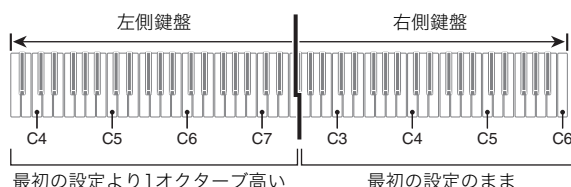
- デュエット機能の使用中は、一部の設定が変更できなくなります。
- デュエット機能の設定が“Pan”の場合、ホールシミュレーター/リバーブ(18ページ)、サラウンド(18ページ)、コーラス(21ページ)、アコースティックシミュレーター(21ページ)は利用できません。
- デュエット機能使用中は、ノブセット(22ページ)は自動的に12番の“Kbd/Acmp Vol.”に設定されます。別の番号への切り替えはできません。

■音域を変更するには

1. 25ページ「デュエット機能を使うには」の手順1、2を実行します。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“Upper Octave”(右側鍵盤の音域)または“Lower Octave”(左側鍵盤の音域)を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
3. **10** **-**、**11** **+**を使って設定値を変更します。
 - “Upper Octave”の表示中は右側鍵盤の音域、“Lower Octave”の表示中は左側鍵盤の音域が変更できます。
 - 設定値を1上げると1オクターブ上がり、1下げると1オクターブ下がります(初期設定0)。
 - 各鍵盤の音域は、-2オクターブ～+2オクターブの間で設定できます。
4. **15** **EXIT**にタッチします。
5. 必要に応じて手順2～4の操作を繰り返し、各鍵盤の音域を変更します。

【設定例】

“Upper Octave”の設定値を0、“Lower Octave”の設定値を1にすると、音域は下記ようになります。



6. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

鍵盤の音律(スケールチューニング)を 変える

鍵盤の音律を設定して通常の音律(12平均律)以外の音律を使う音楽(インド音楽、アラビア音楽、クラシック音楽など)の演奏ができます。下記の17種類のプリセットの音律から、好きな音律を選ぶことができます。

■音律を変えるには

1. **15** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“KEYBOARD” → “SCALE TUNING” → “Scale Type”の順にメニューを選択します。
3. **10** **-**、**11** **+**または**22**ノブ(K1)を使って、音律を選びます。
・ 下表の音律から選ぶことができます。

設定値(表示)	音律
Equal	平均律
Pure Major	純正律長調
Pure Minor	純正律短調
Pythagorean	ピタゴラス音律
Kirnberger 3	キルンベルガー第Ⅲ法
Werckmeister	ヴェルクマイスター第1技法第3法
Mean-Tone	ミーントーン
Rast	ラスト
Bayati	バヤティ
Hijaz	ヒジャーズ
Saba	サバ
Dashti	ダシュティ
Chahargah	チャハルガー
Segah	セガー
Gurjari Todi	グジャリ・トーディ
Chandrakauns	チャンドラコونس
Charukeshi	チャルケシ

4. 音律の基音を変更したい場合は、下記を実行します。
・ 基音の初期設定(C)を変更しない場合は、下記操作は不要です。
(1) **15** **EXIT**にタッチします。
(2) **10** **<**、**11** **>**を使って“Scale Base Note”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
(3) **10** **-**、**11** **+**または**22**ノブ(K1)を使って、基音を変更します。
5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

■変更した音律設定を自動伴奏に適用するには
FUNCTIONパラメーター29番の“Accomp Scale”を“On”と“Off”の間で切り替えます。“On”にすると、26ページ「音律を変えるには」の操作で選んだ音律と基音が、自動伴奏にも適用されます。FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

自動伴奏をバックに演奏する

自動伴奏とは、お好みの伴奏リズムを選び、左手でコード(和音)を押すだけで、選んだリズムにあった伴奏(ベースやギターなどの楽器音による演奏)が自動的に鳴る機能です。バンド演奏のようなアンサンブルをバックに、鍵盤演奏をお楽しみいただけます。

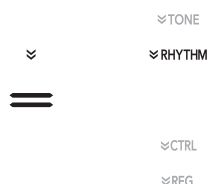
リズムを選ぶ

■リズムのカテゴリーについて

本機のリズムは、**16**～**21** RHYTHMカテゴリーボタンで直接選ぶことができる6つのカテゴリーに分かれています。これら6つのカテゴリーは、それぞれ複数のサブカテゴリーに分かれており、同じRHYTHMカテゴリーボタンにタッチするたびに、順次サブカテゴリーを切り替えることができます。リズムのカテゴリーやサブカテゴリー、および各カテゴリーに含まれるリズム名について詳しくは、別紙「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

■リズムを選ぶには

- 1.** **15** **▽**を使って、ボタンの右に“**▽RHYTHM**”を点灯させます。



液晶画面に、現在選択されているリズムのカテゴリー名とリズム名が表示されます。



- 2.** **16**～**21** RHYTHMカテゴリーボタンを使って、RHYTHMのカテゴリーを選びます。
 - RHYTHMカテゴリーボタンの1つにタッチすると、タッチしたボタンのカテゴリーで前回最後に選択したリズムに切り替わります。
 - 現在のカテゴリーと同じRHYTHMカテゴリーボタンにタッチするたびに、サブカテゴリー先頭のリズムに順次切り替わります。
- 3.** **10**－、**11**＋を使って、リズムを選びます。
 - **10**－と**11**＋に同時にタッチすると、現在のカテゴリー先頭のリズムに切り替わります。

自動伴奏を鳴らす

本機の自動伴奏は、ドラムやパーカッションによる「リズムパート」と、コード(和音)を伴う各種楽器による「コードパート」で構成されています。自動伴奏を鳴らす際は、リズムパートだけ、あるいは両方のパートを同時に鳴らすことができます。

■リズムパートだけを鳴らすには



- リズムパートは、自動伴奏の土台となる重要なパートです。本機には8ビートやワルツなどさまざまな種類のリズムが内蔵されていますので、まずは基本となるリズムパートだけを聴いて、それに合わせて弾いてみましょう。

- 1.** **3** モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”を点灯させます(RHYTHMモード)。



- 2.** **27**ページ「リズムを選ぶには」の操作で、鳴らしたいリズムを選びます。
- 3.** **8** START/STOPにタッチします。ノーマルパターン(**28**ページ)でリズムがスタートします。
 - リズムの拍子に合わせて、**8** START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。
- 4.** リズムに合わせて弾きましょう。
- 5.** もう一度**8** START/STOPを押すとリズムがストップします。



- 手順3では、次のボタンにタッチしてリズムをスタートさせることもできます。
 - － **4** INTRO…イントロパターンでリズムがスタートします。
 - － **5** NORMAL/FILL-IN…ノーマルパターンでリズムがスタートします。
 - － **6** VARIATION/FILL-IN…バリエーションパターンでリズムがスタートします。
- リズム(自動伴奏)の各種パターンについては、**28**ページ「自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)」をご参照ください。

■コードを付けて鳴らすには



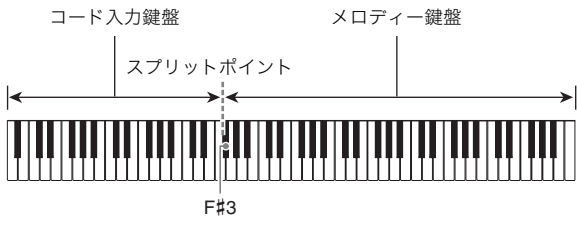
- 左手でコードを押さえると、選んだリズムにベースやハーモニーを加えた伴奏が自動的に演奏されます。1人で演奏してもバンド演奏のように楽しく演奏できます。

1. **3**モード選択ボタンを使って、“ACCOMP”を点灯させます(ACCOMPモード)。



2. リズムをスタートさせます。
• リズムを選んでスタートさせる操作については、27ページ「リズムパートだけを鳴らすには」の手順2、3をご参照ください。

3. コード入力鍵盤でコードを押さえます。
コードが入力されると、リズムパートに加えてコードパートが鳴り始めます。



- 例) コード入力鍵盤の「レ・ファ#・ラ・ド」を押さえる。
↓
「レ・ファ#・ラ・ド」の和音(コード:D7)で伴奏が鳴ります。
- スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えることができます(14ページ)。

4. 左手でいろいろなコードを押さえて、右手でメロディーを弾きましょう。
• 簡単にコードを押さえられる「カシオコード」など、コード入力方法にはいくつかの種類があります。30ページ「コードの入力方法を選ぶ」をご参照ください。

5. 自動伴奏を止めるには、**8**START/STOPにタッチします。



- 上記の操作では、自動伴奏で鳴らすコードを、自分で入力します。ミュージックプリセット機能を使うと、コードを入力しなくても、演奏したい曲のジャンルに応じたコード進行で自動伴奏を鳴らすことができます。詳細は、33ページ「ミュージックプリセットを使う」をご参照ください。

■メトロノーム伴奏パターンについて

下記の伴奏パターンは、メトロノーム音だけを鳴らします(コード入力鍵盤を押さえても、ベースやハーモニーを加えた伴奏は鳴りません)。

リズム番号	メトロノーム音の鳴り方
BALLAD:39	すべての拍でクリック音だけが鳴ります。
BALLAD:40	すべての拍でベル音が鳴ります。
BALLAD:41 ~ 48	2拍子〜9拍子です。1拍目にベル音が鳴り、残りの拍はクリック音が鳴ります。

■自動伴奏のテンポ(速さ)を変えるには

32ページ「自動伴奏や曲のテンポ(速さ)を変える」をご参照ください。

■自動伴奏で曲を組み立てる(伴奏パターン)

1つの曲は、イントロ(前奏)で始まり、主題に移り、間奏など変化が入ったり主題に戻ったりしながら進行し、エンディングに至ります。自動伴奏機能には、こうした曲の進行に合う、多数の伴奏パターンが用意されています。

■ノーマルとバリエーション

曲の主題や間奏に使うための伴奏パターンです。1小節から数小節のパターンが繰り返されます。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマル	5 NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーション	6 VARIATION/FILL-INにタッチする。

■フィルイン

曲の途中に1小節、または2小節の短いフィルイン(変化フレーズ)を挿入する伴奏パターンです。ボタンにタッチしたタイミングでフィルインがスタートし、1小節後、または2小節後の1拍目で、ノーマルパターンまたはバリエーションパターンに戻ります。

伴奏パターン	鳴らすための操作
ノーマル フィルイン	ノーマルパターンが鳴っているときに、 5 NORMAL/FILL-INにタッチする。
バリエーション フィルイン	バリエーションパターンが鳴っているときに、 6 VARIATION/FILL-INにタッチする。

■イントロ

曲の始めに使うための伴奏パターンです。数小節のイントロ伴奏パターンが鳴った後で、ノーマルパターンに移行します。

伴奏パターン	鳴らすための操作
イントロ	4 INTROにタッチする。

■エンディング

曲の終わりに使うための伴奏パターンです。数小節のエンディングを鳴らして、自動伴奏が終了します。

伴奏パターン	鳴らすための操作
エンディング	自動伴奏が鳴っているときに、 7 SYNCHRO/ENDINGにタッチする。

■コード入力鍵盤で自動伴奏を開始する(シンクロスタート)

コード入力鍵盤でコードを押さえると同時に、自動伴奏をスタートさせることができます。

■シンクロスタートで自動伴奏を開始するには

1. 自動伴奏の停止中に、**7**SYNCHRO/ENDINGにタッチします。

シンクロスタートの待機状態になり、**8**START/STOPボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します。

- 自動伴奏のスタート時にイントロパターンを鳴らしたい場合は、ここで**4**INTROにタッチします。
- 自動伴奏のスタート時にバリエーションパターンを鳴らしたい場合は、ここで**6**VARIATION/FILL-INにタッチします。

2. コード入力鍵盤でコードを押さえます。

自動伴奏がスタートします。



- シンクロスタートの待機状態から抜けるには、**7**SYNCHRO/ENDINGにタッチします。

■鍵盤を使って伴奏パターンを操作する(鍵盤コントローラーモード)

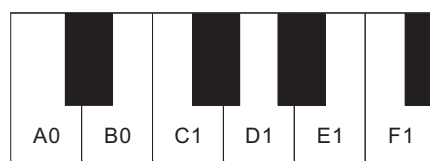
左端6つの白鍵を使って、伴奏パターンの開始や停止、パターンの切り替えなどの操作が可能です。

■鍵盤コントローラーモードに入るには

1. **3**モード選択ボタンを押さえ続け、液晶画面に“KC”と表示されたら離します。

[RHYTHM] POPS
01 : E. Funk Pop
T: 120 KC

- 鍵盤コントローラーモードに入り、左端6つの白鍵で次のボタンと同じ操作ができる状態になります。



鍵盤	ボタン
A0	3 モード選択※
B0	4 INTRO
C1	5 NORMAL/FILL-IN
D1	6 VARIATION/FILL-IN
E1	7 SYNCHRO/ENDING
F1	8 START/STOP

※RHYTHMモードとACCOMPモードの間だけでの切り替えとなります。

2. 鍵盤コントローラーモードから抜けるには、液晶画面の“KC”が消えるまで**3**モード選択ボタンを押さえ続けます。



- 鍵盤コントローラーモードに入ると、A0～F1の鍵盤(黒鍵を含む)を押しても音は出ません。

コードの入力方法を選ぶ

FUNCTIONパラメーター75番の“Chord Mode”を使って、下記6種類のコードの入力方法から選ぶことができます。

設定値(表示)	コードの入力方法
CASIO Chord	カシオコード
Fingered 1	フィンガード1
Fingered 2	フィンガード2
Fg On Bass	フィンガードオンベース
Fg Assist	フィンガードアシスト
Full Range	フルレンジコード

FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■カシオコードについて

簡単な指使いで次の4種類のコードを演奏できます。

コード入力鍵盤



コードの種類

メジャーコード

コード名と同じ音名の鍵盤を1つ押します(コード入力鍵盤の範囲内であれば、1オクターブ違う同音でもかまいません)。

例: C(Cメジャー)



マイナーコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を1つ押します。

例: Cm(Cマイナー)



セブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を2つ押します。

例: C7(Cセブンス)



マイナーセブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより右の鍵盤を3つ押します。

例: Cm7(Cマイナーセブンス)



■フィンガードについて

これらは、コード構成音のままに鍵盤を押さえて入力する方法です(一部のコードでは構成音を省略して、1〜2鍵でも入力できます)。

入力できるコードの種類と鍵盤の押さえかたについては、62ページ「指定できるコード種一覧」をご参照ください。

コード入力鍵盤



●フィンガード1

コードの構成音の鍵盤を押さえます。

●フィンガード2

フィンガード1とは違い、6thの入力にはできません。m7、m7^{b5}の入力ができます。

●フィンガードオンベース

フィンガード1とは違い、一番低い鍵盤の音をベース音として分数コードが入力できます。

●フィンガードアシスト

2鍵押し、3鍵押しの場合、フィンガード1と異なります。ルートキーとルートキーより左側の白鍵を押さえると7thコード、ルートキーより左側の黒鍵を押さえるとmコード、両方押さえるとm7コードになります。

・フィンガード1の押さえ方に加えて、3種類のコードを次の手順で演奏できます。

コードの種類

マイナーコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い黒鍵を押します。

例: Cm(Cマイナー)



セブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い白鍵を押します。

例: C7(Cセブンス)



マイナーセブンスコード

メジャーコードの押さえ方に加えて、コード入力鍵盤内の、それより左の最も近い黒鍵と白鍵を押します。

例: Cm7(Cマイナーセブンス)



メモ

- ・2つ目以降の鍵盤は、1つめより右側なら白鍵・黒鍵を問わずどれでも使用できます。

■フルレンジコードについて

すべての鍵盤でコードの入力とメロディー演奏ができます。入力できるコードの種類については、[62ページ「指定できるコード種一覧」](#)をご参照ください。



■おすすめの音色やテンポにする(ワンタッチプリセット)

ワンタッチプリセットとは、リズムパターンごとにそのリズムによく合った音色やテンポを、ワンタッチで呼び出すことができる機能です。

■ワンタッチプリセットを呼び出すには

1. **3** モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。



2. [27ページ「リズムを選ぶには」](#)の操作で、鳴らしたいリズムを選びます。

3. **21** BALLADを押さえ続け、液晶画面がリズム名表示から音色名表示に切り替わったら離します。

BALLAD



鍵盤の音色やテンポなどが現在選択されているリズムに対応した設定にセットされ、自動伴奏のシンクロスタート([29ページ](#))待機中になります。

メロディーの音に和音をつける(オートハーモナイズ)

右手で弾くメロディーの音に和音を追加して、メロディーに厚みをつけます。和音の追加のしかたを12種類(タイプ)の中から選べます。

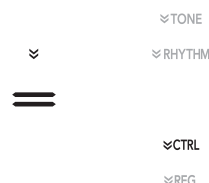
- オートハーモナイズ機能とアルペジエーター機能([23ページ](#))は、1つのボタンを共有しています。オートハーモナイズ機能を使える状態にすると、アルペジエーター機能は使えなくなります。

■オートハーモナイズ機能をオンにするには

!! 重要

- 下記の手順2で**19** ARPEG.にタッチしたときに“AH”ではなく“AR”と表示された場合は、**19** ARPEG.ボタンの割り当てを変更する必要があります。FUNCTIONパラメーター**78**番の“Type Select”を“A.Harmonize”に切り替えてください。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

1. **15** を使って、ボタンの右に“ CTRL”を点灯させます。



2. オートハーモナイズ機能をオンにするには、**19** ARPEG.にタッチして液晶画面に“AH”を表示します。

[CTRL] KNOB
01 : Filter
T: 120 AH

- コード入力鍵盤でコードを押さえながらメロディー鍵盤でメロディーを弾くと、メロディー音に和音が加わります。
3. オートハーモナイズ機能をオフにするには、**19** ARPEG.にタッチして液晶画面の“AH”を消します。

■オートハーモナイズのタイプを選ぶには

1. 31ページ「オートハーモナイズ機能をオンにするには」の手順1、2の操作で、オートハーモナイズ機能をオンにします。
2. **19**ARPEG.を押さえ続け、液晶画面に“A.HARMO”と表示されたら離します。
液晶画面の2行目に、現在選択されているオートハーモナイズのタイプが表示されます。

```
[CTRL] A. HARMO
01 :Duet 1
T:120 AH
```

3. **10**−、**11**＋を使って、オートハーモナイズのタイプを選びます。

タイプ(表示)	内容
01: Duet 1	演奏したメロディーの下に、クローズな(2〜4度ほど離れた)ハーモニーを1音加えます。
02: Duet 2	演奏したメロディー音の下に、オープンな(4〜6度以上離れた)ハーモニーを1音加えます。
03: Country	カントリーの演奏に適したハーモニーを加えます。
04: Octave	1オクターブ下の音を加えます。
05: 5th	5度上の音を加えます。
06: 3-Way Open	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のオープンハーモニーを加えます。
07: 3-Way Close	2声(演奏したメロディーと合わせて3声)のクローズハーモニーを加えます。
08: Strings	ストリングス演奏に適したハーモニーを加えます。
09: 4-Way Open	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のオープンハーモニーを加えます。
10: 4-Way Close	3声(演奏したメロディーと合わせて4声)のクローズハーモニーを加えます。
11: Block	ブロックコード音を加えます。
12: Big Band	ビッグバンド演奏に適したハーモニーを加えます。

自動伴奏や曲のテンポ(速さ)を変える

テンポ値(1分間あたりの拍数)で調節する方法と、鍵盤またはペダルを使って調節する方法の2種類があります。



- 液晶画面のテンポ値手前の表示を、文字(T)とアイコン(♪)の間で切り替えることができます。切り替えるには、FUNCTIONパラメーター108番の“Tempo Indicator”を使います。FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

■テンポ値でテンポを調節するには

1. **12**TEMPOにタッチします。
液晶画面に現在のテンポ値が表示されます。

```
[TEMPO]
120
T:120
```

2. **10**−、**11**＋を使って、テンポ値を調節します。
 - テンポ値は20〜255の間で設定できます。
 - **10**−と**11**＋に同時にタッチすると、現在選ばれている曲やリズム、ミュージックプリセットにおすすめのテンポに設定されます。
3. **12**TEMPOまたは**13**EXITにタッチして、設定画面から抜けます。

■鍵盤やペダルを使ってテンポを調節するには

1. **12**TEMPOを押さえたまにします。
液晶画面の[TEMPO]の右側に“TAP”と表示されます。
2. 鍵盤を2回以上続けて押します。または、ペダルを2回以上続けて押します。
 - 鍵盤またはペダルを押した間隔に応じたテンポになります。
3. **12**TEMPOを離します。
 - まずこの方法でおよそのテンポを設定してから、前述の「テンポ値でテンポを調節するには」の操作で微調整をするなど、2種類の方法を組み合わせると便利です。



- 上記手順2の操作にエクスペッションペダルは使えません。

ミュージックプリセットを使う

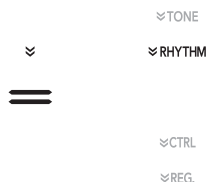
ミュージックプリセットは、コード進行データ付きのセットアップ集です。音楽のジャンルや曲調に合う、音色やリズムなどの設定データ+自動伴奏のコード進行データのセット310種類から選んで、ワンタッチで呼び出すことができます。ミュージックプリセットのカテゴリーと種類の一覧は、別紙「内蔵音楽データ一覧」をご参照ください。

■ミュージックプリセットを使って演奏するには

1. **[3]**モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。



2. **[15]** **▽**を使って、ボタンの右に“**▽**RHYTHM”を点灯させます。



3. **[16]** **POPS**を押さえ続け、液晶画面に“[MUSIC PRESET]”と表示されたら離します。
ミュージックプリセットモードに入り、**[3]**モード選択ボタンの“ACCOMP”が点滅します。



ミュージックプリセット番号

ミュージックプリセット名

- 液晶画面には、現在選択されているミュージックプリセットの番号と名前が表示されます。
- シンクロスタートの待機状態になり、**[8]** **START/STOP**ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します。

4. **[10]** **−**、**[11]** **+**を使って、ミュージックプリセットの番号を選びます。

ミュージックプリセット名の表示が切り替わります。同時に、その名前が表示するジャンルや曲調に合った音色、リズム、コード進行などの設定が呼び出されます。

- 必要に応じて音色やリズム、DSPなどを変更することもできます。変更するには**[15]** **▽**を使って、ボタンの右に“**▽**TONE”、“**▽**RHYTHM”、または“**▽**CTRL”を点灯させます(このとき、**[16]**~**[21]**の各ボタンも点灯し、操作できるようになります)。
- **[15]** **▽**にタッチした後でミュージックプリセット選択画面(手順3の画面)に戻るには、**[3]**モード選択ボタンにタッチします。

5. **[8]** **START/STOP**にタッチします。

プリセットのコード進行による自動伴奏がスタートします。

- ボタンにタッチする代わりに、コード入力鍵盤を押して自動伴奏をスタートすることも可能です。ただし、コードの指定はできません(コード入力鍵盤の押さえ方にかかわらず、プリセットのコード進行に従ってコードが鳴ります)。

6. 自動伴奏にあわせて曲を弾いてみましょう。

7. 自動伴奏を止めるには、**[8]** **START/STOP**、または**[7]** **SYNCHRO/ENDING**にタッチします。

8. ミュージックプリセットモードから抜けるには、ミュージックプリセット選択画面の表示中に**[3]**モード選択ボタンにタッチします。

- このときの音色やリズムは、ミュージックプリセットモードで選ばれていた状態が維持されます。

メモ

- ミュージックプリセットを使った演奏中は、各種伴奏パターンの操作が可能です。[28ページ「自動伴奏で曲を組み立てる\(伴奏パターン\)」](#)、[29ページ「鍵盤を使って伴奏パターンを操作する\(鍵盤コントローラーモード\)」](#)をご参照ください。ただし、鍵盤コントローラーモードでは、A0鍵盤は使用できません。
- ミュージックプリセットモードでは、レジストレーション機能([34ページ](#))は利用できません。

■ミュージックプリセットのテンポ(速さ)を変えるには

[32ページ「自動伴奏や曲のテンポ\(速さ\)を変える」](#)をご参照ください。

■コード進行のキーを変更するには

FUNCTIONパラメーター76番の“MP Key Shift”の設定を変更します。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

セットアップを登録し再現する (レジストレーション)

レジストレーション機能を使うと、本機のセットアップ(音色やリズムなどの設定一式)を登録することができます。登録したセットアップは、特定の曲を演奏する際など、必要に応じて呼び出すことができます。

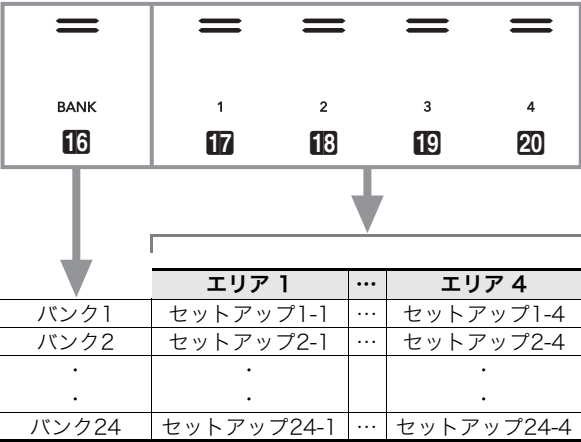
メモ

- レジストレーション機能はRHYTHMモード(10ページ)またはACCOMPモード(10ページ)で利用できます。
- レジストレーション機能はSONGモード(10ページ)、デモ演奏中(12ページ)、ミュージックプリセットの使用(33ページ)、および各種の設定操作中(45ページ)は利用できません。

■セットアップの保存場所について

セットアップの登録には、専用の保存場所が使われます。この保存場所は、24個の「バンク」に分かれています。バンク1つあたりの保存場所が4つあるので、合計で96個(24バンク×4エリア)のセットアップが登録できます。

- バンクの指定には、**16BANK**ボタンを使います。
- エリアの指定には、**17エリア1**ボタン～**20エリア4**ボタンを使います。



■登録可能な設定項目

設定項目	フリーズ※1
リズム番号、モード選択 (ACCOMPモードまたはRHYTHMモード)、シンクロ待機状態、自動伴奏設定 (コード入力方法、伴奏音量)	Accompaniment
テンポ	Tempo
音色番号 (Upper1、Upper2、Lower)、レイヤーOn/Off、スプリットOn/Off、DSP (タイプ、パラメーター)、鍵盤音量設定、パート設定 (音量、オクターブシフト、ファインチューン)、デュエット設定	Tone
スプリットポイント	Split Point
オートハーモナイズ/アルペジエーター (On/Off、タイプ、各種設定状態)	Arpeg./A.Harmo.
トランスポーズ	Transpose
音律設定 (タイプ、基音、自動伴奏スケール)	Scale Tuning
タッチレスポンス設定	Touch Response
コーラスタイプ、プリリアンス設定	Effect
ホールシミュレーター/リバーブ (On/Off、タイプ、デプス)、サラウンド (On/Off、タイプ)	Sound Mode
ダンパーペダルの機能、エクスプレッション/アサインブルペダルの機能、ピッチベンドレンジ、パート設定 (ペダルユニット、ダンパーペダル、エクスプレッション/アサインブルペダル、ピッチベンドホイール)	Pedal/Wheel
ノブ設定※2	Knob

※1 「フリーズ」列は、「FREEZE」ディレクトリ (FUNCTIONパラメーター57番)に含まれるパラメーター名です。詳しくは、36ページ「フリーズ機能について」をご参照ください。

※2 22ノブ (K1)、ノブ (K2) の操作に特有の設定項目です。登録の対象となるノブ設定は、67ページ「ノブセトリスト」をご参照ください。

■外部機器への保存について

レジストレーション機能で登録したセットアップは、バンク単位でUSBメモリーに保存できます。53ページ「USBメモリーの各種操作」をご参照ください。

セットアップの登録と呼び出し

■セットアップを登録するには

重要

- 下記の操作でデータを登録済みのバンクとエリアを指定すると、登録されていたデータは消去されます。バンクとエリアについては、[34ページ「セットアップの保存場所について」](#)をご参照ください。

1. **3** モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。



2. レジストレーションに登録したい状態に、本機をセットアップします。

3. **15** **V** を使って、ボタンの右に“**V** REG.”を点灯させます。



4. 登録先のバンクを選びます。



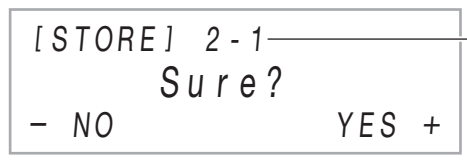
バンク番号

- **16** **BANK** にタッチするたびに、バンク番号が切り替わります。
- **10** **-**、**11** **+** を使ってバンク番号を選ぶこともできます。

5. 登録先のエリアを選びます。

21 **STORE** を押さえたまま、**17** エリア1～**20** エリア4のいずれかにタッチします。

液晶画面に“Sure?”と表示されます。



バンク番号 - エリア番号

- セットアップの登録をやめるには、ここで **10** **-** にタッチします。

6. 登録するには、**11** **+** にタッチします。

登録が完了すると、液晶画面に“Complete”と表示されます。

■登録したセットアップを呼び出すには

1. **3** モード選択ボタンを使って、“RHYTHM”または“ACCOMP”を点灯させます。
2. **15** **▼**を使って、ボタンの右に“**▼**REG.”を点灯させます。
3. 必要に応じて、フリーズ機能の有効／無効を切り替えます。
 - 液晶画面に“FZ”と表示されているときはフリーズ機能が有効、表示されていないときは無効です。**16****BANK**を押さえ続けるたびに、フリーズ機能が有効(“FZ”表示)と無効(“FZ”非表示)の間で切り替わります。
4. **16****BANK**、**10**－または**11**＋を使って、呼び出したセットアップのバンクを選びます。
5. **17**エリア1～**20**エリア4のいずれかにタッチして、呼び出したいセットアップのエリアを選びます。セットアップが呼び出されます。

[REGISTRATION]
Bank: 02

FZ

- フリーズ機能の詳細は、[36ページ「フリーズ機能について」](#)をご参照ください。

[REGISTRATION]
Bank: 02
AREA 1

- 呼び出されたセットアップに従って、音色やリズムなどの設定が自動的に切り替わります。

■フリーズ機能について

登録したセットアップを呼び出すと、通常は[34ページ「登録可能な設定項目」](#)にあるすべての設定が上書きされます。フリーズ機能を使うと、特定の設定項目を指定して、上書きしない(変えない)ようにすることができます。FUNCTIONパラメーターの**58～69番**(**57番**の“FREEZE”に含まれる各パラメーター)について、“On”(セットアップ呼び出し時に設定を上書きしない)または“Off”(上書きする)のいずれかを指定します。

- 設定を“On”にすると上書きされなくなる設定項目については、[34ページ「登録可能な設定項目」](#)をご参照ください。
- FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

■セットアップをペダルで呼び出す(シーケンシャルペダルリコール)

ペダルを踏むたびに、レジストレーション機能で登録したセットアップを次々と呼び出すことができます。

■セットアップを呼び出すためのペダルを指定するには

1. **15** **▼**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。FUNCTIONモードに入ります。
2. **10**＜、**11**＞を使って“REGISTRATION” → “SEQUED RECALL”の順にメニューを選択します。
3. **10**＜、**11**＞を使ってペダル端子を選び、**12**ENTERにタッチします。

このペダル端子を選ぶには:	これを表示する:
27 DAMPER PEDAL端子	Damper Pedal
31 EXPRESSION/ASSIGNABLE端子	Exp/Asgn Pedal

4. **10**－、**11**＋を使って、ペダル端子の設定を変更します。

この設定にするには:	これを表示する:
ペダルでセットアップを昇順に呼び出す	Inc
ペダルでセットアップを降順に呼び出す	Dec
ペダルでセットアップを呼び出さない	Off

- 各設定でのペダルの動作については、[37ページ「シーケンシャルペダルリコール機能を使って演奏するには」](#)をご参照ください。
- この設定を“Inc”または“Dec”にした端子に接続したペダルの用途は、レジストレーションセットアップの呼び出し専用となり、“Damper Target”(6ページ)または“Exp/Asgn Target”(7ページ)でペダルに割り当てられていた機能は無効になります。

5. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15**EXITを押さえ続けます。

■シーケンシャルペダルリコール機能を使って演奏するには

1. 36ページ「セットアップを呼び出すためのペダルを指定するには」の手順4で設定を“Inc”または“Dec”にした端子に、付属のペダル(または弊社製サステインペダル)を接続します。

2. レジストレーションのセットアップを呼び出したタイミングで、ペダルを踏みます。

設定が“Inc”の場合:

- ペダルを短く踏んで離すたびに、レジストレーションセットアップが、バンク番号-エリア番号の昇順(1-1、1-2、1-3、1-4、2-1、2-2...)に呼び出されます。
- ペダルを長く踏んで離すたびに、短く踏んだときは逆順(2-2、2-1、1-4、1-3...)にセットアップが呼び出されます。

設定が“Dec”の場合:

- ペダルを短く踏んで離すたびに、レジストレーションセットアップが、バンク番号-エリア番号の降順(24-4、24-3、24-2、24-1、23-4、23-3...)に呼び出されます。
- ペダルを長く踏んで離すたびに、短く踏んだときは逆順(23-3、23-4、24-1、24-2...)にセットアップが呼び出されます。

■シーケンシャルペダルリコール機能をキャンセルするには

36ページ「セットアップを呼び出すためのペダルを指定するには」を実行します。手順4で“Off”を表示してください。

MIDIレコーダーで演奏を録音する

本機による鍵盤演奏を、MIDIデータとして記録します。記録内容は、SONGモード(10ページ)の曲番号11~15番に保存されます。

- 録音可能な曲数は5曲です。
- 1曲ごとに、3トラックを使ったマルチトラック録音が可能です。
- 1曲に記録できる最大音符数は、3トラックの合計で約30,000音符です。

!! 重要

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

■MIDIレコーダーについて

本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2種類の録音機能を備えています。MIDIレコーダーは音そのもの(オーディオデータ)を記録するのではなく、鍵盤の演奏情報(鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど)をMIDIデータ※として記録します。MIDIデータは、オーディオデータと比較すると極めてデータサイズが小さく、コンピューターなどで後から編集することができるという利点があります。

※MIDIとは
MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、メーカーを問わず、電子楽器同士あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で演奏情報(鍵盤の押鍵や離鍵、タッチの強さなど)をやり取りできるように定めた統一規格のことです。やり取りする演奏情報をMIDIデータと呼びます。

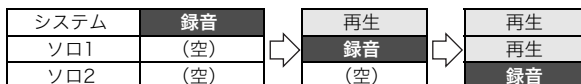
■録音トラックと記録される内容について

本機のMIDIレコーダーは、録音トラック3つを備えたマルチトラックレコーダーです。

録音トラックにはシステムトラックとソロトラックがあり、それぞれ記録できる内容が異なります。

- システムトラック:** 自動伴奏を使った演奏が記録できます。また、レイヤーやスプリットなど、演奏時の鍵盤の設定も記録可能です。
- ソロトラック1、ソロトラック2:** 1音色(Upper1)を使った鍵盤演奏が録音できます。

これらのトラックに、下図のイメージで重ね録音ができます。



■トラック別記録内容一覧

「システム」列はシステムトラック、「ソロ」列はソロトラック1、2への各項目の記録可否を表します。

○ 記録されます。

× 記録されません。

操作または設定	システム	ソロ
テンポ	○	×
拍子	○	×
自動伴奏番号	○	×
自動伴奏コントローラー	○	×
伴奏音量	○	×
伴奏鍵盤操作(コード指定)	○	×
音律設定	○	×
自動伴奏スケールOn/Off	○	×
デュエット設定	○	×
鍵盤音量	○	×
ホールシミュレーター/リバーブ		
On/Off	○	×
タイプ	○	×
デプス	○	×
サラウンド設定	○	×
コーラスタイプ	○	×
ブリリアンス	○	×
アコースティックシミュレーター	○	×
鍵盤操作		
Upper1	○	○
Upper2	○	×
Lower	○	×
オートハーモナイズ	○	×
アルペジエーター	○	○
音色変更		
Upper1	○	○
Upper2	○	×
Lower	○	×
DSP	○	○
ペダル操作※1	○	○
オクターブシフト	○	○※2
パートボリューム	○	○※2
ファインチューン	○	○※2
ピッチバンドホイール操作	○	○
ピッチバンドレンジ	○	○

操作または設定	システム	ソロ
ノブ操作		
カットオフ周波数	○	○
レゾナンス	○	○
ブリリアンス	○	×
リバーブセンド	○	○
コーラスセンド	○	○
アタックタイム	○	○
リリースタイム	○	○
ビブラートレート	○	○
ビブラートデプス	○	○
ディレイビブラートタイム	○	○
ポルタメントタイム	○	○
モジュレーションデプス	○	○
レイヤー音量バランス	○	○※2
Upper2ファインチューン	○	×
Upper1パン	○	○
Upper2パン	○	×
Lower音量	○	×
Lowerパン	○	×
鍵盤コーラスセンド	○	○※2
鍵盤リバーブセンド	○	○※2
鍵盤音量	○	×
伴奏音量	○	×
曲音量	×	×
DSPパラメーター1	○	○
DSPパラメーター2	○	○

※1 ダンパー、ソフト、ソステヌート、エクスプレッション

※2 Upper1のみ

■外部機器への保存について

本機に録音したデータは、USBメモリーに保存できます。[53ページ「USBメモリーの各種操作」](#)をご参照ください。

演奏を録音・再生する

重要

- 録音中に残り音符数が100以下になると**14**REC●が点滅し始め、残りがなくなると**14**REC●が消灯して録音が停止します。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

■MIDIレコーダー使用前の準備

本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。録音または再生したいデータのタイプに応じて、MIDIモードとオーディオモードの間で切り替えることが必要です。

- MIDIレコーダーは、本機がMIDIモードのときに利用可能です。本機がオーディオモードになっている場合は、下記操作(手順1)でMIDIモードに切り替えてください。
- 本機の初期設定はMIDIモードなので、初期設定を変更していない場合、下記操作(手順1)は不要です。

1. 次の操作で、本機をMIDIモードに切り替えます。

- 15** Vを押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
- 10** <、**11** >を使って“SONG” → “Song Type”の順にメニューを選択します。
- 10** −、**11** +を使って、設定を“MIDI”に切り替えます。
- FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**13** EXITを押さえ続けます。

2. 必要に応じて、41ページ「録音設定を変更するには」を実行します。

- 下記設定が変更できます。初期設定のままで良い場合、この操作は不要です。
拍子(初期設定:4拍子)、メトロノーム(初期設定:鳴らさない)、プレカウント(初期設定:鳴らさない)

■録音が始まる操作

MIDIレコーダーまたはオーディオレコーダー(42ページ)の録音待機状態では、次の操作で録音が始まります。

- 鍵盤を弾く
- ペダルを押す
- 23** PITCH BENDホイール、**22** ノブ(K1)、またはノブ(K2)を操作する
- 8** START/STOP、**5** NORMAL/FILL-IN、**6** VARIATION/FILL-IN、または**4** INTROにタッチする
- レジストレーションメモリーに登録したセットアップを呼び出す(36ページ)

■録音するには(システムトラックへの録音)

メモ

- 下記操作を始める前に、39ページ「MIDIレコーダー使用前の準備」をお読みください。
- 下記操作では、MIDIレコーダーの録音エリア(曲番号11～15番)のうち、まだ何も録音されていない最小番号エリアの、システムトラックに録音されます。

1. 録音時に使う音色やリズム、エフェクト、テンポなどを設定します。

- 録音開始時に記録可能な設定項目については、38ページ「トラック別記録内容一覧」の「システム」列をご参照ください。

2. **14**REC●にタッチします。

録音待機状態になり、**14**REC●が赤色で点滅します。

- 録音をやめる場合は、もう一度**14**REC●にタッチします。
- すでにMIDIレコーダーの曲数上限まで録音済みの場合は、“Data Full”と表示され、録音待機状態から抜けません。この場合は、41ページ「MIDIレコーダー曲を消去するには」の操作で不要な曲を消去してください。

3. 録音を始めるには、鍵盤を弾くか、**8** START/STOPにタッチします※。

14REC●が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。

※このほかの操作でも、録音を開始できます。詳しくは39ページ「録音が始まる操作」を参照してください。

4. 録音を終了するには、**14**REC●にタッチします。

- 自動的にSONGモードに切り替わり、今録音した曲が選択された状態になります。

5. 今録音した曲をすぐに再生するには、**8** ▶/■にタッチします。

■録音前に記録先の曲番号を選ぶには

1. **3** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます(SONGモード)。

2. **10** −、**11** +を使って、曲番号を選びます。

- 曲番号11～15が、MIDIレコーダーの録音エリアです。必要に応じて**8** ▶/■にタッチし、選んだ番号のエリアが未録音か、録音済みかを確認してください。
- ここで選択した曲番号に録音するには、39ページ「録音するには(システムトラックへの録音)」を実行してください。システムトラックに録音済みの録音エリアを選んだ場合は、新たに録音した内容で上書きされます。

■録音済みのシステムトラックに重ねてソロトラックに録音するには

メモ

- 39ページ「録音するには(システムトラックへの録音)」の操作に続けて下記を実施する場合、下記の手順1、2の操作は不要です。

1. **[3]** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます(SONGモード)。
2. **[10]** **[11]** +を使って、システムトラックへの録音が済んでいるMIDIレコーダー曲の曲番号を選びます。
 - 曲番号11～15が、MIDIレコーダーによる録音曲です。必要に応じて**[8]** **[▶/■]**にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
3. 録音時に使う音色などを設定します。
 - 録音開始時に記録可能な設定項目については、38ページ「トラック別記録内容一覧」の「ソロ」列をご参照ください。
4. **[14]** **REC●**にタッチします。録音待機状態になり、**[14]** **REC●**が赤色で点滅します。
5. **[14]** **REC●**を押さえ続け、液晶画面に“[MIDI REC SETTING]”と表示されたら離します。
6. “Rec Track”が表示されているのを確認し、**[12]** **ENTER**にタッチします。



7. **[10]** **[11]** +を使って、トラックを選びます。
 - ソロトラック1を選ぶには“Solo 1”、ソロトラック2を選ぶには“Solo 2”を表示します。
8. 録音を始めるには、鍵盤を弾くか、**[8]** **START/STOP**にタッチします※。システムトラックの再生と同時に、手順7で選択したソロトラックへの録音が開始されます。**[14]** **REC●**が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。
※このほかの操作でも、録音を開始できます。詳しくは39ページ「録音が開始される操作」を参照してください。
9. 録音を終了するには、**[14]** **REC●**にタッチします。
10. 今録音した内容をすぐに再生するには、**[8]** **[▶/■]**にタッチします。
 - システムトラックとソロトラックへの録音内容が、同時に再生されます。
 - さらにもう1つのソロトラックに重ねて録音したい場合は、手順3～10をもう一度実行します。手順7では、未録音のソロトラックを選んでください。

■録音済みトラックの一部を録音し直すには(パンチイン録音)

メモ

- MIDIレコーダー曲の中で、指定したトラックの直したい箇所だけを、録音し直すことができます。
- 必要に応じて、パンチイン録音時に曲の再生を何小節目から開始するかを指定することができます(初期設定では1小節目から再生開始)。[41ページ「録音設定\(プレカウント、メトロノーム、拍子、パンチイン小節\)」](#)をご参照ください。

1. 録音し直したいトラックを含むMIDIレコーダー曲の曲番号を選びます。
 - (1) **[3]** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます(SONGモード)。
 - (2) **[10]** **[11]** +を使って、曲番号を選びます。
 - 曲番号11～15が、MIDIレコーダーによる録音曲です。必要に応じて**[8]** **[▶/■]**にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
2. **[14]** **REC●**にタッチします。録音待機状態になり、**[14]** **REC●**が赤色で点滅します。
3. **[14]** **REC●**を押さえ続け、液晶画面に“[MIDI REC SETTING]”と表示されたら離します。
4. 録音し直したいトラックを選びます。
 - (1) “Rec Track”が表示されているのを確認し、**[12]** **ENTER**にタッチします。
 - (2) **[10]** **[11]** +を使ってトラックを選びます。

このトラックを選ぶには:	これを表示する:
システムトラック	System
ソロトラック1	Solo 1
ソロトラック2	Solo 2

- (3) **[15]** **EXIT**にタッチします。
5. トラックの録音タイプとして、パンチイン録音を選びます。
 - (1) **[10]** **[11]** >を使って“Rec Type”を表示し、**[12]** **ENTER**にタッチします。
 - (2) **[10]** **[11]** +を使って、“Punch In”を選びます。
6. **[8]** **START/STOP**にタッチします。曲の再生が開始されます。
 - パンチイン録音をやるめるには、もう一度**[8]** **START/STOP**にタッチします。
7. 録音し直したいタイミングで、鍵盤演奏を開始します。押鍵と同時に録音が開始され、**[14]** **REC●**が赤色点滅から点灯に切り替わります。
 - [14]** **REC●**にタッチして録音を開始することもできます。この場合、鍵盤を弾き始めるまでは、休符(無音)となります。
8. 録音を終了するには、**[14]** **REC●**にタッチします。
 - 手順4で指定したトラックに録音されていた内容のうち、新たな録音の開始から終了までの部分だけが上書きされます。

録音設定(プレカウント、メトロノーム、拍子、パンチイン小節)

録音関連の設定には次の項目があります。

表示	内容と設定値
Precount	録音開始のタイミングを知らせるプレカウントを、鳴らすかどうかを指定します。 Off: プレカウントを鳴らしません。 8 START/STOP または鍵盤を押すと同時に録音が始まります。 1 Measure / 2 Measure: 録音待機中に 8 START/STOP または鍵盤を押すと、1小節または2小節のプレカウントが鳴ります。 8 START/STOP を押した場合は、プレカウント後にリズム再生と同時に録音が始まります。鍵盤を押した場合は、プレカウント後に録音が始まります(リズム再生は開始されません)。
Metronome	録音中に、メトロノームを鳴らすかどうかを指定します。 On: 録音中にメトロノームを鳴らします。 Off: 録音中にメトロノームを鳴らしません。
Beat	録音時の拍子を決めます。 0: 1拍子です。録音時にメトロノームを鳴らす場合、すべての拍でクリック音が鳴ります。 1: 1拍子です。録音時にメトロノームを鳴らす場合、すべての拍でベル音が鳴ります。 2~9: 2拍子~9拍子です。録音時にメトロノームを鳴らす場合、拍頭ではベル音、その他の拍ではクリック音が鳴ります。
PunchInMeasure	パンチイン録音(40ページ)の実行時に、曲の再生が何小節目から開始されるかを指定します。例えば28小節目から録音し直したい場合に、24小節目から再生を開始すれば、録音済みの曲を4小節分だけ聴いてから弾き直すことができます。 001(曲の先頭)~999の間で設定可能です。

■録音設定を変更するには

- 14** **REC**●にタッチします。
録音待機状態になり、**14** **REC**●が赤色で点滅します。
- 14** **REC**●を押さえ続け、液晶画面に“[MIDI REC SETTING]”と表示されたら離します。
- 10** <、**11** >を使って設定を変更したい項目(“Precount”、“Metronome”、“Beat”、“PunchInMeasure”)を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
- 10** −、**11** +を使って、設定値を変更します。
- 15** **EXIT**にタッチします。
• 複数の設定を項目変更したい場合は、項目ごとに手順3~5を実行します。
- 設定を終了するには、**14** **REC**●にタッチします。

MIDIレコーダー曲を消去する

1曲全体、または1曲の中の特定トラックだけを消去することが可能です。

■MIDIレコーダー曲を消去するには

- 3** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます(SONGモード)。
- 10** −、**11** +を使って、消去したいMIDIレコーダー曲の曲番号を選びます。
• 曲番号11~15が、MIDIレコーダーによる録音曲です。必要に応じて**8** ▶/■にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
- 14** **REC**●を押さえ続け、液晶画面に“Song Clear”と表示されたら離します。
- 12** **ENTER**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
- 消去するには**11** +、消去をやめるには**10** −にタッチします。

■MIDIレコーダー曲の特定トラックを消去するには

- 41ページ「MIDIレコーダー曲を消去するには」の手順1～3を実行します。
 - 10<**、**11>**を使って“Track Clear”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
 - 10<**、**11>**を使って消去したいトラックを表示します。
- | このトラックを消去するには: | これを表示する: |
|----------------|----------|
| システムトラック | System |
| ソロトラック1 | Solo 1 |
| ソロトラック2 | Solo 2 |
- 12ENTER**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
 - 消去するには**11+**、消去をやめるには**10-**にタッチします。

オーディオレコーダーで演奏を録音する

本機による鍵盤演奏を、オーディオデータとして記録します。記録内容は、WAVファイル(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)の形式で、本機のUSBメモリー端子に接続したUSBメモリーに保存されます。

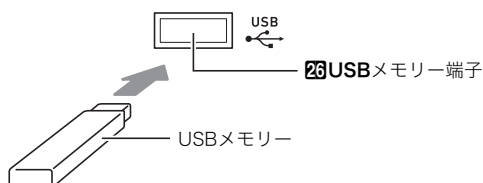
⚠ 重要

- オーディオレコーダーによる録音中あるいは再生中は、USBメモリーを取り外さないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリーの取り扱いについて詳しくは、51ページ「USBメモリーを使用する」をご参照ください。
- 本機が対応しているUSBメモリーのフォーマットについては、51ページ「使用可能なUSBメモリー」をご参照ください。

■オーディオレコーダー使用前の準備

- 次の操作で、本機をオーディオモード※に切り替えます。
 - 15V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
 - 10<**、**11>**を使って“SONG” → “Song Type”の順にメニューを選択します。
 - 10-**、**11+**を使って、設定を“Audio”に切り替えます。
 - FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15EXIT**を押さえ続けます。

- USBメモリーを、本機の**23**USBメモリー端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。
- 本機がUSBメモリーを認識すると、液晶画面に“MOUNTING”と表示されます。表示が消えるまでは、何も操作せずにしばらくお待ちください。

※本機はMIDIレコーダーとオーディオレコーダー、2つの録音機能を備えています。録音または再生したいデータのタイプに応じて、MIDIモードとオーディオモードの間で切り替えることが必要です。

■鍵盤演奏をUSBメモリーに録音するには

- 42ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。
- 14REC●**にタッチします。
録音待機状態になり、**14REC●**が赤色で点滅します。SONGモードだった場合は、RHYTHMモードに切り替わります。
録音をやめる場合は、もう一度**14REC●**にタッチします。
- 録音を始めるには、鍵盤を弾くか、**8START/STOP**にタッチします※。
14REC●が赤色点滅から点灯に切り替わり、録音中になったことを表します。
※このほかの操作でも、録音を開始できます。詳しくは39ページ「録音が開始される操作」を参照してください。

メモ

- オーディオレコーダーでの録音可能時間は最大約25分で、この時間が経過すると録音は自動的に終了します。録音可能な時間が残りわずかになると**14REC●**が点滅を始めるので、点滅を確認したら、録音を早めに終了してください。
- 録音を終了するには、**14REC●**にタッチします。
 - 録音内容が、USBメモリーにWAVファイルとして保存されます。録音した順番で「TAKE01.WAV」から「TAKE99.WAV」までのファイル名が自動的に付きます。
 - SONGモードに切り替わり、保存されたファイルが自動的に選択されます。
 - 今録音した内容をすぐに再生するには、**8▶/■**にタッチします。

■オーディオレコーダーで録音したファイルを選んで再生するには

- 42ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。
- 3** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます (SONGモード)。

RHYTHM
ACCOMP
==
SONG

- 10**−、**11**＋を使って、再生したいファイルを選びます。
- 再生を開始するには、**8**▶/■にタッチします。
 - 最後まで再生されると、再生は停止します。途中で再生を停止するには、**8**▶/■にタッチします。

■オーディオレコーダーで録音したファイルを削除するには

- 42ページ「オーディオレコーダー使用前の準備」を実行します。
- 3** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます (SONGモード)。
- 10**−、**11**＋を使って、削除したいファイルを選びます。
- 14**REC●を押さえ続け、液晶画面に“Sure?”と表示されたら離します。
- ファイルを削除するには**11**＋、削除をやめるには**10**−にタッチします。

曲を聴く (MIDIプレーヤー)

本機はMIDIプレーヤー機能(MIDIデータの再生機能)を備えています。

■再生可能な曲について

曲の種類	説明
ユーザー曲	お好きな曲を、最大10曲までユーザー曲(曲番号1〜10)として追加できます。ユーザー曲を追加するには、USBメモリーまたはスマートデバイスに本機で利用可能な曲データ(1曲あたり最大320KB)を保存して、その曲データを本機に転送します。詳しくは、53ページ「USBメモリーの各種操作」および56ページ「スマートデバイスとリンクする (APP機能)」をご参照ください。
MIDIレコーダー曲	本機のMIDIレコーダーで録音した曲です。37ページ「MIDIレコーダーで演奏を録音する」をご参照ください。
USBメモリー曲	USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)またはカシオMIDIファイル(CMF形式)です。保存のしかたについては、56ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。

■曲を選んで再生するには

- USBメモリー曲を再生したい場合は、曲を保存済みのUSBメモリーを、本機の**23**USBメモリー端子へ差し込みます。
 - USBメモリーのマウント完了後、本機がUSBメモリーの曲一覧を読み込んでいる間は、液晶画面に“WAIT”と表示されます。表示が消えるまで、お待ちください。
 - USBメモリーの取り扱いについて詳しくは、51ページ「USBメモリーを使用する」をご参照ください。
- 3** モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます (SONGモード)。

RHYTHM
ACCOMP
==
SONG

- 10**−、**11**＋を使って、曲番号を選びます。

曲番号	曲のタイプ
1〜10	ユーザー曲
11〜15	MIDIレコーダー曲
16〜999	USBメモリー曲

- 選んだ曲によっては、液晶画面に“LOADING”と表示されることがあります。これは、データの読み込み中を表します。

4. 選択した曲を再生するには、**[8]▶/■**にタッチします。
- ・拍子に合わせて、**[8]▶/■**ボタンの上にある黄色と赤のLEDが点滅します(1拍目:黄色、残りの拍:赤)。
 - ・曲の再生中は、下記の操作が可能です。

これをするには:	この操作をする:
再生を止める	[8]▶/■ にタッチする
一時停止する	[7] にタッチする
再生のテンポ(速さ)を変える	32ページ「自動伴奏や曲のテンポ(速さ)を変える」を参照
1小節先に進める	[6]▶▶ にタッチする
早送りする	[6]▶▶ を押さえ続ける
1小節前に戻す	[5]◀◀ にタッチする
早戻しする	[5]◀◀ を押さえ続ける

- ・曲の最後まで再生されると、再生は終了します。

■片手パートの音を消して曲を再生するには (消したパートを自分で弾いて練習するには)



- ・下記の操作は、ユーザー曲とUSBメモリー曲で可能です。

1. 43ページ「曲を選んで再生するには」の手順1、2を実行します。
2. 必要に応じて、32ページ「自動伴奏や曲のテンポ(速さ)を変える」の操作で曲のテンポを設定します。
3. **[4]PART**を使って、音を消したいパートを選びます。
 - ・**[4]PART**にタッチするたびに再生パートの設定が切り替わり、設定に従って液晶画面の下部に“L”と“R”の文字が下記のように表示されます。

表示	意味
LR	左右両方のパートを再生します。
L	左手パートだけ再生し、右手パートを消します。
R	右手パートだけ再生し、左手パートを消します。
	左右両方のパートを消します。

4. 曲を再生するには、**[8]▶/■**にタッチします。
- ・音を消したパートを、再生に合わせて自分で弾きます。
 - ・再生中でも、テンポ設定を変更できます。
 - ・曲の終わりまで到達すると、再生は終了します。曲の途中で再生を止めるには、**[8]▶/■**にタッチします。



- ・USBメモリーに保存されている標準MIDIファイル(SMF形式)を再生する場合、3chが左手パート、4chが右手パートとなります。

■曲の設定を鍵盤演奏用の設定として読み込むには



- ・下記の操作で、選択した曲の冒頭部分に記録されている下記の設定を、鍵盤演奏用の設定として読み込むことができます。
テンポ、ホールシミュレーター/リバーブ設定(On/Off、タイプ、デブス)、サラウンド設定(MIDIレコーダー曲のみ)、コーラスタイプ、プリリアンス設定(MIDIレコーダー曲のみ)、音律設定(MIDIレコーダー曲のみ)

1. 43ページ「曲を選んで再生するには」の手順1、2を実行します。
2. **[3]**モード選択ボタンを押さえ続け、液晶画面に“COMPLETE”と表示されたら離します。
選択していた曲の設定が、鍵盤演奏用の設定として読み込まれます。

■ユーザー曲を消去するには

1. **[3]**モード選択ボタンを使って、“SONG”を点灯させます(SONGモード)。
2. **[10]ー**、**[11]+**を使って、消去したいユーザー曲の曲番号(1～10)を選びます。
 - ・必要に応じて**[8]▶/■**にタッチして曲を再生し、内容を確認してください。
3. **[14]REC●**を押さえ続け、液晶画面に“Sure?”と表示されたら離します。
4. 消去するには**[11]+**、消去をやめるには**[10]ー**にタッチします。

機能設定を変更する(FUNCTIONモード)

FUNCTIONモードには、機能設定を変更するためのメニュー項目がまとめられています。メニュー項目には、ディレクトリとパラメーターの2種類があります。

ディレクトリ: 複数のパラメーターを含むグループです。

パラメーター: 実際に設定が可能な項目です。例えば“Touch Response” (タッチレスポンス) というパラメーターを選んでから、その設定値を変更します。

下表はFUNCTIONモードに含まれるメニュー項目の一部です。表中で「(DIR)」が付いている項目はディレクトリ、それ以外はすべてパラメーターです。

パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
サウンド (DIR)	SOUND	—
アコースティックシミュレーター設定 (DIR)	ACOUSTIC SIMU.	—
ストリングレゾナンス	String Reso.	Tone, Off, 1～4
ダンパーレゾナンス	Damper Reso.	Tone, Off, 1～4
ダンパーノイズ	Damper Noise	Tone, Off, 1～4
キーオンアクションノイズ	Key On Noise	Tone, Off, 1～4
キーオフアクションノイズ	Key Off Noise	Tone, Off, 1～4
エフェクト設定 (DIR)	EFFECT	—
コーラスタイプ	Chorus Type	Tone, 1～12
:	:	:

FUNCTIONモードに含まれるすべてのディレクトリとパラメーターの一覧は、[47ページ「FUNCTIONモードメニュー項目一覧」](#)をご参照ください。

■FUNCTIONパラメーターを変更するには

1. [47ページ「FUNCTIONモードメニュー項目一覧」](#)を参照し、設定を変更したいパラメーター(およびそのパラメーターの上位ディレクトリ)を確認します。

2. **16** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。

FUNCTIONモードに入り、トップメニューが表示されます。

- FUNCTIONモードのトップメニューでは、1行目に“[FUNCTION]”、2行目にディレクトリ名が表示されます。ディレクトリ名は、すべて大文字で表示されます。



ディレクトリ名

3. 設定を変更したいパラメーターの名前を表示します。
- 例えば“Chorus Type”というパラメーターを表示するには、“SOUND”(ディレクトリ) → “EFFECT”(ディレクトリ) → “Chorus Type”(パラメーター)の順に階層を下りていく必要があります。次のように操作します。
- (1) **10<**、**11>**を使って“SOUND”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
- “SOUND”ディレクトリ内に入ります。
- (2) **10<**、**11>**を使って“EFFECT”を表示し、**12ENTER**にタッチします。
- “EFFECT”ディレクトリ内に入ります。
- (3) **10<**、**11>**を使って“Chorus Type”を表示します。
- 現在のディレクトリから抜けて1つ上の階層に戻るには、**15EXIT**にタッチします。
4. パラメーター名を表示したら、**12ENTER**にタッチします。
- 設定値の編集状態に入り、表示しているパラメーターの現在の設定値が、液晶画面の3行目に表示されます。



5. **10-**、**11+**または**22**ノブ(K1)を使って、設定値を変更します。
- 10-**と**11+**に同時にタッチすると、初期値に戻ります。
6. 希望する設定値に変更したら**15EXIT**にタッチして、設定値の編集状態から抜けます。
7. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15EXIT**を押さえ続けます。



• 上記はFUNCTIONモードでの一般的な操作手順です。FUNCTIONモードに含まれる一部の項目では、上記とは操作が異なる場合があります。下記をご参照ください。

この項目については	ここを参照
オペレーションロック (Operation Lock)	50ページ「オペレーションロック」
設定リセット (Setting Reset)	51ページ「本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻すには(設定リセット)」
ファクトリーリセット (Factory Reset)	51ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)」

■FUNCTIONモードメニュー項目一覧

- 下記各項目の設定を変更する一般的な操作手順については、[45ページ「FUNCTIONパラメーターを変更するには」](#)をご参照ください。
- 機能名の末尾に「(DIR)」が付いている項目は、ディレクトリ(複数のディレクトリやパラメーターを含む上位階層)です。

No.	パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
1	サウンド (DIR)	SOUND	—
2	アコースティックシミュレーター設定 (DIR)	ACOUSTIC SIMU.	—
3	ストリングレゾナンス	String Reso.	Tone, Off, 1~4
4	ダンパーレゾナンス	Damper Reso.	Tone, Off, 1~4
5	ダンパーノイズ	Damper Noise	Tone, Off, 1~4
6	キーオンアクションノイズ	Key On Noise	Tone, Off, 1~4
7	キーオフアクションノイズ	Key Off Noise	Tone, Off, 1~4
8	エフェクト設定 (DIR)	EFFECT	—
9	コーラスタイプ	Chorus Type	21ページ を参照
10	ブリリアンス	Brilliance	−3~+3
11	鍵盤 (DIR)	KEYBOARD	—
12	タッチレスポンス	Touch Response	16ページ を参照
13	鍵盤音量	KeyboardVolume	0~127
14	パート音量 (DIR)	PART VOLUME	—
15	Upper1パート	Upper1 Part	0~127
16	Upper2パート	Upper2 Part	0~127
17	Lowerパート	Lower Part	0~127
18	パートオクターブシフト (DIR)	PART OCT SHIFT	—
19	Upper1パート	Upper1 Part	−2, −1, 0, +1, +2
20	Upper2パート	Upper2 Part	−2, −1, 0, +1, +2
21	Lowerパート	Lower Part	−2, −1, 0, +1, +2
22	パートファインチューニング (DIR)	PART FINE TUNE	—
23	Upper1パート	Upper1 Part	−99~0~+99
24	Upper2パート	Upper2 Part	−99~0~+99
25	Lowerパート	Lower Part	−99~0~+99
26	音律設定 (DIR)	SCALE TUNING	—
27	音律のタイプ	Scale Type	26ページ を参照
28	音律の基音	Scale Base Note	C~B
29	自動伴奏に音律を使う	Accomp Scale	On, Off
30	デュエット設定 (DIR)	DUET	—
31	デュエットモード	Duet Mode	Off, On, Pan
32	右側鍵盤の音域	Upper Octave	−2~+2
33	左側鍵盤の音域	Lower Octave	−2~+2

No.	パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
34	ペダル/ホイール(DIR)	PEDAL/WHEEL	—
35	ダンパーペダル(DIR)	DAMPER PEDAL	—
36	ペダルの機能	Pedal Target	6ページを参照
37	Upper1パート	Upper1 Part	On, Off
38	Upper2パート	Upper2 Part	On, Off
39	Lowerパート	Lower Part	On, Off
40	エクスプレッション/アサインابلペダル(DIR)	EXP/ASGN PEDAL	—
41	ペダルのタイプ	Pedal Type	7ページを参照
42	ペダルの機能	Pedal Target	7ページを参照
43	Upper1パート	Upper1 Part	On, Off
44	Upper2パート	Upper2 Part	On, Off
45	Lowerパート	Lower Part	On, Off
46	EXPRESSIONペダルのキャリブレーション	Exp Calibration	8ページを参照
47	ペダルユニット(DIR)	PEDAL UNIT	—
48	Upper1パート	Upper1 Part	On, Off
49	Upper2パート	Upper2 Part	On, Off
50	Lowerパート	Lower Part	On, Off
51	ピッチベンドホイール(DIR)	WHEEL	—
52	ピッチベンドレンジ	P Bend Range	0~24
53	Upper1パート	Upper1 Part	On, Off
54	Upper2パート	Upper2 Part	On, Off
55	Lowerパート	Lower Part	On, Off
56	レジストレーション(DIR)	REGISTRATION	—
57	フリーズターゲット(DIR)	FREEZE	—
58	ペダル/ホイール	Pedal/Wheel	On, Off
59	ノブ	Knob	On, Off
60	音律	Scale Tuning	On, Off
61	タッチレスポンス	Touch Response	On, Off
62	サウンドモード	Sound Mode	On, Off
63	エフェクト	Effect	On, Off
64	トランスポーズ	Transpose	On, Off
65	スプリットポイント	Split Point	On, Off
66	アルペジエーター/オートハーモナイズ	Arpeg./A.Harmo.	On, Off
67	テンポ	Tempo	On, Off
68	リズム関連	Accompaniment	On, Off
69	音色関連	Tone	On, Off
70	シーケンシャルペダルリコール(DIR)	SEQ PED RECALL	—
71	ダンパーペダル	Damper Pedal	Inc, Dec, Off
72	エクスプレッション/アサインابلペダル	Exp/Asgn Pedal	Inc, Dec, Off

No.	パラメーター名またはディレクトリ名	表示	設定値
73	自動伴奏設定 (DIR)	ACCOMPANIMENT	—
74	音量	Accomp Volume	0~127
75	コード入力方法	Chord Mode	30ページを参照
76	ミュージックプリセットキー	MP Key Shift	—5~0~+6
77	アルペジエーター／オートハーモナイズ (DIR)	ARPEG./A.HARMO.	—
78	タイプ選択	Type Select	A.Harmonize, Arpeggiator
79	アルペジエーターホールド	Arpeggio Hold	On, Off
80	アルペジエーターパート	Arpeggio Part	Upper1&2, Upper1
81	曲設定 (DIR)	SONG	—
82	曲タイプ	Song Type	MIDI, Audio
83	MIDI曲のメトロノーム	MIDI Metronome	On, Off
84	MIDI曲の音量	MIDI Volume	0~127
85	オーディオ曲の音量	Audio Volume	0~127
86	オーディオ曲のセンターキャンセル	Audio C Cancel	On, Off
87	メディア (DIR)	MEDIA	53ページを参照
88	MIDI (DIR)	MIDI	—
89	送信チャンネル	Keyboard Chan	1~16
90	ローカルコントロール	Local Control	On, Off
91	Hi-Reso Velocity MIDI Out	Hi-Reso MIDI Out	On, Off
92	Accomp MIDI Out	Accomp MIDI Out	On, Off
93	オーディオ入力 (DIR)	AUDIO IN	—
94	Bluetooth (DIR)	BLUETOOTH	—
95	Bluetoothオーディオ	Bluetooth Audio	On, Off
96	ペアリング	Pairing	※1
97	ペアリング情報 (Bluetooth接続履歴) のリセット	Pairing Reset	※1
98	入力音声 (Bluetooth/AUDIO IN端子) の音量	Audio In Volume	0~127
99	入力音声 (Bluetooth/AUDIO IN端子) のセンターキャンセル	Center Cancel	On, Off
100	システム (DIR)	SYSTEM	—
101	チューニング	Master Tuning	415.5~465.9
102	パネル消灯設定	Panel Light	Off, 5, 30, 60, 120 (秒)
103	オペレーションロック	Operation Lock	On, Off
104	スピーカー出力	Speaker Out	On, Off
105	オートレジューム	Auto Resume	On, Off
106	オートパワーオフ	Auto Power Off	On, Off
107	電源切り忘れお知らせ	Power On Alert	On, Off
108	テンポインジケーター	Tempo Indicator	Letter, Icon ^{※2}
109	LCDコントラスト	LCD Contrast	1~17
110	タッチボタン感度	Touch Btn Sense	—1~0~+1
111	設定リセット	Setting Reset	51ページを参照
112	ファクトリーリセット	Factory Reset	51ページを参照
113	バージョン情報	Version	—

※1 別冊「Bluetoothスピーカー活用 × オーディオ&パソコン接続ガイド」をご参照ください。

※2 液晶画面に表示されるテンポ表示を、文字“T” (Letter) またはアイコン (Icon) から選びます。アイコン表示の場合の音符記号には、音価としての意味はありません。

オペレーションロック

オペレーションロックをオンに設定すると、ボタン操作が効かなくなります(⏻(電源)ボタンとオペレーションロックを解除する操作を除く)。

■オペレーションロックをオンにするには

1. **15** **▼**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“SYSTEM” → “Operation Lock”の順にメニューを選択します。
3. **10** **—**、**11** **+**を使って、表示を“Off”から“On”に切り替えます。
4. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

■オペレーションロックを解除するには

1. **15** **▼**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
FUNCTIONモードに入ります。
オペレーションロックがオンの場合、液晶画面が下記表示になります。



2. **10** **—**、**11** **+**を使って、表示を“On”から“Off”に切り替えます。
3. FUNCTIONモードから抜けるには、液晶画面から“[FUNCTION]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

MIDI設定を変更する

本機のMIDI設定を変更するには、下記のFUNCTION/パラメーターを使います。FUNCTIONパラメーターについては、[45ページ「機能設定を変更する\(FUNCTIONモード\)」](#)をご参照ください。

設定項目	FUNCTION パラメーター
送信チャンネル 本機の鍵盤演奏情報を外部機器に送信するときに使うMIDIチャンネルを、1 ch～16 chの間で設定します。	Keyboard Chan (89番)
ローカルコントロール この設定を“Off”に切り替えると、本機による演奏情報(MIDIデータ)は出力されますが、本機自体の音は出なくなります。これは、MIDIデータを外部機器のみに送信するための設定です。	Local Control (90番)
Hi-Reso Velocity MIDI Out 鍵盤を弾いたときのタッチ強弱(Velocity)を高分解能でMIDI出力する(On)か、しない(Off)かを設定します。	Hi-Reso MIDI Out (91番)
Accomp MIDI Out 本設定を“On”にすると、自動伴奏の演奏情報がMIDIデータとして出力されます。	Accomp MIDI Out (92番)

本機に記録されているデータをまとめて消去する

データや設定などシステムの内容をすべてリセットして、工場から出荷したときの状態に戻すことができます。

■本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)

❗重要

- 下記を実行すると、ユーザー曲、MIDIレコーダーで録音した曲、レジストレーションデータも消去されます。大切なデータは、USBメモリーへの保存(54ページ)をおすすめします。

1. **15** **▼**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“SYSTEM”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
3. **10** **<**、**11** **>**を使って“Factory Reset”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
“Sure?”と表示されます。
4. 本機を工場出荷時の状態に戻すには**11** **+**、中止するには**10** **-**にタッチします。

■本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻すには(設定リセット)

FUNCTIONモードで変更した設定内容を、すべて工場から出荷したときの状態に戻すことができます。ユーザーデータは削除されません。

51ページ「本機のすべての設定やデータを工場出荷時の状態に戻すには(ファクトリーリセット)」の手順3で、“Factory Reset”の代わりに“Setting Reset”を選び、**12** **ENTER**にタッチしてください。

USBメモリーを使用する

市販のUSBメモリーを使って、本機で下記のことができます。

USBメモリー上の曲データを再生

パソコンを使ってUSBメモリーに保存した一般の曲データ(MIDIファイル)を、本機で再生することができます。

- USBメモリーに曲データを保存する操作については、56ページ「一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする」をご参照ください。
- 曲データの再生操作については、43ページ「曲を聴く(MIDIプレーヤー)」をご参照ください。

演奏をUSBメモリーに録音

本機による演奏をオーディオデータとしてUSBメモリーに記録できます。42ページ「オーディオレコーダーで演奏を録音する」をご参照ください。

各種データの保存と読み込み

本機に記録した各種のデータ(MIDIレコーダー曲やレジストレーションのセットアップなど)をUSBメモリーに保存したり、本機で保存したデータや本機と互換性のあるデータ(ユーザー曲など)を読み込んだりすることができます。詳しくは、53ページ「USBメモリーの各種操作」をご参照ください。

使用可能なUSBメモリー

容量:32GB以下を推奨

❗重要

- 上記製品での動作確認結果は、その動作を保証するものではありません。
- FAT(FAT32またはexFAT)フォーマットのUSBメモリーをご使用ください。
- パソコン上で複数のドライブとして認識されるUSBメモリーは、使用できないことがあります。
- パソコン上でCD-ROMとして認識されるUSBメモリーは使用できません。
- アンチウイルス機能やセキュリティー機能などの特殊機能付きUSBメモリーは使用できません。

USBメモリーとUSBメモリー端子の取り扱い上のご注意

❗重要

- USBメモリーに付属している取扱説明書の注意事項をお守りください。
- 以下のような場所での保管や使用は避けてください。USBメモリー上のデータが壊れる場合があります。
 - －高温多湿、または腐食性のある場所
 - －強い静電気や電氣的ノイズの発生しやすい場所
- データを保存したり読み込んでいるときには、本機を操作したりUSBメモリーを取り外したりしないでください。USBメモリーのデータが壊れたり、USBメモリー端子が故障したりする場合があります。
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は決して入れないでください。故障の原因となります。
- 長時間使用すると、取り外したUSBメモリーが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- USBメモリー端子に、手やUSBメモリーから静電気が伝わると、本機が誤動作する場合があります。このような場合は、一度本機の電源を切ってから、再び電源を入れてください。

著作権について

個人で楽しむなどのほかは、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配布することも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

USBメモリーを本機に装着する、USBメモリーを本機から取り外す

❗重要

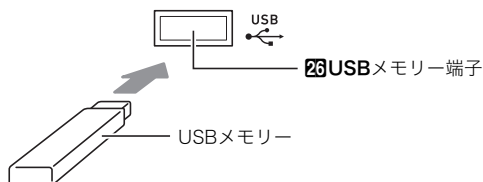
- USBメモリー端子には、USBメモリー以外は差し込まないでください。
- USBメモリーを本機に装着して最初にUSBメモリーを操作するとき、あるいは電源投入後に最初にUSBメモリーを操作するとき、本機のシステムがUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)を行うため、一時的に本機の操作ができなくなる場合があります。マウント中は、液晶画面に“MOUNTING”と表示されます。本機がマウントを完了し、操作が可能になるまで数十秒間かかることがあります。マウント中は、本機を操作しないでください。マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。

メモ

- USBメモリーが本機にマウントされると、ルートディレクトリに“MUSICDAT”という名前のフォルダが作成されます(USBメモリーに“MUSICDAT”フォルダがない場合)。本機とUSBメモリーの間でデータをやりとりする際は、このフォルダを使います。

■USBメモリーを本機に装着するには

1. 下図のように、USBメモリーを本機の②USBメモリー端子へ差し込みます。



- 確実に奥まで差し込んでください。また、無理な挿入はしないでください。

■USBメモリーを本機から取り外すには

1. 液晶画面に“MOUNTING”または“Wait”と表示されていない(データをやりとり中でない)ことを確認してから、USBメモリーを水平にしたまま抜きます。

USBメモリーをフォーマットする

⚠ 重要

- 最初に、必ず本機でUSBメモリーをフォーマットしてください。
- USBメモリーをフォーマットすると、USBメモリー内のデータはすべて削除されます。フォーマットする前に、USBメモリーに大切なデータが保存されていないことをご確認ください。
- 本機でのフォーマットは、クイックフォーマットを実行します。データを完全に消去するにはパソコンなどで通常のフォーマットを行ってください。
- exFATフォーマットの場合、長い名前のファイルがあると、読み込めるファイル数に制限がかかる場合があります。

■USBメモリーをフォーマットするには

1. フォーマットするUSBメモリーを、本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. **15** **V**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
3. **10** **<**、**11** **>**を使って“[MEDIA]”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
MEDIAモードに入ります。
4. **10** **<**、**11** **>**を使って“Format”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
5. フォーマットを実行するには、**11** **+**にタッチします。
 - 中止する場合は、**10** **-**にタッチします。
 - 11** **+**にタッチするとフォーマットが開始され、“Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
6. MEDIAモードから抜けるには、液晶画面から“[MEDIA]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

USBメモリーの各種操作

ここでは、次の各種操作について説明します。

- 本機のデータをUSBメモリーに保存する
- USBメモリー上のデータ(ファイル)を本機に読み込む
- USBメモリー上にある本機が読み込み可能なデータ(ファイル)の名前を変更する
- USBメモリー上にある本機が読み込み可能なデータ(ファイル)を消去する

■データタイプ一覧

本機で扱うことが可能なデータのタイプは、下表のとおりです。データタイプは、本機の液晶画面には「タイプ名表示」欄のように表示されます。

● 本機→USBメモリー

下記のデータは、本機からUSBメモリーに保存できます。

データタイプ	タイプ名表示	拡張子
MIDIレコーダー曲	Record Song	MRF、MID
レジストレーション (バンク単位)	Reg Mem Bank	RBK
本機に保存されている 全ユーザーデータ*	All	DAL

※MIDIレコーダー曲、レジストレーション、ユーザー曲

● USBメモリー→本機

下記のデータは、USBメモリーから本機への読み込み※、名前の変更、および消去が可能です。

データタイプ	タイプ名表示	拡張子
ユーザー曲	User Song	CMF、MID(SMF フォーマット0/1)
MIDIレコーダー曲	Record Song	MRF
レジストレーション (バンク単位)	Reg Mem Bank	RBK
上記すべてのデータ	All	DAL
オーディオデータ*	Audio	WAV

※オーディオデータは名前の変更と削除が可能です。本機への読み込みはできません。

⚠ 重要

- 上記の表中に掲載されている拡張子を持つファイルであっても、本機とは互換性のない機種で作成したデータなど、本機で読み込むことができない場合があります。

■本機のデータをUSBメモリーに保存するには

1. USBメモリーを、本機のUSBメモリー端子に装着します。
2. **15** **▼**を押さえ続け、液晶画面に“[FUNCTION]”と表示されたら離します。
3. **10** **<**、**11** **>**を使って“[MEDIA]”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
MEDIAモードに入ります。
4. **10** **<**、**11** **>**を使って“Save”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
5. **10** **<**、**11** **>**を使って、保存したいデータのタイプ名を表示します。
 - 53ページ「本機→USBメモリー」一覧表の「タイプ名表示」欄をご参照ください。
6. **12** **ENTER**にタッチします。
 - 手順5で“All”を選択した場合、手順7の操作は不要です。手順8に進んでください。
7. **10** **-**、**11** **+**を使って保存するデータを選び、**12** **ENTER**にタッチします。
選んだデータに応じたファイル名が初期表示されます。
 - 手順5で“Record Song”を選択した場合、ここでファイル形式の指定が必要です。**10** **<**、**11** **>**を使って“MRF”（本機専用形式）または“MID”（SMF形式）のいずれかを表示し、**12** **ENTER**にタッチしてください。
8. 必要に応じて、ファイル名を変更します。
 - 文字を編集する操作については、11ページ「文字の入力について」をご参照ください。
 - 文字編集をやめて手順7に戻るには、**10** **<**、**11** **>**ボタンが表示されているとき（文字カーソルの移動が可能なき）に**15** **EXIT**にタッチします。すでにファイル名を変更していた場合は“Cancel?”と表示されるので、**11** **+**にタッチしてください。
9. ファイル名を確定するには、**21** **STORE**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
 - USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダ内に同じ名前のデータがある場合は、“Replace?”と表示されます。この場合、手順10で**11** **+**にタッチすると、USBメモリー上の既存データは上書きされます。
10. 保存してよい場合は、**11** **+**にタッチします。
 - 中止する場合は、**10** **-**にタッチします。
 - **11** **+**にタッチすると、液晶画面に“Wait”（実行中）と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”（完了）と表示されます。
11. MEDIAモードから抜けるには、液晶画面から“[MEDIA]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

■USBメモリーから本機へデータを読み込むには

1. 54ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
2. **10** **<**、**11** **>**を使って“Load”を表示し、**12** **ENTER**にタッチします。
3. **10** **<**、**11** **>**を使って、読み込みたいデータのタイプ名を表示します。
 - 53ページ「USBメモリー→本機」一覧表の「タイプ名表示」欄をご参照ください。
4. **12** **ENTER**にタッチします。
読み込み可能なデータのファイル名が表示されます。
5. **10** **-**、**11** **+**を使って、本機に読み込むデータを選びます。
 - 手順3で“All”を表示した場合は、下記手順6、7の操作は不要です。手順8に進んでください。
6. **12** **ENTER**にタッチします。
7. **10** **-**、**11** **+**を使って、データの読み込み先となるユーザーエリアの番号を指定します。
8. **12** **ENTER**にタッチします。
液晶画面に“Sure?”（または“Replace?”）と表示されます。
 - “Replace?”と表示された場合、手順9で**11** **+**にタッチすると、ユーザーエリア上の既存データは、読み込んだデータで上書きされます。
9. 読み込んでよい場合は、**11** **+**にタッチします。
 - 中止する場合は、**10** **-**にタッチします。
 - **11** **+**にタッチすると、液晶画面に“Wait”（実行中）と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”（完了）と表示されます。
10. MEDIAモードから抜けるには、液晶画面から“[MEDIA]”の表示が消えるまで、**15** **EXIT**を押さえ続けます。

■USBメモリーのデータを消去するには

1. 54ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
2. **10**<、**11**>を使って“Delete”を表示し、**12**ENTERにタッチします。
3. **10**<、**11**>を使って消去したいデータのタイプ名を表示し、**12**ENTERにタッチします。
 - 53ページ「USBメモリー→本機」一覧表の「タイプ名表示」欄をご参照ください。
4. **10**－、**11**＋を使って消去するデータを選び、**12**ENTERにタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
5. 消去してよい場合は、**11**＋にタッチします。
 - 中止する場合は、**10**－にタッチします。
 - **11**＋にタッチすると、液晶画面に“Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
6. MEDIAモードから抜けるには、液晶画面から“[MEDIA]”の表示が消えるまで、**15**EXITを押さえ続けます。

■USBメモリーのデータ名を変更するには

1. 54ページ「本機のデータをUSBメモリーに保存するには」の手順1～3を実行します。
2. **10**<、**11**>を使って“Rename”を表示し、**12**ENTERにタッチします。
3. **10**<、**11**>を使って名前を変更したいデータのタイプ名を表示し、**12**ENTERにタッチします。
 - 53ページ「USBメモリー→本機」一覧表の「タイプ名表示」欄をご参照ください。
4. **10**－、**11**＋を使って名前を変更するデータを選び、**12**ENTERにタッチします。
5. ファイル名を変更します。
 - 文字を編集する操作については、11ページ「文字の入力について」をご参照ください。
 - 文字編集をやめて手順4に戻るには、**10**<、**11**>ボタンが表示されているとき(文字カーソルの移動が可能など)に**15**EXITにタッチします。すでにファイル名を変更していた場合は“Cancel?”と表示されるので、**11**＋にタッチしてください。
6. ファイル名を確定するには、**21**STOREにタッチします。
液晶画面に“Sure?”と表示されます。
 - USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダ内に同じ名前のデータがある場合は、“Replace?”と表示されます。この場合、手順7で**11**＋にタッチすると、USBメモリー上の既存データは上書きされます。
7. 名前を変更してよい場合は、**11**＋にタッチします。
 - 中止する場合は、**10**－にタッチします。
 - **11**＋にタッチすると、液晶画面に“Wait”(実行中)と表示されます。この間は、本機の操作を一切行わないでください。終了すると、“Complete”(完了)と表示されます。
8. MEDIAモードから抜けるには、液晶画面から“[MEDIA]”の表示が消えるまで、**15**EXITを押さえ続けます。

一般の曲データをパソコンでUSBメモリーにコピーする

USBメモリーの“MUSICDAT”フォルダに下記の形式のファイルを保存して、本機で再生することができます。

- 標準MIDIファイル(SMFフォーマット0/1)またはカシオMIDIファイル(CMF形式)

1. USBメモリーをパソコンにつなぎます。
2. USBメモリーのルートディレクトリに、“MUSICDAT”という名前のフォルダを作成します。
 - すでに“MUSICDAT”フォルダがある場合は、この手順は不要です。
3. 本機で再生したい曲データを、USBメモリー内のMUSICDATフォルダにコピーします。
 - 曲データの再生操作については、[43ページ「曲を聴く\(MIDIプレーヤー\)」](#)をご参照ください。

一般のオーディオデータ(WAVファイル)をUSBメモリーに保存する

本機のオーディオレコーダーで録音操作をすると、USBメモリー内にMUSICDATフォルダが生成され、その下に「TAKE01.WAV」から「TAKE99.WAV」までファイル名を変えながら、WAVファイルが格納されていきます。USBメモリーをパソコンにつなぎ、一般のオーディオデータ(WAVファイル)をファイル名を「TAKEXX*.WAV」に変更してこのMUSICDATフォルダに保存すると、本機で再生できます。
※XX=01～99

対応WAV形式(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)

スマートデバイスとリンクする(APP機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続すると、次のことができます。

- スマートデバイスから本機を操作(ピアノリモートコントローラー)
- スマートデバイスから楽曲データを本機に転送

❗ 重要

- 接続するスマートデバイスは、機内モードなどのモバイルデータ通信を行わない設定にしてください。
- USBケーブルとオーディオケーブルを、同時にスマートデバイスに接続しないでください。

■スマートデバイス用アプリをダウンロードする

弊社ウェブサイトから「Chordana Play for Piano」をダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。

<https://support.casio.jp/emi/manual/PX-S3000/>



■本機とスマートデバイスをリンクするには

上記のアプリをお使いのスマートデバイスにインストールしたら、本機のUSB端子とスマートデバイスのUSB端子を、市販のUSBケーブルで接続してください。

本機とスマートデバイスを接続した後は、各種操作をスマートデバイス上のアプリで実施します。各種操作について詳しくは、アプリの説明書をご覧ください。

困ったときは

● ボタンが反応しない。

- 原因:**
- a. タッチボタンに手袋をした手でタッチしたり、爪やスタイラスなどでタッチした。
 - b. タッチボタン感度の設定が適正でない。
- 対処:**
- a. ボタンは、素手の指でしっかりタッチしてください。
 - b. 下記操作を実行する(タッチボタンの感度が高めに設定されます)。
 - (1) 本機の電源をいったん切る。
 - (2) C8鍵盤(右端の鍵盤)を押したまま離さずに、**1** **⏻** (電源) ボタンを押す。
 - C8鍵盤は、液晶画面に“Welcome”と表示されるまで、離さないでください。**1** **⏻** (電源) ボタンは離して構いません。

● 鍵盤を押しても音が出ない。

- 原因:**
- a. **2** 音量つまみで音量が絞られている。
 - b. ヘッドホンがつながっている。またはヘッドホンの変換プラグが**24**PHONES端子に残っている。
 - c. ローカルコントロールの設定がオフになっている。
 - d. 鍵盤コントローラーモードで、A0～F1 鍵盤が「コントローラー鍵盤」になっている。
- 対処:**
- a. **2** 音量つまみを動かす。
 - b. ヘッドホンまたは変換プラグを**24**PHONES端子から抜く。
 - c. ローカルコントロール(**50ページ**)の設定をオンにする。
 - d. 鍵盤コントローラーモードを抜ける。

● 大きな音を出すと、突然電源が切れる。

- 対処:** 新しい電池に交換する。またはACアダプターを使用する(**4ページ**)。

● ピッチがずれて聴こえる。

- 原因:**
- a. 鍵盤の調(トランスポーズ)が初期設定から変更されている。
 - b. 音の高さの微調整(チューニング)の設定が440.0Hz以外になっている。
 - c. オクターブシフトが設定されている。
 - d. 音律が“平均律”以外に設定されている。
- 対処:**
- a. トランスポーズ(**16ページ**)の設定を初期設定に戻す。または、電源を入れ直す。
 - b. チューニング(**17ページ**)の設定を440.0Hzにする。
 - c. オクターブシフト(**17ページ**)の設定を“0”にする。
 - d. 音律の設定を“平均律”にする。

● ペダルを踏んでも効果がかからない。

- 原因:**
- a. **27**DAMPER PEDAL端子、**28**PEDAL UNIT端子、または**31**EXPRESSION/ASSIGNABLE端子に、ペダルのコードが正しく接続されていない。または、プラグの差し込み方が不完全になっている。
 - b. ペダルを接続した端子へのペダルタイプ割り当てや機能割り当てが正しくない。
- 対処:**
- a. ペダルのコードが正しく接続されているか、プラグがしっかりと端子に差し込まれているかを確認する。
 - b. 正しい設定に変更する。(6ページ「DAMPER PEDAL端子」、7ページ「EXPRESSION/ASSIGNABLE端子」をご参照ください。)

● 自動伴奏をスタートしても音が出ない。

- 原因:**
- a. リズムのカテゴリー「BALLAD」内の番号29～38は、コードを入力しないと音が鳴らないリズムパターンです。
 - b. 自動伴奏の音量が0に設定されている。
 - c. 何らかのエラーが発生した。
- 対処:**
- a. コードを入力してみてください(**28ページ**)。
 - b. 自動伴奏の音量の設定(**15ページ**)を確認して調整する。
 - c. 本機の電源を入れ直してみる(**5ページ**) (各種設定は初期化されます)。

● 音の鳴り方や効果がおかしい。弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。電源を入れ直しても変わらない。

- 原因:** オートレジュームがオンになっている。
- 対処:** オートレジューム(FUNCTIONパラメーター**105**番)をオフにして、電源を入れ直す。

● パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。

- 対処:**
- a. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。
 - b. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。

困ったときは

- 同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。

原因: デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。
※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。

- ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえたりする。

原因: レイヤー機能、デュエット機能、曲の再生、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。こうした場合にボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによってはこのような現象が発生することがありますが、故障ではありません。

- 左側の鍵盤だけ通常と違う音が鳴る。

原因: ACCOMPモードのときは左側の鍵盤がコード入力鍵盤になります。

対処: モード選択ボタンを押してRHYTHMモードに変更する。

エラー表示一覧

表示	原因	解決方法
Limit	<ul style="list-style-type: none"> MIDIレコーダーで、1000小節以上録音しようとした。 オーディオレコーダーで、約25分を超えて録音しようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> MIDIレコーダーによる録音は、999小節までで終える。 オーディオレコーダーによる録音は、約25分以内で終える。
Memory Full	1曲あたりの容量を超えて録音しようとした。	1曲あたりの容量内で録音する。
Data Full	MIDIレコーダー曲を6曲以上録音しようとした。	曲を消去する。
No Media	本機のUSBメモリー端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。	USBメモリー端子にUSBメモリーを正しくセットする。
	操作の途中でUSBメモリーが抜き差しされた。	本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。
	USBメモリーがプロテクトされている。	USBメモリーのプロテクトを解除する。
	USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。	ウイルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
No File	"MUSICDAT"フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルが無い。	読み込みや再生したいファイルを"MUSICDAT"フォルダへ移動する(56ページ)。
Read Only	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別データを保存しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> 別の名前に変えてから保存する。 USBメモリーのファイルから読み込み専用属性を外して、上書き保存する。 別のUSBメモリーを使う。
Media Full	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
Too Many Files	オーディオレコーダーの上限曲数(99曲)を超えて、録音を開始しようとした。USBメモリーのMUSICDATフォルダ内に、TAKE99.WAV(42ページ)がすでにある。	パソコンを使って、USBメモリーのMUSICDATフォルダ内にあるTAKE01.WAV～TAKE99.WAVを別のフォルダやドライブに移動する。
Not SMF 0/1	SMFフォーマット2の曲データを再生しようとした。	本機で再生できるSMFのフォーマットは、"0"または"1"です。
Large Size	USBメモリーのSMFファイルのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で約320KBのSMFファイルまで再生できます。
Wrong Data	USBメモリーのデータが壊れている。	—
Version	USBメモリーのファイルのバージョンが、本機で対応していないバージョンになっている。	本機が対応しているバージョンのファイルを用意する。
Format	USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。	<ul style="list-style-type: none"> パソコン等を使って、USBメモリーを本機に対応したフォーマットに変更する(53ページ)。 別のUSBメモリーを使う。
	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。

製品仕様

































型式	PX-S3000BK
鍵盤	88鍵
デュエット	音域変更可(−2〜+2オクターブ)
トランスポーズ	−12〜0〜+12半音
オクターブシフト	−2〜0〜+2オクターブ
音源	
音色数	700 (レイヤー可、スプリット可)
同時発音数	最大192音
タッチレスポンス機能	感度設定5種類、オフ
チューニング	415.5Hz〜440.0Hz〜465.9Hz(0.1Hz単位)
音律	平均律+16種類
アコースティックシミュレーター	ハンマーレスポンス、キーオフレスポンス、ストリングレゾナンス、ダンパーレゾナンス、ダンパーノイズ、キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ
サウンドモード	ホールシミュレーター(4種)、リバーブ(8種)、サラウンド(2種)
エフェクト	コーラス(12種)、DSP(音色組み込み+プリセット100種、編集可)、プリリアンス(−3〜0〜3)
デモ曲	6
曲再生機能(SONGモード)	
MIDIモード時	ダウンロード曲(ユーザー曲)再生 <ul style="list-style-type: none"> 10曲まで内蔵フラッシュメモリーに保存可 1曲あたり最大約320KB(表記容量は1KB=1024バイト、1MB=1024²バイト換算) MIDIレコーダー録音曲再生 USBメモリー上の曲データ(SMF)再生 パートのミュート:L、R、L+R
オーディオモード時	オーディオレコーダー録音曲再生 センターキャンセル
曲の音量	調節可(MIDIモード、オーディオモード共通)
MIDIレコーダー	MIDIデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	5曲
録音トラック数	3トラック
容量	1曲あたり約30,000音符(3トラック合計)
録音内容の保持	内蔵フラッシュメモリー
オーディオレコーダー	オーディオデータとしてリアルタイム録音、再生
曲数	99曲(ファイル)
ファイル形式	WAV形式(リニアPCM、16bit、44.1kHz、ステレオ)
最大録音時間	1ファイルあたり約25分
録音内容の保持	USBメモリー
自動伴奏機能	
リズム数	200
ワンタッチプリセット	200種類
オートハーモナイズ	12種類
自動伴奏の音量	調節可
ミュージックプリセット	310種類
アルペジエーター	100種類
メトロノーム	リズムとして組み込み
拍子ベル音	オフ、1〜9(拍子)
テンポ範囲	20〜255
メトロノームの音量	調節可(自動伴奏の音量と共通)
















レジストレーション機能	最大96セット(4セット×24バンク)
ペダル	
DAMPER PEDAL端子	付属品(SP-3)または別売品の弊社製サステインペダルを接続、機能切り替え可(サステイン(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)、アルペジオホールド(オフ、オン)、演奏/停止、フィルイン)
PEDAL UNIT端子	別売品(SP-34)を接続、3本のペダルを同時使用可(サステイン(オフ、ハーフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン))
EXPRESSION/ASSIGNABLE端子	市販のエクспレッションペダル、付属ペダル(SP-3)、または別売品の弊社製サステインペダルを接続、機能切り替え可(エクспレッション、マスターボリューム、テンポ、レイヤーバランス、サステイン(オフ、オン)、ソステヌート(オフ、オン)、ソフト(オフ、オン)、アルペジオホールド(オフ、オン)、演奏/停止、フィルイン)
その他の機能	オートレジャーーム、操作のロック
Bluetooth 接続	
Bluetoothバージョン	5.0
対応プロファイル	A2DP
対応コーデック	SBC
無線出力	Bluetooth Class 2
送信周波数範囲	2402～2480MHz
無線最大出力	4dBm
MIDI	16chマルチティンバー受信
ピッチベンドホイール	ピッチベンドレンジ: 0～24半音
ノブ	2個 ノブセット(ノブ機能のプリセット設定割り当てセット):14種類
入出力端子	
PHONES端子	ステレオミニジャック×2
電源端子	DC12V
AUDIO IN端子	ステレオミニジャック(入力インピーダンス 10kΩ、入力感度 200mV)
LINE OUT R、L/MONO端子	標準ジャック×2(出力インピーダンス 2.3kΩ、出力電圧 1.3V(RMS) MAX)
USB端子	タイプB
USBメモリー端子	タイプA
DAMPER PEDAL端子	標準ジャック
EXPRESSION/ASSIGNABLE端子	標準ジャック
PEDAL UNIT端子	専用形状
音響	
アンプ出力	8W+8W
スピーカー	16cm×8cm(楕円形)×2
電源	
電池	2電源方式 単3形アルカリ乾電池6本使用 連続動作時間:約2時間 アルカリ電池使用、内蔵デモ曲再生時 ご使用の電池の種類や演奏方法によっては連続動作時間が短くなることがあります。
家庭用AC100V電源	ACアダプターAD-A12150LW使用
オートパワーオフ機能	約4時間後(ACアダプター使用時)、約6分後(電池使用時)、キャンセル可能
消費電力	12V --- 15W
サイズ	幅132.2×奥行23.2×高さ10.2cm
質量	約11.4kg(乾電池含まず)

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

指定できるコード種一覧

■フィンガー1、2で指定できるコード種

C (メジャー)	  
Cm (マイナー)	 
Cdim (ディミニッシュ)	
Caug (オーギュメント) ^{※3}	
C ^{b5} (フラットフィフス)	
Csus4 (サスフォー) ^{※3}	
Csus2 (サスツー) ^{※3}	
C7 (セブンス)	  
Cm7 (マイナーセブンス) ^{※3}	 
CM7 (メジャーセブンス)	  
CmM7 (マイナーメジャーセブンス)	 
Cdim7 (ディミニッシュセブンス) ^{※3}	 
CdimM7 (ディミニッシュメジャーセブンス)	
C7 ^{b5} (セブンスフラットフィフス) ^{※3}	
Cm7 ^{b5} (マイナーセブンスフラットフィフス) ^{※3}	
CM7 ^{b5} (メジャーセブンスフラットフィフス)	
Caug7 (オーギュメントセブンス)	
CaugM7 (オーギュメントメジャーセブンス)	
C7sus4 (セブンスサスフォー)	
C6 (シックス) ^{※1 ※3}	
Cm6 (マイナーシックス) ^{※2 ※3}	
Cadd9 (アドナインス)	

Cmadd9 (マイナーアドナインス)	
C69 (シックスナインス) ^{※3}	
Cm69 (マイナーシックスナインス) ^{※3}	
C7 ^(b9) (セブンスフラットナインス)	
C7 ⁽⁹⁾ (セブンスナインス)	
C7 ^(#9) (セブンスシャープナインス)	
C7 ^(#11) (セブンスシャープイレブンス)	
C7 ^(b13) (セブンスフラットサーティーンス)	
C7 ⁽¹³⁾ (セブンスサーティーンス)	
Cm7 ⁽⁹⁾ (マイナーセブンスナインス)	
Cm7 ⁽¹¹⁾ (マイナーセブンスイレブンス) ^{※3}	
CM7 ⁽⁹⁾ (メジャーセブンスナインス)	
CmM7 ⁽⁹⁾ (マイナーメジャーセブンスナインス)	
C5 (パワーコード) ^{※5}	
C8 (ルートのみまたはオクターブ) ^{※6}	

※1 フィンガー2では、Am7として判別されます。

※2 フィンガー2では、Am7^{b5}として判別されます。

※3 転回形では使えない場合があります。

※4 正しいコード演奏ではなく、自動伴奏機能での簡易的にコードを指定できる特殊な押え方です。

※5 ルートと5度のみのコードです。

※6 一般的なコードではありませんが、自動伴奏としてルートのみ、またはルートにオクターブを加えた音が欲しいときに使います。

■フィンガードオンベース、フルレンジコードで指定できるコード種

フィンガード1、2で指定できるコード種に加え、下記のコード種が判別できます。

$\frac{C\#}{C}$	$\frac{D}{C}$	$\frac{F}{C}$	$\frac{F\#}{C}$	$\frac{G}{C}$	$\frac{A^b}{C}$	$\frac{A}{C}$	$\frac{B^b}{C}$	$\frac{C\#m}{C}$	$\frac{Dm}{C}$	$\frac{Fm}{C}$
$\frac{F\#m}{C}$	$\frac{Gm}{C}$	$\frac{A^bm}{C}$	$\frac{Am}{C}$	$\frac{B^bm}{C}$	$\frac{Bm}{C}$	$\frac{C\#dim}{C}$	$\frac{Ddim}{C}$			
$\frac{Fdim}{C}$	$\frac{F\#dim}{C}$	$\frac{Gdim}{C}$	$\frac{A^bdim}{C}$	$\frac{Adim}{C}$	$\frac{Bdim}{C}$	$\frac{F7}{C}$	$\frac{A^b7}{C}$			
$\frac{Fm7}{C}$	$\frac{FM7}{C}$	$\frac{A^bM7}{C}$	$\frac{F\#m7^b5}{C}$	$\frac{Gm7}{C}$	$\frac{G7}{C}$	$\frac{A^badd9}{C}$				



- フィンガードオンベースでは、最低音がベース音として判別され、転回形は使えません。
- フルレンジコードでは、最低音とその次の音がある程度離れている場合に、分数コードとして判別されます。
- フルレンジコードではフィンガード1、フィンガード2、フィンガードオンベースと異なり、鍵盤を3つ以上押したときに限りコードが指定されます。

コード例一覧

*1 *2	C	C#/(D \flat)	D	(D#)/E \flat	E	F
M						
m						
dim						
aug						
sus4						
sus2						
7						
m7						
M7						
m7 \flat 5						
7 \flat 5						
7sus4						
add9						
madd9						
mM7						
dim7						
69						
6						
m6						

*1 根音(ルート) *2 コードの種類

- スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えることができます(14ページ)。

*1 *2	F#/(G \flat)	G	(G#)/A \flat	A	(A#)/B \flat	B
M						
m						
dim						
aug						
sus4						
sus2						
7						
m7						
M7						
m7 \flat 5						
7 \flat 5						
7sus4						
add9						
madd9						
mM7						
dim7						
69						
6						
m6						

*1 根音(ルート) *2 コードの種類

- スプリットポイントを変更して、コード入力鍵盤の範囲を変えることができます(14ページ)。

バーサタイルトーンマップ

OTHERS: 056 VERSATILE NYLON GUITAR

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - B6	1-30	Normal mp
	31-60	Normal mf
	61-75	Ghost Note
	76-90	Mute
	91-105	Hammering
	106-120	Glissando
	121-127	Open Harmonics
C7	1-127	Strum 1
C#7	1-127	Strum 2
D7	1-127	Strum 3
E♭7	1-127	Strum 4
E7	1-127	Strum 5
F7	1-127	Strum 6
F#7	1-127	Strum 7
G7	1-127	Strum 8
A♭7	1-127	Strum 9
A7	1-127	Strum 10
B♭7	1-127	Strum 11
B7	1-127	Strings Slap 1
C8	1-127	Strings Slap 2
C#8	1-127	Strings Slap 3
D8	1-127	Strings Slap 4
E♭8	1-127	Strings Slap 5
E8	1-127	Body 1
F8	1-127	Body 2
F#8	1-127	Body 3
G8	1-127	Body 4
A♭8	1-127	Body 5
A8	1-127	Body 6
B♭8	1-127	Body 7
B8	1-127	Body 8
C9	1-127	Fret Noise1
C#9	1-127	Fret Noise2
D9	1-127	Fret Noise3
E♭9	1-127	Fret Noise4
E9	1-127	Fret Noise5
F9	1-127	Head String1
F#9	1-127	Head String2
G9	1-127	Head String3

OTHERS: 057 VERSATILE STEEL GUITAR

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - B6	1-30	Normal mp
	31-60	Normal mf
	61-75	Ghost Note
	76-90	Mute
	91-105	Hammering
	106-120	Glissando
	121-127	Open Harmonics
C7	1-127	Strum 1
C#7	1-127	Strum 2
D7	1-127	Strum 3
E♭7	1-127	Strum 4
E7	1-127	Strum 5
F7	1-127	Strum 6
F#7	1-127	Strum 7
G7	1-127	Strum 8
A♭7	1-127	Strum 9

A7	1-127	Strings Slap 1
B♭7	1-127	Strings Slap 2
B7	1-127	Strings Slap 3
C8	1-127	Strings Slap 4
C#8	1-127	Strings Slap 5
D8	1-127	Strings Slap 6
E♭8	1-127	Strings Slap 7
E8	1-127	Body 1
F8	1-127	Body 2
F#8	1-127	Body 3
G8	1-127	Body 4
A♭8	1-127	Body 5
A8	1-127	Body 6
B♭8	1-127	Body 7
B8	1-127	Body 8
C9	1-127	Fret Noise1
C#9	1-127	Fret Noise2
D9	1-127	Fret Noise3
E♭9	1-127	Fret Noise4
E9	1-127	Fret Noise5
F9	1-127	Head String1
F#9	1-127	Head String2
G9	1-127	Head String3

OTHERS: 058 VERSATILE SINGLE COIL E.GUITAR

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - B6	1-30	Normal mp
	31-60	Normal mf
	61-75	Ghost Note
	76-90	Mute
	91-105	Hammering
	106-120	Glissando
	121-127	Open Harmonics
C7	1-127	Strum 1
C#7	1-127	Strum 2
D7	1-127	Strum 3
E♭7	1-127	Strum 4
E7	1-127	Strum 5
F7	1-127	Strum 6
F#7	1-127	Strum 7
G7	1-127	Strum 8
A♭7	1-127	Strum 9
A7	1-127	Strum 10
B♭7	1-127	Strum 11
B7	1-127	Strum 12
C8	1-127	Strum 13
C#8	1-127	Strum 14
D8	1-127	Low Ghost Note 1
E♭8	1-127	Low Ghost Note 2
E8	1-127	Low Ghost Note 3
F8	1-127	Low Ghost Note 4
F#8	1-127	Low Ghost Note 5
G8	1-127	Low Ghost Note 6
A♭8	1-127	Low Ghost Note 7
A8	1-127	Low Ghost Note 8
B♭8	1-127	Low Ghost Note 9
B8	1-127	Low Ghost Note 10
C9	1-127	Fret Noise1
C#9	1-127	Fret Noise2
D9	1-127	Fret Noise3

E♭9	1-127	Fret Noise4
E9	1-127	Fret Noise5
F9	1-127	Fret Noise6
F#9	1-127	Fret Noise7
G9	1-127	Fret Noise8

OTHERS: 107 VERSATILE ELECTRIC BASS 1

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - B6	1-60	Normal mf
	61-80	Normal ff
	81-120	Ghost Note
	121-127	Slap
C7	1-127	Gliss 1
C#7	1-127	Gliss 2
D7	1-127	Gliss 3
E♭7	1-127	Gliss 4
E7	1-127	Gliss 5
F7	1-127	Gliss 6
F#7	1-127	Gliss 7
G7	1-127	Fret Noise 1
A♭7	1-127	Fret Noise 2

OTHERS: 108 VERSATILE ELECTRIC BASS 2

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - B6	1-60	Normal mf
	61-80	Normal ff
	81-120	Ghost Note
	121-127	Slap
C7	1-127	Gliss 1
C#7	1-127	Gliss 2
D7	1-127	Gliss 3
E♭7	1-127	Gliss 4
E7	1-127	Gliss 5
F7	1-127	Gliss 6
F#7	1-127	Gliss 7
G7	1-127	Fret Noise 1
A♭7	1-127	Fret Noise 2

OTHERS: 144 VERSATILE BRASS 1

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - G9	1-20	Normal mf
	21-40	Normal f
	41-60	Normal ff
	61-80	Attack
	81-90	Schoop
	91-100	Shake
	101-110	Falls Fast mf
	111-120	Falls Fast f
	121-127	Gliss up

OTHERS: 145 VERSATILE BRASS 2

音名	ベロシティー	サウンド
C-1 - G9	1-30	Normal f
	31-60	Normal ff
	61-75	Attack
	76-90	Schoop
	91-105	Shake
	106-120	Falls Fast f
	121-127	Gliss up

ノブセットリスト

No.	表示	ノブ(K1)		ノブ(K2)		対象パート
		パラメーター	分類※1	パラメーター	分類※1	
1	Filter	カットオフ周波数	Knob	レゾナンス	Knob	Upper1
2	Brilliance/Rev	ブリリアンス	Effect	リバーブセンド	Knob	Upper1
3	Up1 Cho/Rev	コーラスセンド	Effect	リバーブセンド	Sound Mode	Upper1
4	Amp Envelope	アタックタイム	Knob	リリースタイム	Knob	Upper1
5	Vibrato	ビブラートレート	Knob	ビブラートデプス	Knob	Upper1
6	Delay Vibrato	ディレイビブラートタイム	Knob	ビブラートデプス	Knob	Upper1
7	Porta./Mod.	ポルタメントタイム	Knob	モジュレーションデプス	Knob	Upper1
8	Layer Modify	レイヤー音量バランス	Tone	Upper2ファインチューン	Knob	Upper1/Upper2
9	Layer Panning	Upper1パン	Knob	Upper2パン	Knob	Upper1/Upper2
10	Lower Modify	Lower音量	Tone	Lowerパン	Knob	Lower
11	Kbd Cho/Rev	鍵盤コーラスセンド	Effect	鍵盤リバーブセンド	Sound Mode	Upper1/ Upper2/Lower
12	Kbd/Acmp Vol.	鍵盤音量	Tone	伴奏音量	Accompaniment	Upper1/ Upper2/Lower
13	Kbd/Song Vol.	鍵盤音量	Tone	曲音量	—	Upper1/ Upper2/Lower
14	DSP Param.※2	DSPパラメーター1	Tone	DSPパラメーター2	Tone	Upper1

※1 FUNCTIONパラメーター57番の“FREEZE”ディレクトリに含まれるパラメーター名です(36ページ「フリーズ機能について」を参照)。ノブを使って変更した設定を、レジストレーション機能のセットアップ呼び出し操作によって上書きしたくない場合は、この列に記載されているFUNCTIONパラメーター (Knob:59番、Effect:63番、Tone:69番、Accompaniment:68番)を“On”にします。

FUNCTIONパラメーターについては、45ページ「機能設定を変更する(FUNCTIONモード)」をご参照ください。

※2 このノブセットは、現在選択されているDSP(19ページ「DSPを使う」を参照)のパラメーターのうち、最も有益と考えられる2つが、変更の対象となります。DSP Parameter 1とDSP Parameter 2は、DSPに応じて固定的に決まります。例えばプリセットDSPの“15. Auto Pan”が選択されている場合、DSP Parameter 1はLFO Waveform、DSP Parameter 2はLFO Rateとなります。

DSPリスト

プリセットDSPリスト

No.	DSP名 (表示)	モジュール 1	モジュール 2	モジュール 3	モジュール 4
1	Mono 1BandEQ	Mono 1-Band EQ			
2	Mono 2BandEQ	Mono 2-Band EQ			
3	Mono 3BandEQ	Mono 3-Band EQ			
4	Stereo1BndEQ	Stereo 1-Band EQ			
5	Stereo2BndEQ	Stereo 2-Band EQ			
6	Stereo3BndEQ	Stereo 3-Band EQ			
7	Tone Control	Tone Control			
8	Compressor	Compressor			
9	Limiter	Limiter			
10	Enhancer	Enhancer			
11	Phaser	Phaser			
12	Chorus	Chorus			
13	Flanger	Flanger			
14	Tremolo	Tremolo			
15	Auto Pan	Auto Pan			
16	Rotary	Rotary			
17	Drive Rotary	Drive Rotary			
18	LFO Wah	LFO Wah			
19	Auto Wah	Auto Wah			
20	Modeling Wah	Modeling Wah			
21	Pitch	Pitch Shifter			
22	Ring Mod	Ring Modulator			
23	Piano Effect	Piano Effect			
24	Distortion	Distortion			
25	Drive	Drive	Tone Control		
26	Amp Cab	Amp Cab			
27	Re-Amp 1	Compressor	Amp Cab	Enhancer	Tone Control
28	Re-Amp 2	Compressor	Limiter	Amp Cab	Delay
29	Re-Amp 3	Compressor	Limiter	Amp Cab	Mono 2-Band EQ
30	Re-Amp 4	Compressor	Limiter	Amp Cab	Delay
31	Re-Amp 5	Distortion	Delay		
32	Drive Amp 1	Mono 3-Band EQ	Drive	Tone Control	Amp Cab
33	Drive Amp 2	Drive	Tone Control	Amp Cab	Tremolo
34	Drive Amp 3	Drive	Tone Control	Amp Cab	AutoPan
35	Drive Amp 4	Drive	Tone Control	Amp Cab	Phaser
36	Drive Amp 5	Drive	Tone Control	Amp Cab	Flanger
37	Drive Amp 6	Drive	Tone Control	Amp Cab	Pitch Shifter
38	OctaveDrvAmp	Pitch Shifter	Drive	Tone Control	Amp Cab
39	PhaseDrvAmp	Phaser	Drive	Tone Control	Amp Cab
40	DelayDrvAmp	Drive	Tone Control	Amp Cab	Delay
41	Comp Amp 1	Compressoror	Drive	Mono 1-Band EQ	Amp Cab
42	Comp Amp 2	Drive	Compressoror	Mono 1-Band EQ	Amp Cab
43	Deley OD Amp	Drive	Enhancer	Amp Cab	Delay
44	Wah Drv Amp	Modeling Wah	Drive	Amp Cab	
45	DelayWahAmp	LFO Wah	Drive	Amp Cab	Delay
46	Auto Wah Amp	Auto Wah	Drive	Amp Cab	Delay
47	DriveAmpMod1	Drive	Amp Cab	Phaser	Flanger
48	DriveAmpMod2	LFO Wah	Drive	Amp Cab	Tremolo
49	S/H DriveAmp	LFO Wah	Drive	Amp Cab	Auto Pan
50	PhaseDrvAmp2	Drive	Amp Cab	Phaser	Delay
51	FlngrDelyAmp	Drive	Amp Cab	Flanger	Delay

No.	DSP名 (表示)	モジュール 1	モジュール 2	モジュール 3	モジュール 4
52	PitchModAmp	Drive	Amp Cab	Pitch Shifter	Delay
53	Drive Rotary	Drive	Rotary		
54	DrvRotaryEQ	Drive Rotary	Stereo 3-Band EQ		
55	DrvRotaryPan	Drive Rotary	Auto Pan		
56	PhaserAmpPan	Drive	Amp Cab	Phaser	Auto Pan
57	FlangrAmpPan	Drive	Amp Cab	Flanger	Auto Pan
58	ReflctAmpPan	Drive	Amp Cab	Reflection	Auto Pan
59	DualDriveAmp	Drive	Drive	Mono 2-Band EQ	Amp Cab
60	DualDrvAmpDI	Drive	Drive	Amp Cab	Delay
61	BassAmpAmbi	Tone Control	Compressor	Amp Cab	Delay
62	Comp Ambi 1	Tone Control	Compressor	Enhancer	Reflection
63	Comp Ambi 2	Tone Control	Compressor	Amp Cab	Delay
64	Comp Ambi 3	Drive	Compressor	Amp Cab	Delay
65	Comp Ambi 4	Drive	Compressor	Amp Cab	Delay
66	EnhanceAmbi1	Drive	Enhancer	Amp Cab	Delay
67	EnhanceAmbi2	Drive	Reflection	Amp Cab	Delay
68	Comp Mod 1	Tone Control	Compressor	Tremolo	Tone Control
69	Comp Mod 2	Tone Control	Compressor	Phaser	Reflection
70	Comp Mod 3	Tone Control	Compressor	Flanger	Phaser
71	Comp Mod 4	Compressor	Tremolo	Flanger	Delay
72	Comp Mod 5	Compressor	Tremolo	Phaser	Delay
73	EQ Mod 1	Tone Control	Tone Control	Phaser	Amp Cab
74	EQ Mod 2	Tone Control	Flanger	Tone Control	Delay
75	EQ Mod 3	Tone Control	Chorus	Tone Control	Delay
76	EQ Mod 4	Tone Control	Tremolo	Chorus	Delay
77	Double Phase	Amp Cab	Phaser	Phaser	Enhancer
78	DoubleFlang1	Amp Cab	Flanger	Flanger	Tone Control
79	DoubleFlang2	Amp Cab	Flanger	Flanger	Phaser
80	Tremolo Spin	Tremolo	Drive Rotary	Tone Control	
81	AmbientEnh 1	Enhancer	Reflection	Delay	Tone Control
82	AmbientEnh 2	Tone Control	Enhancer	Reflection	Delay
83	AmbientEnh 3	Tone Control	Drive	Amp Cab	Delay
84	AmbientEnh 4	Piano Effect	Delay	Tone Control	
85	AmbientEnh 5	Enhancer	Delay	Tone Control	
86	AmbientEnh 6	Drive	Delay	Tone Control	
87	Pitch Delay	Delay	Pitch Shifter	Phaser	Auto Pan
88	ReflectDelay	Reflection	Enhancer	Auto Pan	Delay
89	Drive Delay	Drive	Delay	Tone Control	
90	Pitch Mod 1	Tone Control	Phaser	Delay	Pitch Shifter
91	Pitch Mod 2	Pitch Shifter	Delay	Phaser	Tone Control
92	Double Enhan	Amp Cab	Enhancer	Enhancer	
93	Drive Enhan	Drive	Enhancer	Enhancer	
94	Reflection 1	Reflection	Delay	Tone Control	
95	Reflection 2	Delay	Reflection	Enhancer	Tone Control
96	Mod Tremolo	Phaser	Chorus	Flanger	Tremolo
97	Wah Phase	LFO Wah	Phaser	Delay	Tone Control
98	Wah Flanger	Flanger	Flanger	LFO Wah	Tone Control
99	Lo Cut EQ	Tone Control	Tone Control	Tone Control	
100	Hi Cut EQ	Tone Control	Tone Control	Tone Control	

DSPモジュールリスト

番号	名称	表示	内容
①	Mono 1-Band EQ	Mono 1EQ	1バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
②	Mono 2-Band EQ	Mono 2EQ	2バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
③	Mono 3-Band EQ	Mono 3EQ	3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。
④	Stereo 1-Band EQ	Streo1EQ	1バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑤	Stereo 2-Band EQ	Streo2EQ	2バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑥	Stereo 3-Band EQ	Streo3EQ	3バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。
⑦	Tone Control	ToneCtrl	低域、中域、高域を調整するモノラル・トーン・コントロールです。
⑧	Tremolo	Tremolo	入力信号の音量をLFOによって動かします。
⑨	Auto Pan	Auto Pan	入力信号の定位をLFOによって動かします。
⑩	Compressor	Compress	入力された信号を圧縮し、レベルのばらつきを抑えます。
⑪	Limiter	Limiter	入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。
⑫	Enhancer	Enhancer	入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。
⑬	Phaser	Phaser	入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうねりや広がりを与えます。
⑭	Chorus	Chorus	音に厚みと広がりを与えます。
⑮	Flanger	Flanger	音に激しいうなりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。
⑯	Rotary	Rotary	ロータリースピーカーのシミュレーターです。
⑰	Drive Rotary	DriveRot	オーバードライブさせることができるロータリースピーカーのシミュレーターです。
⑱	Pitch Shifter	Pitch	入力信号のピッチを変換するエフェクトです。
⑲	Ring Modulator	Ring Mod	入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。
⑳	Reflection	Reflect	残響の初期反射をシミュレートするエフェクトです。音に臨場感や存在感を与えます。
㉑	Delay	Delay	入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果を発生します。
㉒	Piano Effect	Piano	アコースティック・ピアノに適した効果を発生するエフェクトです。
㉓	LFO Wah	LFO Wah	LFOによって自動的に周波数を動かすことができるワウです。
㉔	Auto Wah	Auto Wah	入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができるワウです。
㉕	Modeling Wah	ModelWah	数種類のワウ・ペダルのシミュレーターです。入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができます。
㉖	Distortion	Distort	ディストーション、ワウ、アンプ・シミュレーターを1つにまとめたエフェクトです。
㉗	Drive	Drive	楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。
㉘	Amp Cab	Amp Cab	歪みを発生するドライブ部を除いたアンプとスピーカー・キャビネットをシミュレートします。

DSPパラメーターリスト

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
① Mono 1-Band EQ		1バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ Freq	EQ Frequency	EQの中心周波数を調整します。	※1
EQ Gain	EQ Gain	EQのゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
② Mono 2-Band EQ		2バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
③ Mono 3-Band EQ		3バンドで構成されるモノラル・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ3 Freq	EQ3 Frequency	EQ3の中心周波数を調整します	※1
EQ3 Gain	EQ3 Gain	EQ3のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
④ Stereo 1-Band EQ		1バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ Freq	EQ Frequency	EQの中心周波数を調整します。	※1
EQ Gain	EQ Gain	EQのゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑤ Stereo 2-Band EQ		2バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑥ Stereo 3-Band EQ		3バンドで構成されるステレオ・イコライザーです。	
EQ1 Freq	EQ1 Frequency	EQ1の中心周波数を調整します。	※1
EQ1 Gain	EQ1 Gain	EQ1のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ2 Freq	EQ2 Frequency	EQ2の中心周波数を調整します。	※1
EQ2 Gain	EQ2 Gain	EQ2のゲインを調整します。	−12〜00〜12
EQ3 Freq	EQ3 Frequency	EQ3の中心周波数を調整します	※1
EQ3 Gain	EQ3 Gain	EQ3のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑦ Tone Control		低域、中域、高域を調整するモノラル・トーン・コントロールです。	
Low Freq	Low Frequency	低域のカットオフ周波数を選択します。	※2
Low Gain	Low Gain	低域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
Mid Freq	Mid Frequency	中域の中心周波数を選択します。	※1
Mid Gain	Mid Gain	中域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
HighFreq	High Frequency	高域のカットオフ周波数を選択します。	※3
HighGain	High Gain	高域のゲインを調整します。	−12〜00〜12
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000〜127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑧ Tremolo		入力信号の音量をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Trapzoid
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127
⑨ Auto Pan		入力信号の定位をLFOによって動かします。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000〜127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000〜127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Trapzoid
Manual	Manual	定位の中心位置を調整します。−64で左、0で中央、+63で右となります。	−64〜00〜63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000〜127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000〜127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑩ Compressor		入力された信号を圧縮し、レベルのばらつきを抑えます。	
Attack	Attack	圧縮が効き始めるまでの時間を調整します。値が小さくなるほど、コンプレッサーの動作が機敏になり、入力信号のアタックを抑えることができます。値が大きくなるほど、コンプレッサーの動作が遅れて入力信号のアタックをそのまま出力するように動作します。	000～127
Release	Release	入力信号が所定のレベル以下になって圧縮が開放されるまでの時間を調整します。アタック感を出したい(音の立ち上がりで圧縮動作をさせたくない)ときはなるべく小さい値に設定してください。また、常に圧縮動作させておきたいときは大きな値に設定してください。	000～127
Ratio	Ratio	音声信号の圧縮比率を調整します。	1:1、2:1、4:1、8:1、16:1、32:1、Inf:1
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。Ratioの設定と入力された音色の特性によって出力音量が変化します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑪ Limiter		入力された信号のレベルが設定値以上にならないように制限をかけます。	
Limit	Limit	制限をかける音量レベルを調整します。	000～127
Attack	Attack	圧縮が効き始めるまでの時間を調整します。値が小さくなるほど、リミッターの動作が機敏になり、入力信号のアタックを抑えることができます。値が大きくなるほど、リミッターの動作が遅れて入力信号のアタックをそのまま出力するように動作します。	000～127
Release	Release	入力信号が所定のレベル以下になって圧縮が開放されるまでの時間を調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。Limitの設定と入力された音色の特性によって出力音量が変化します。このパラメーターによって補正してください。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑫ Enhancer		入力された信号の低域音と高域音の輪郭を際立たせる効果を与えます。	
Low Freq	Low Frequency	低域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
Low Gain	Low Gain	低域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
HighFreq	High Frequency	高域音エンハンサーの周波数を調整します。	000～127
HighGain	High Gain	高域音エンハンサーのゲインを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑬ Phaser		入力信号の位相をLFOによって動かし、入力信号に加えることにより、音に独特なうねりや広がりを与えます。	
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127
Manual	Manual	フェイザーの基準となるシフト量を調整します。	－64～00～63
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Random
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑭ Chorus		音に厚みと広がりを与えます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Polarity	Polarity	片側チャンネルのLFOを反転し、音の広がり具合を切り替えます。	Negative、Positive
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑮ Flanger		音に激しいなりや金属的な響きを与えます。LFO波形を選択できます。	
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Random
Feedback	Feedback	音の癖の強さを調整します。	－64～00～63
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑯ Rotary		ロータリースピーカーのシミュレーターです。	
Type	Type	タイプを選択します。	0～3
Speed	Speed	Fast、Slowの速度モードを選択します。	Slow、Fast
Brake	Brake	スピーカーの回転を止める働きがあります。	Rotate、Stop
FallAcel	Fall Accel	速度モードをFastからSlowに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
RiseAcel	Rise Accel	速度モードをSlowからFastに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
SlowRate	Slow Rate	SpeedがSlowモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
FastRate	Fast Rate	SpeedがFastモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
Vib/Cho	Vibrato/Chorus	ビブラート、コーラスのタイプを選択します。	Off、Vibrato1、Chorus 1、Vibrato2、Chorus 2、Vibrato3、Chorus 3
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
⑪ Drive Rotary		オーバードライブさせることができるロータリースピーカーのシミュレーターです。	
Type	Type	タイプを選択します。	0～3
OD Gain	Overdrive Gain	オーバードライブのゲインを調整します。	000～127
OD Level	Overdrive Level	オーバードライブの出力レベルを調整します。	000～127
Speed	Speed	Fast、Slowの速度モードを選択します。	Slow、Fast
Brake	Brake	スピーカーの回転を止める働きがあります。	Rotate、Stop
FallAcel	Fall Accel	速度モードをFastからSlowに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
RiseAcel	Rise Accel	速度モードをSlowからFastに切り替えたときの加速度を調整します。	000～127
SlowRate	Slow Rate	SpeedがSlowモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
FastRate	Fast Rate	SpeedがFastモードのときのスピーカーの回転速度を調整します。	000～127
Vib/Cho	Vibrato/Chorus	ビブラート、コーラスのタイプを選択します。	Off、Vibrato1、Chorus 1、Vibrato2、Chorus 2、Vibrato3、Chorus 3
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑫ Pitch Shifter		入力信号のピッチを変換するエフェクトです。	
Pitch	Pitch	四分音単位でのピッチ・シフト量を調整します。	－24～00～24
HighDamp	High Damp	高域のダンピングを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
Feedback	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
Fine	Fine	ピッチ・シフト量を微調整します。－50で四分音下がり、+50で四分音上がります。	－50～00～50
⑬ Ring Modulator		入力信号と内蔵オシレータを乗算して、金属的な音色をつくります。	
OSC Freq	OSC Frequency	内蔵オシレータの基準周波数を設定します。	000～127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Tone	Tone	リング・モジュレータの入力音の音質を調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
⑭ Reflection		残響の初期反射をシミュレートするエフェクトです。音に臨場感や存在感を与えます。	
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
Feedback	Feedback	反射音の繰り返しを調整します。	000～127
Tone	Tone	反射音の音質を調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
②① Delay		入力信号を遅延しフィードバックさせることにより繰り返し効果が発生します。	
Time	Delay Time	トータル・ディレイ・タイムを1ミリ秒単位で設定します。	0001～1099
TmRatioL	Delay Ratio L	トータル・ディレイ・タイムに対する左チャンネルの比率を調整します。	000～127
TmRatioR	Delay Ratio R	トータル・ディレイ・タイムに対する右チャンネルの比率を調整します。	000～127
Level L	Delay Level L	左チャンネルのレベルを調整します。	000～127
Level R	Delay Level R	右チャンネルのレベルを調整します。	000～127
FdbkType	Feedback Type	フィードバックのタイプを選択します。 Stereo:ステレオ・フィードバック Cross:クロス・フィードバック	Stereo、Cross
Fdbk Lvl	Feedback	フィードバック量を調整します。	000～127
Hi Damp	High Damp	高域のダンピングを調整します。値が小さいときに高域が速く減衰します。	000～127
TmpoSync	Delay Tempo Sync	実際のトータル・ディレイ・タイムをどのようにテンポに同期させるかを設定します。 Offのとき:Delay Timeの値に設定されます。 1/4～1のとき:拍数に応じた値に設定されます。	Off、1/4、1/3、3/8、1/2、2/3、3/4、1
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
②② Piano Effect		アコースティック・ピアノに適した効果が発生するエフェクトです。	
Lid Type	Lid Type	天板の開き具合による音の鳴り方の違いを調整します。	Closed、SemiOpen、FullOpen
RefLevel	Reflection Level	初期反射のレベルを調整します。	000～127
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
②③ LFO Wah		LFOによって自動的に周波数を動かすことができるワウです。	
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。入力している音のレベルや発音数、あるいはResonanceの値を大きくしているときに入力信号が歪むことがありますので、このパラメーターによって歪まないように調整してください。	000～127
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127
Rate	LFO Rate	LFOの速度を調整します。	000～127
Depth	LFO Depth	LFOの深さを調整します。	000～127
Waveform	LFO Waveform	LFO波形を選択します。	Sine、Triangle、Random
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

DSPモジュール		内容	設定範囲																																								
表示	パラメーター名																																										
②4 Auto Wah		入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができるワウです。																																									
In Level	Input Level	入力レベルを調整します。入力している音のレベルや和音数、あるいはResonanceの値を大きくしているときに入力信号が歪むことがありますので、このパラメーターを調整してください。	000～127																																								
Resonanc	Resonance	音の癖の強さを調整します。	000～127																																								
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Depth	Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。プラス方向に設定すると、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが開き、明るい音質になります。マイナス方向に設定した場合は、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが閉じて暗い音質になります。	－64～00～63																																								
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
②5 Modeling Wah		数種類のワウ・ペダルのシミュレーターです。入力された信号のレベルに応じて自動的に周波数を動かすことができます。																																									
OutLevel	Level	ワウのレベルを調整します。	000～127																																								
Type	Type	ワウのタイプを選択します。 <table><tr><td>1</td><td>CAE</td><td>3</td><td>IBZ</td><td>5</td><td>FAT</td><td>7</td><td>7STR</td></tr><tr><td>2</td><td>CRY</td><td>4</td><td>VO</td><td>6</td><td>LIGHT</td><td>8</td><td>RESO</td></tr></table>	1	CAE	3	IBZ	5	FAT	7	7STR	2	CRY	4	VO	6	LIGHT	8	RESO	1～8																								
1	CAE	3	IBZ	5	FAT	7	7STR																																				
2	CRY	4	VO	6	LIGHT	8	RESO																																				
Manual	Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Depth	Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。プラス方向に設定すると、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが開き、明るい音質になります。マイナス方向に設定した場合は、入力信号が大きいほどワウ・フィルターが閉じて暗い音質になります。	－64～00～63																																								
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
②6 Distortion		ディストーション、ワウ、アンプ・シミュレーターを1つにまとめたエフェクトです。																																									
DistGain	Dist Gain	ディストーションの入力信号のゲインを調整します。	000～127																																								
Dist Lvl	Dist Level	ディストーションの出力レベルを調整します。	000～127																																								
Dist Low	Dist Low	ディストーションの低域のゲインを調整します。	000～127																																								
DistHigh	Dist High	ディストーションの高域のゲインを調整します。	000～127																																								
Wah Type	Wah Type	ワウのタイプを設定します。 <table><tr><td>1</td><td>LPF</td><td>3</td><td>V-Wah</td><td>5</td><td>L-Wah</td></tr><tr><td>2</td><td>C-Wah</td><td>4</td><td>F-Wah</td><td>6</td><td>H-Wah</td></tr></table>	1	LPF	3	V-Wah	5	L-Wah	2	C-Wah	4	F-Wah	6	H-Wah	1～6																												
1	LPF	3	V-Wah	5	L-Wah																																						
2	C-Wah	4	F-Wah	6	H-Wah																																						
WahDepth	Wah Depth	入力信号のレベルに対するワウ動作の幅を調整します。	－64～00～63																																								
Wah Manu	Wah Manual	ワウ・フィルターの基準となる周波数を設定します。	000～127																																								
Routing	Routing	ディストーションとワウの接続を設定します。	Dist, Wah, Wah-Dist, Dist-Wah																																								
Amp	Amp	アンプのタイプを設定します。 <table><tr><td>0</td><td>Bypass</td><td>5</td><td>FD-DXRv</td><td>10</td><td>FD-TWRV2</td><td>15</td><td>FD-BMAN</td></tr><tr><td>1</td><td>FD-PRNST</td><td>6</td><td>VX-AC3</td><td>11</td><td>SL-SLO</td><td>16</td><td>BASS-STK</td></tr><tr><td>2</td><td>FD-TWRV1</td><td>7</td><td>ML-DC3</td><td>12</td><td>MB-RCTF</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>RL-J12</td><td>8</td><td>MB-MK1</td><td>13</td><td>PV-51-SK</td><td></td><td></td></tr><tr><td>4</td><td>FD-TWD</td><td>9</td><td>MS-STK</td><td>14</td><td>BASS-CMB</td><td></td><td></td></tr></table>	0	Bypass	5	FD-DXRv	10	FD-TWRV2	15	FD-BMAN	1	FD-PRNST	6	VX-AC3	11	SL-SLO	16	BASS-STK	2	FD-TWRV1	7	ML-DC3	12	MB-RCTF			3	RL-J12	8	MB-MK1	13	PV-51-SK			4	FD-TWD	9	MS-STK	14	BASS-CMB			0～16
0	Bypass	5	FD-DXRv	10	FD-TWRV2	15	FD-BMAN																																				
1	FD-PRNST	6	VX-AC3	11	SL-SLO	16	BASS-STK																																				
2	FD-TWRV1	7	ML-DC3	12	MB-RCTF																																						
3	RL-J12	8	MB-MK1	13	PV-51-SK																																						
4	FD-TWD	9	MS-STK	14	BASS-CMB																																						
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127																																								
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127																																								

DSPモジュール		内容	設定範囲
表示	パラメーター名		
②⑦ Drive		楽器アンプのドライブ部分をシミュレートします。	
Type	Drive Type	ドライブのタイプを選択します※4。	1～20
Gain	Gain	ドライブの入力信号のゲインを調整します。	000～127
OutLevel	Level	ドライブの出力レベルを調整します。	000～127
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127
②⑧ Amp Cab		歪みを発生するドライブ部を除いたアンプとスピーカー・キャビネットをシミュレートします。	
Type	Type	アンプ・キャビネットのタイプ※5を選択します。	1～92
Vari	Variation	同じアンプのタイプで設定を変化させたバリエーションを選択します。タイプによってバリエーションの数※5が異なります。	1～4
WetLevel	Wet Level	エフェクト音のレベルを調整します。	000～127
DryLevel	Dry Level	ダイレクト音のレベルを調整します。	000～127

※1 100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1.0kHz、1.3kHz、1.6kHz、2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.3kHz、8.0kHz

※2 50Hz、63Hz、80Hz、100Hz、125Hz、160Hz、200Hz、250Hz、315Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz

※3 2.0kHz、2.5kHz、3.2kHz、4.0kHz、5.0kHz、6.0kHz、8.0kHz、10kHz、13kHz、16kHz

※4

設定範囲	ドライブタイプ	表示	説明
1～4	Clean1～4	Clean1～4	歪みの少ないクリーン・サウンドをシミュレートします。
5～8	Crunch1～4	Crunch1～4	少し歪んだ歯切れのよいクランチサウンドをシミュレートします。
9～12	Overdrive1～4	Overdrv1～4	メローに歪んだオーバードライブサウンドをシミュレートします。
13～16	Distortion1～4	Distort1～4	ハードでストレートなディストーションサウンドをシミュレートします。
17～20	Metal1～4	Metal1～4	ヘビーメタルに適した過激で重量感のあるディストーションサウンドをシミュレートします。

※5 (V = バリエーション数)

設定値	V	表示
1	1	FD-PRNST
2	1	FD-TWRV1
3	1	RL-J12
4	1	FD-TWD
5	1	FD-DXRV
6	1	VX-AC3
7	1	ML-DC3
8	1	MB-MK1
9	1	MS-STK
10	1	FD-TWRV2
11	1	SL-SLO
12	1	MB-RCTF
13	1	PV-51-SK
14	1	BASS-CMB
15	1	FD-BMAN
16	1	BASS-STK
17	3	65-MQ
18	3	AD-MP+CA
19	2	BC-HC30
20	3	BN-SHV
21	3	BN-ECS
22	3	BN-UBR
23	3	CV-LG3
24	2	DR-MZ38

設定値	V	表示
25	2	DZ-V4
26	2	DZ-HA
27	4	EG-TWK
28	3	EG-VEN
29	2	EN-G15
30	1	EN-INV
31	1	EN-BM
32	2	EN-53+DI
33	4	EV-51III
34	3	FD-CHMP
35	3	FD-TWN
36	3	FD-TWRV3
37	2	FU-OD
38	2	GB-LANC
39	3	HK-TM18
40	3	HK-SBL
41	2	KH-STDT
42	3	KR-RV
43	4	LY-IRST
44	3	MB-MK3
45	3	MB-F3+DI
46	1	MB-D5
47	4	MB-DRCT
48	1	MB-TX+.5

設定値	V	表示
49	4	MB-TX+DI
50	4	MS-VS80
51	4	MS-J800
52	2	MS-J2401
53	3	MS-J2000
54	2	MS-J2+MB
55	3	MS-PLX
56	2	MS-J1+DI
57	4	MT-CFT
58	4	OR-O15
59	2	PN-P7
60	3	PR-SE3
61	4	PV-51II
62	4	PV-65MH
63	3	RA-NBK
64	2	RL-J20
65	2	RL-J120
66	2	RV-30
67	4	SA-PS1
68	2	SL-X8
69	2	SL-X9
70	3	SP-1624
71	3	SP-1695
72	3	SU-BGR3

設定値	V	表示
73	2	VH-SP6
74	3	VX-A15
75	2	VX-A15TB
76	3	VX-A30
77	3	VX-A30TB
78	4	YM-DG8
79	2	AC-360
80	2	AP-SV4DI
81	2	EB-C450
82	2	FD-BMNtw
83	2	FD-BMNsV
84	2	FD-BMNBK
85	2	FD-STBAS
86	3	GK-150
87	3	MK-T501
88	3	SW-PB20
89	3	SW-SM50
90	1	RL-CBKB
91	1	LY-3C-AC
92	4	AC-SIM

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	1 ~ 16 1 ~ 16	1 ~ 16 1 ~ 16	
モード	モード3 × *****	モード3 × *****	
ノート ナンバー	0 ~ 127 *****	0 ~ 127 0 ~ 127 *1	
ベロシティ	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 8nH v = 64	○ 9nH v = 1 ~ 127 ○ 8nH v = 0 ~ 127, 9nH v = 0	
アフター タッチ	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド	○	○	
コントロール チェンジ	0, 32 1 5 6, 38 7 10 11 64 65 66 67 71 72	*4 ○○○○○○○○○○○○○○	バンク・レイトLSB, MSB モジュレーション ポリタメント・タイム データ・イベントリーLSB, MSB ポリューム パン エクスプレッション ホルド1 ホルド2 ソフト ソフター フィルタ・レゾナンス リリーズ・タイム
	*2*3 *2*3 *4 *6*3 *2*3 *2*3 *2*3 *3 *2*3 *2*3	○○○○○×○○○○○○○○	

73 74 76 77 78 84 88 91 93 94 100, 101	*2,*3 ○○○○○○ *2,*3 ○○○○○○ *2,*3 ○○○○○○ *5 ○○○○○○ *2 ○○○○○○ *6,*4 ○○○○○○	○○○○○○○○○○○○ *4	アタック・タイム フィルタ・カットオフ リゾナント・レベル エンベロープ・タイム エンベロープ・レベル ポリタメント・コントロール ハイ・レゾナンス・ポジション・ペロシティ・プリアイクス リバーブ・ゼント・レベル コーラス・ゼント・レベル ディレイ・ゼント・レベル RPN LSB, MSB
プログラム・チェンジ 設定可能範囲	○ * * * * *	○ 0 ~ 127	
エクスクルーシブ	○ * 4	○ * 4	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × × ×	× × × ×	
リアル タイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 オール・サウンド・オフ リセット・オール・コントロール ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング システム・リセット	× * 6 × * 6 × × × ○ ×	○ ○ × ○ ○ ○ ×	
備 考	*1: 音色による *2: ノブの設定により出力 *3: ペダルの設定により出力 *4: 送受信対応 RPN, システム・エクスクルーシブ・メッセージの詳細は MIDI Implementation (https://casio.jp/support/emi/) 参照 *5: ノート・オンのみ *6: 一部の操作に付随して出力		

モード1 : オムニ・オン, ポリ
 モード3 : オムニ・オフ, ポリ
 モード2 : オムニ・オン, モノ
 モード4 : オムニ・オフ, モノ
 ○ : あり
 × : なし

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

PXS3000-JA-3C

MA2204-C

© 2019 CASIO COMPUTER CO., LTD.